

生涯学習市民アンケート 調査報告書...



鎌ヶ谷市教育委員会 生涯学習部 生涯学習推進課 企画調整係
電話：047-446-2112 FAX：047-446-6633
E-MAIL: syougakukikaku@city.kamagaya.chiba.jp



生涯学習市民アンケート調査報告書 ～目次～

I. 調査の概要

II. 回答者の属性

III. 生涯学習に対する考え方について

- 問1. 生涯にわたって学習を続ける必要があるという考え方についてどのように思いますか。 … 7
- 問2. 生涯学習が必要だと思う理由をお選びください。 … 9

IV. 生涯学習の現状について

- 問3. この1年くらいの間に、どのような方法で生涯学習活動をしましたか。 … 11
- 問4. 生涯学習を通じて人付き合いや生活に変化はありましたか。 … 13
- 問5. 生涯学習を通じて身に着けた知識や技能、経験を活かしていますか。 … 15
- 問6. どのように活かしていますか、また活かしたいと思いませんか。 … 17
- 問7. ご自分の持っている知識や技能、経験を活かそうと思わない理由は何ですか。 … 19
- 問8. 生涯学習活動をしていない理由は何ですか。 … 21
- 問9. 現在、生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。 … 23
- 問10. この1年くらいの間に下記の生涯学習施設を利用したことがありますか。施設名と施設の満足度、その理由を選んでください。 … 25

V. 生涯学習への今後の意向について

- 問11. 今後、どのような生涯学習活動がしたいですか。 … 33
- 問12. 生涯学習に関するどのような情報が知りたいですか。 … 35
- 問13. 生涯学習で身に着けた知識や技術、経験を活かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。 … 37

VI. 生涯学習を通じた地域づくりや子どもたちのことについて

- 問14. あなたがお住いの地域にはどのような課題があると考えますか。 … 39
- 問15. 生涯学習を通して地域やまちづくりのリーダー（人材）を育成していくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。 … 43
- 問16. 放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動（文化・スポーツ活動、レクリエーション等）をするには、どの場所がふさわしいと思いませんか。 … 45
- 問17. 地域、学校、家庭が連携し、子どもの学びや成長を支援することで、期待できる効果はどのようなことだと思いますか。 … 47
- 問18. 公民館は地域住民の身近な生涯学習施設です。これからの公民館がどうあってほしいと思いませんか。 … 49
- 問19. 今後、生涯学習をもっと盛んにしていくために鎌ヶ谷市はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。 … 53

Ⅰ. 調査の概要

1. 調査の目的

高齢化を伴う人口減少や個人の価値観・ライフスタイルが多様化し、急速な社会変化がみられる現在において、学習活動により社会活力を維持・増進し、地域の課題解決や地域づくりの人材育成が一層求められています。

鎌ヶ谷市においても、「緑とふれあいのあるふるさと鎌ヶ谷」を実現し、社会課題に対応するため、第4次生涯学習推進基本計画を定めることとし、計画策定の基礎資料とするため、生涯学習市民アンケートを実施したものです。

2 調査項目

- (1) 生涯学習に対する考え方について
- (2) 生涯学習の現状について
- (3) 生涯学習への今後の意向について
- (4) 生涯学習を通じた地域づくりや子どもたちのことについて
- (5) 属性（性別、年齢、職業、居住地区）

3 調査設計

- (1) 調査対象 市内在住の満18歳以上の男女 1,000人
- (2) 抽出方法 住民基本台帳から、性別・年代別に無作為に抽出（外国人も含む）
18～29歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上の6区分から男女均等抽出。18歳～29歳の男女は各85人とし、そのほかの年代は男女各83人ずつとします。
- (3) 調査方法 郵送による配布と回収（各公民館に直接持参でも可）
- (4) 調査期間 平成30年7月18日（水）～8月12日（日）

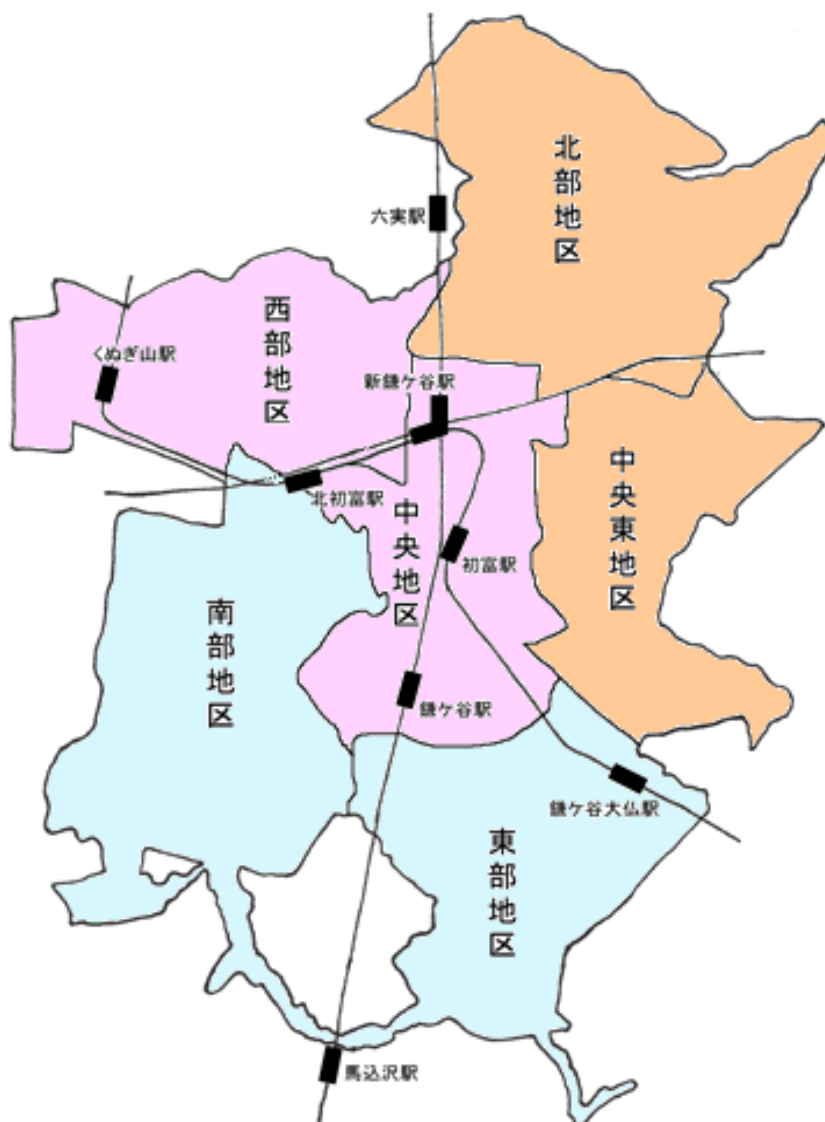
4 回収結果

回収数（回収率） 372（37.2%）

5 報告書の見方

- (1) 図中に示した数値は百分比（%）で示してあります。これらの数値は、少数点第2位を四捨五入しているため、全項目の回答比率の合計が100%とならない場合があります。
- (2) 複数の回答を求めた質問では、回答比率が100%を超えることもあります。
- (3) 報告書の図表では、コンピューター入力の都合上、回答選択肢の表現を省略している場合もあります。

6 地区割の状況について



中央地区	中央、富岡、道野辺中央、道野辺本町、初富本町、南初富4丁目～6丁目、初富（928～931番地）右京塚、新鎌ヶ谷	中央東地区	東鎌ヶ谷、東初富、南初富1丁目～3丁目 初富（700～927番地）
東部地区	丸山、鎌ヶ谷、南鎌ヶ谷、東道野辺2丁目～7丁目	南部地区	東道野辺1丁目、西道野辺、馬込沢、道野辺中沢、東中沢、北中沢、中沢新町
西部地区	くぬぎ山、串崎新田、北初富 栗野（426～538番地）佐津間（1300番～）、初富（1～399番地・1300番地～）	北部地区	佐津間（1～1299番地）中佐津間、西佐津間、南佐津間、軽井沢 栗野（1～425番地・539番地～）

7 町丁別人口・世帯数

(平成30年6月1日現在)

◆中央地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
道野辺中央一丁目	471	494	965	461
道野辺中央二丁目	254	252	506	250
道野辺中央三丁目	605	603	1,208	553
道野辺中央四丁目	589	626	1,215	603
道野辺中央五丁目	266	282	548	222
道野辺本町一丁目	657	710	1,367	647
道野辺本町二丁目	638	713	1,351	652
南初富四丁目	1,124	1,139	2,263	960
南初富五丁目	695	721	1,416	609
南初富六丁目	520	553	1,073	448
右京塚	558	591	1,149	535
中央一丁目	340	342	682	334
中央二丁目	694	706	1,400	646
富岡一丁目	381	333	714	343
富岡二丁目	694	718	1,412	670
富岡三丁目	506	492	998	390
初富本町一丁目	856	850	1,706	791
初富本町二丁目	568	567	1,135	477
新鎌ヶ谷一丁目	662	857	1,519	878
新鎌ヶ谷二丁目	296	339	635	362
新鎌ヶ谷三丁目	768	876	1,644	599
新鎌ヶ谷四丁目	367	393	760	357
合計	12,509	13,157	25,666	11,787

◆中央東地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
東鎌ヶ谷一丁目	419	405	824	356
東鎌ヶ谷二丁目	1,067	1,066	2,133	1,017
東鎌ヶ谷三丁目	744	769	1,513	697
南初富一丁目	940	942	1,882	791
南初富二丁目	970	925	1,895	754
南初富三丁目	823	801	1,624	681
東初富一丁目	494	508	1,002	434
東初富二丁目	538	572	1,110	455
東初富三丁目	1,016	989	2,005	815
東初富四丁目	526	557	1,083	492
東初富五丁目	858	914	1,772	800
東初富六丁目	263	259	522	249
合計	8,658	8,707	17,365	7,541

◆東部地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
丸山一丁目	729	746	1,475	721
丸山二丁目	672	669	1,341	561
丸山三丁目	510	524	1,034	479
鎌ヶ谷一丁目	496	538	1,034	509
鎌ヶ谷二丁目	921	972	1,893	810
鎌ヶ谷三丁目	628	640	1,268	530
鎌ヶ谷四丁目	461	479	940	418
鎌ヶ谷五丁目	652	676	1,328	615
鎌ヶ谷六丁目	252	265	517	239
鎌ヶ谷七丁目	833	839	1,672	701
鎌ヶ谷八丁目	467	479	946	413
鎌ヶ谷九丁目	762	742	1,504	653

住 所	男	女	総 数	世帯数
南鎌ヶ谷一丁目	6 2 8	6 2 9	1, 2 5 7	5 6 1
南鎌ヶ谷二丁目	4 9 6	4 2 9	9 2 5	4 0 0
南鎌ヶ谷三丁目	2 7 7	2 7 4	5 5 1	2 4 9
南鎌ヶ谷四丁目	6 9 4	6 4 8	1, 3 4 2	5 8 3
東道野辺二丁目	4 9 5	5 1 8	1, 0 1 3	4 2 4
東道野辺三丁目	8 5 1	8 8 9	1, 7 4 0	7 0 9
東道野辺四丁目	9 0 7	9 4 7	1, 8 5 4	7 4 8
東道野辺五丁目	4 9 2	4 7 6	9 6 8	4 2 1
東道野辺六丁目	4 8 4	5 0 4	9 8 8	4 3 5
東道野辺七丁目	7 4 2	7 6 0	1, 5 0 2	6 9 0
合計	1 3, 4 4 9	1 3, 6 4 3	2 7, 0 9 2	1 1, 8 6 9

◆南部地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
道野辺	4 3 9	4 6 9	9 0 8	4 1 0
東道野辺一丁目	1 8 8	2 0 7	3 9 5	1 7 7
西道野辺	1, 4 5 4	1, 6 1 7	3, 0 7 1	1, 5 6 4
馬込沢	3 6 3	3 4 4	7 0 7	3 4 9
中沢	4 8 5	3 9 8	8 8 3	3 8 1
東中沢一丁目	8 7 2	8 5 4	1, 7 2 6	7 4 3
東中沢二丁目	1, 8 1 6	1, 8 6 0	3, 6 7 6	1, 5 9 2
東中沢三丁目	1, 1 0 7	1, 1 3 7	2, 2 4 4	8 9 6
東中沢四丁目	5 8 4	6 2 5	1, 2 0 9	5 2 0
北中沢一丁目	7 6 3	7 8 5	1, 5 4 8	6 3 7
北中沢二丁目	1, 1 1 9	1, 1 3 3	2, 2 5 2	9 3 3
北中沢三丁目	5 0 8	4 6 4	9 7 2	4 6 0
中沢新町	4 0 6	4 3 6	8 4 2	3 4 2
合計	1 0, 1 0 4	1 0, 3 2 9	2 0, 4 3 3	9, 0 0 4

◆西部地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
くぬぎ山一丁目	7 2 1	7 3 4	1, 4 5 5	6 4 4
くぬぎ山二丁目	7 6 3	7 5 5	1, 5 1 8	7 1 6
くぬぎ山三丁目	6 0 7	5 9 2	1, 1 9 9	5 4 3
くぬぎ山四丁目	5 7 6	5 6 1	1, 1 3 7	5 7 0
くぬぎ山五丁目	4 3 7	3 5 7	7 9 4	3 5 9
北初富	4 0 2	4 2 6	8 2 8	4 3 9
串崎新田	3 4	3 1	6 5	2 5
合計	3, 5 4 0	3, 4 5 6	6, 9 9 6	3, 2 9 6

◆北部地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
中佐津間一丁目	5 5 8	5 3 9	1, 0 9 7	4 4 5
中佐津間二丁目	4 1 2	4 1 5	8 2 7	3 5 1
西佐津間一丁目	6 9 7	6 6 6	1, 3 6 3	6 4 0
西佐津間二丁目	5 9 0	6 2 9	1, 2 1 9	5 2 3
南佐津間	3 3 6	3 2 1	6 5 7	2 9 3
軽井沢	3 4 7	2 7 0	6 1 7	2 8 5
合計	2, 9 4 0	2, 8 4 0	5, 7 8 0	2, 5 3 7

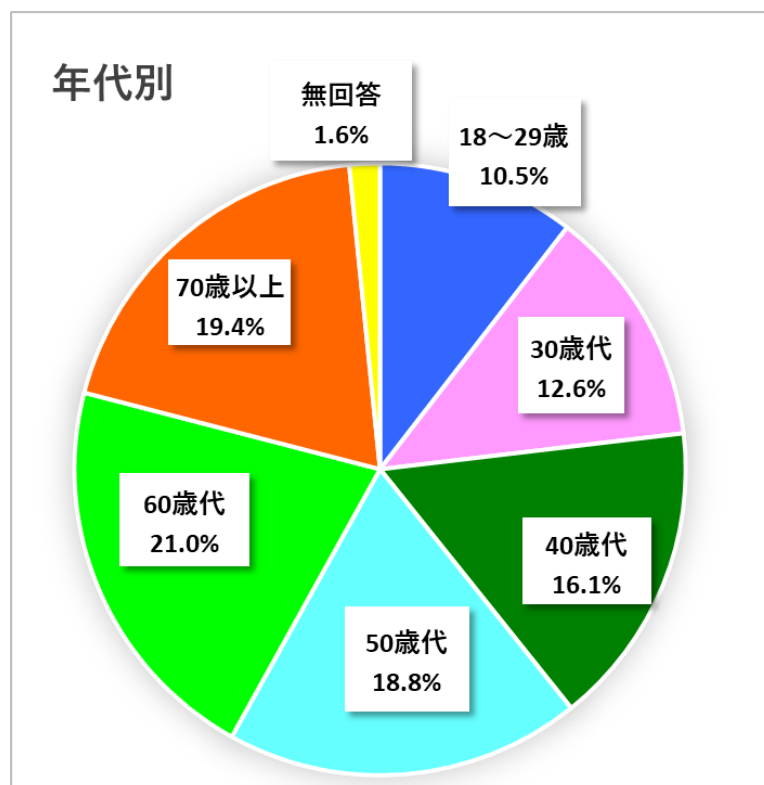
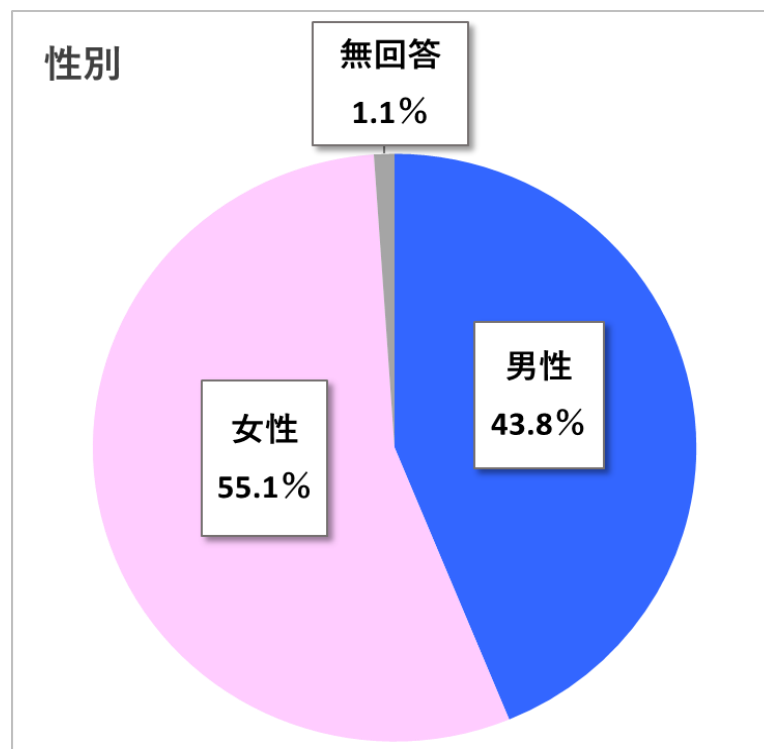
◆中央地区、中央東地区、西部地区

住 所	男	女	総 数	世帯数
初富	1, 9 2 8	2, 0 5 2	3, 9 8 0	1, 7 2 7

◆西部地区、北部地区

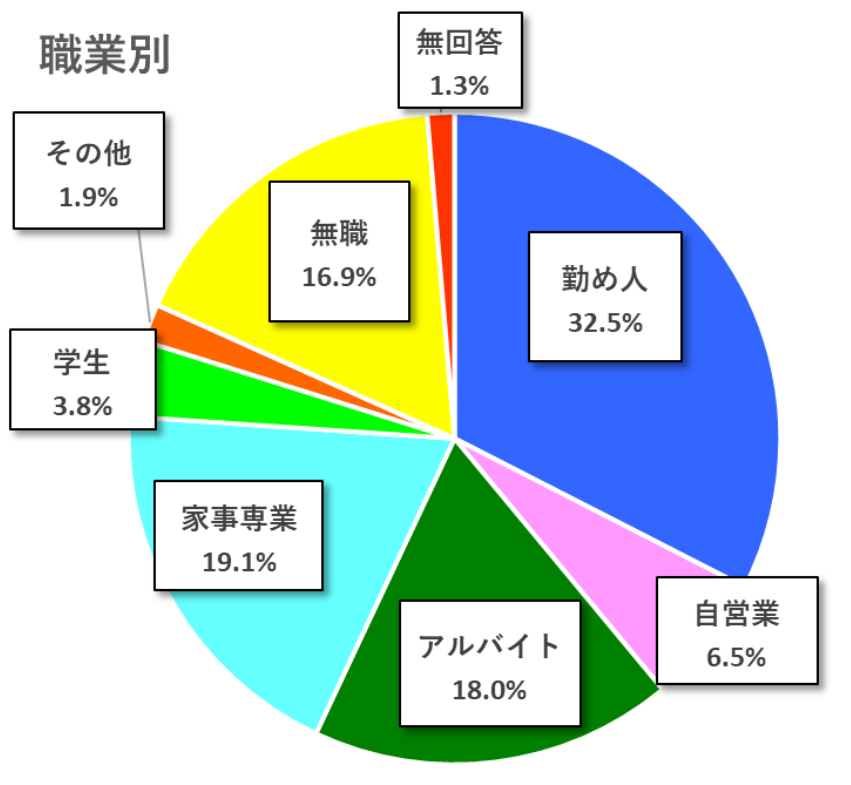
住 所	男	女	総 数	世帯数
粟野	9 3 2	9 5 6	1, 8 8 8	8 5 4
佐津間	3 2 3	3 0 7	6 3 0	3 1 4

II. 回答者の属性



項目	18~29歳	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	合計	市内人口
男性	16	15	23	32	37	39	1	163	54,383
女性	23	32	37	38	41	33	1	205	55,447
無回答	0	0	0	0	0	0	4	4	
合計	39	47	60	70	78	72	6	372	109,830

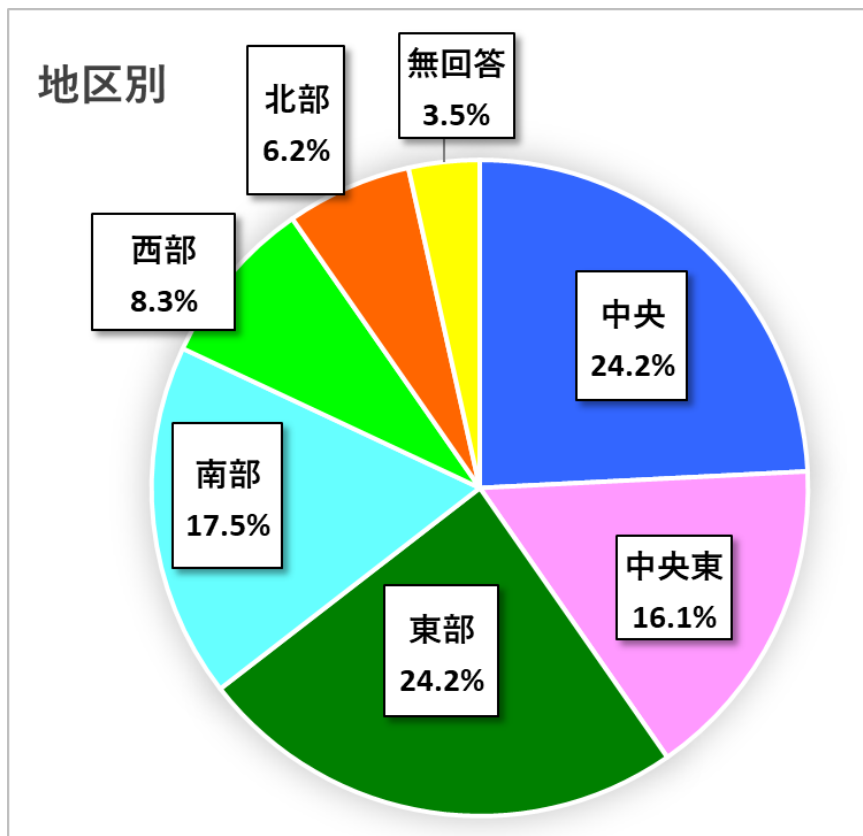
職業別



項目	回答者数	構成比
勤め人	121	32.5%
自営業	24	6.5%
アルバイト・パート	67	18.0%
家事専業	71	19.1%
学生	14	3.8%
その他	7	1.9%
無職	63	16.9%
無回答	5	1.3%
合計	372	100%



地区別



項目	回答者数	構成比
中央	90	24.2%
中央東	60	16.1%
東部	90	24.2%
南部	65	17.5%
西部	31	8.3%
北部	23	6.2%
無回答	13	3.5%
合計	372	100%

Ⅲ. 生涯学習に対する考え方について

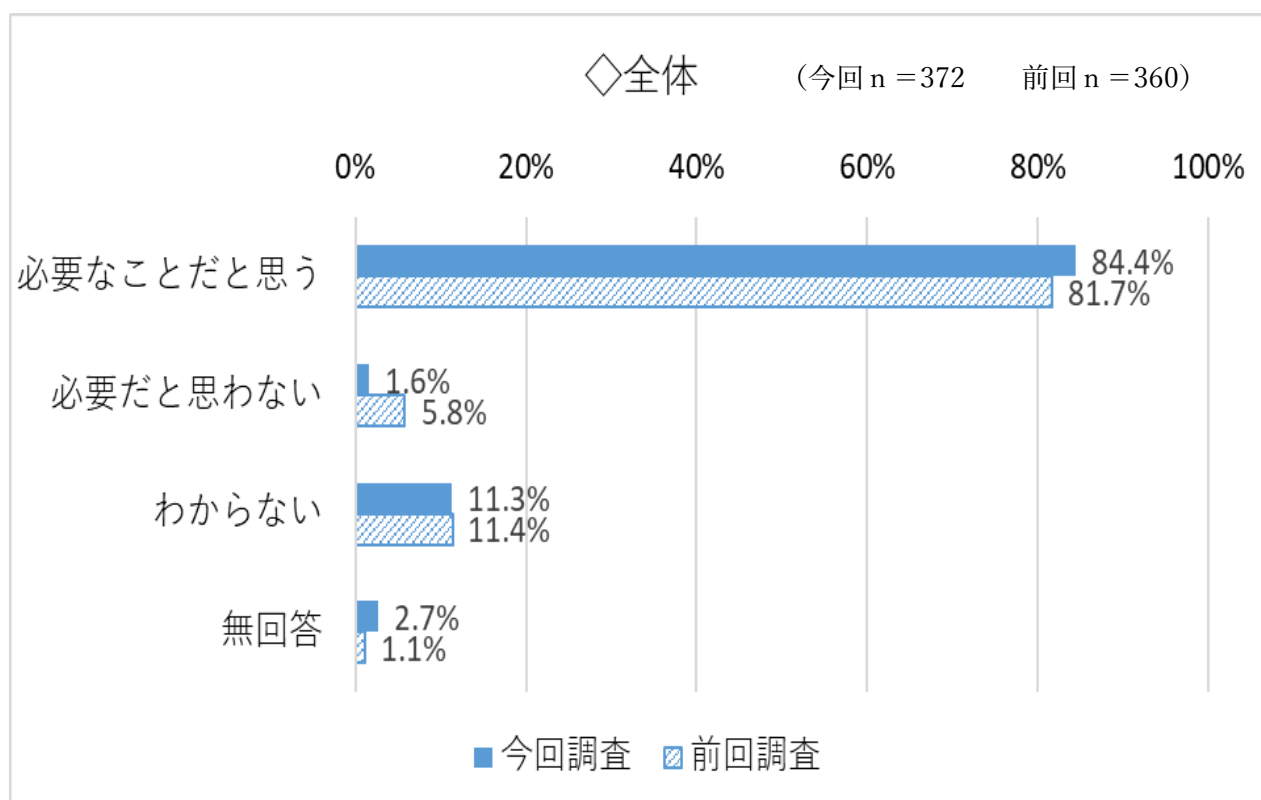
【問1】 あなたは、生涯にわたって学習を続ける必要があるという考え方についてどのように思いますか。

「必要なことだと思う」(84.4%)との回答は、前回調査より2.7ポイント高くなりました。

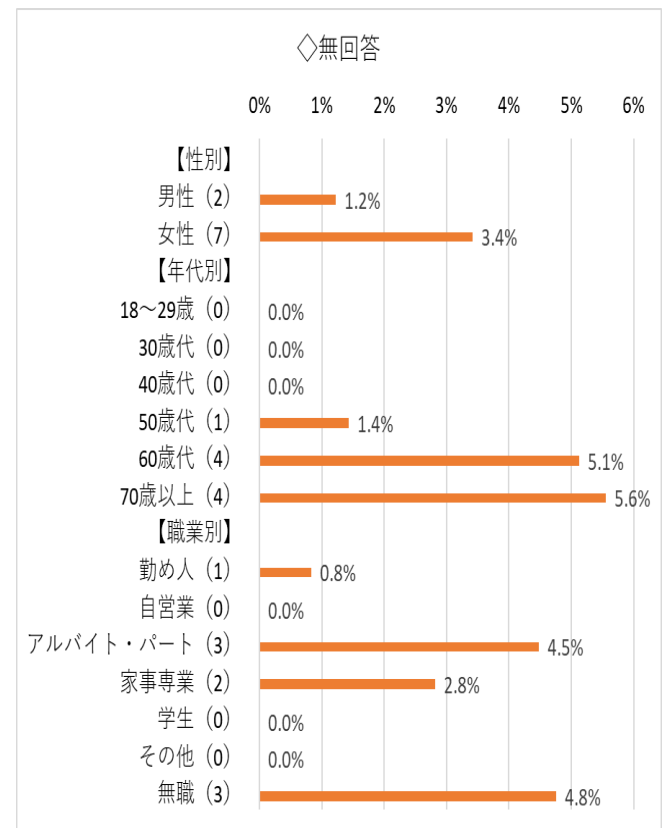
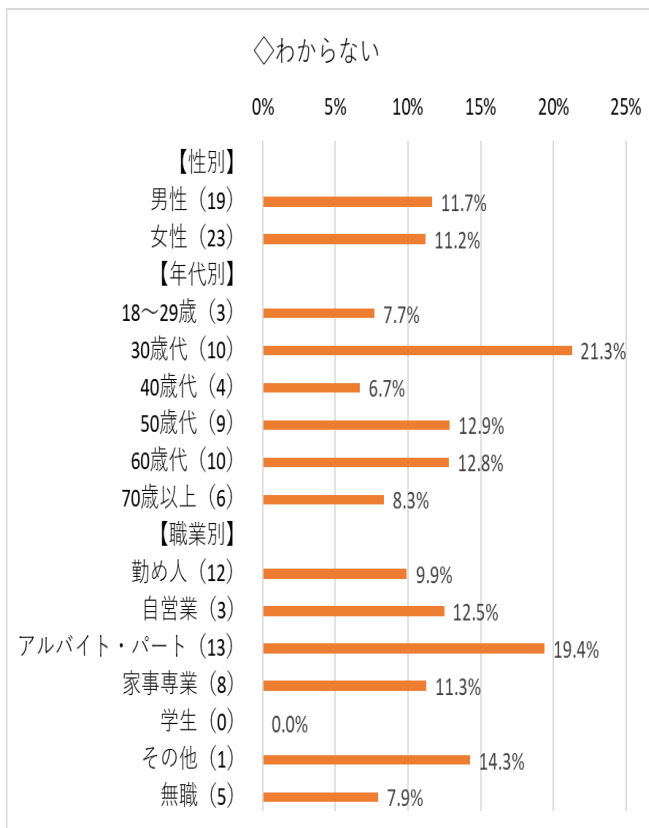
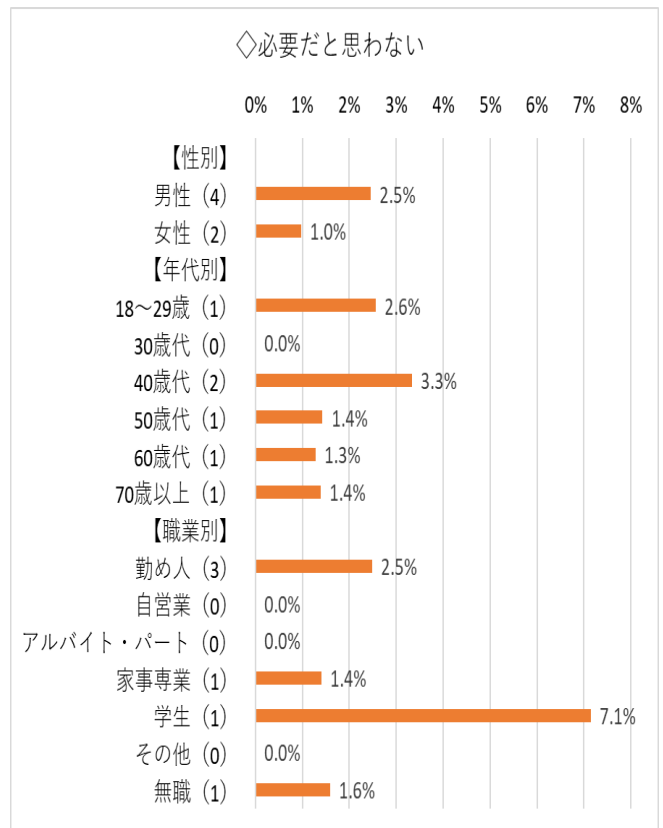
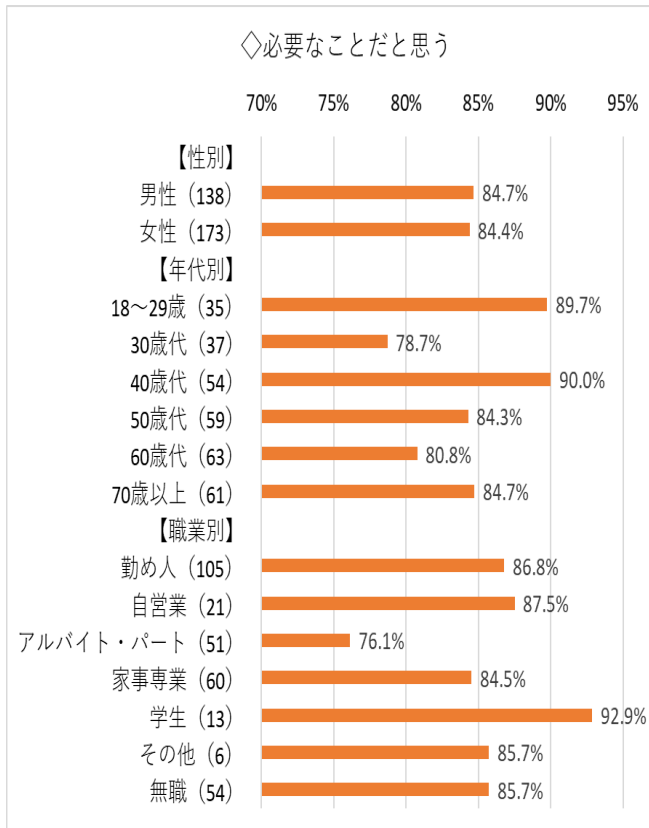
年代別で見ると、「40歳代」(90.0%)、「18歳～29歳」(89.7%)と高く、最も低い「30歳代」でも78.7%と高い数値となりました。

職業別にみると、「学生」(92.9%)、「自営業」(87.5%)、「勤め人」(86.8%)の順に高く、最も低い「アルバイト・パート」でも76.1%と高い数値となっており、生涯学習の必要性に対する市民の意識はかなり高い結果となりました。

また、「必要だと思わない」(1.6%)との回答は、前回調査より4.2ポイント低くなり、生涯学習への理解が浸透してきているものといえます。



《項目別集計＊性別・年代別・職業別》



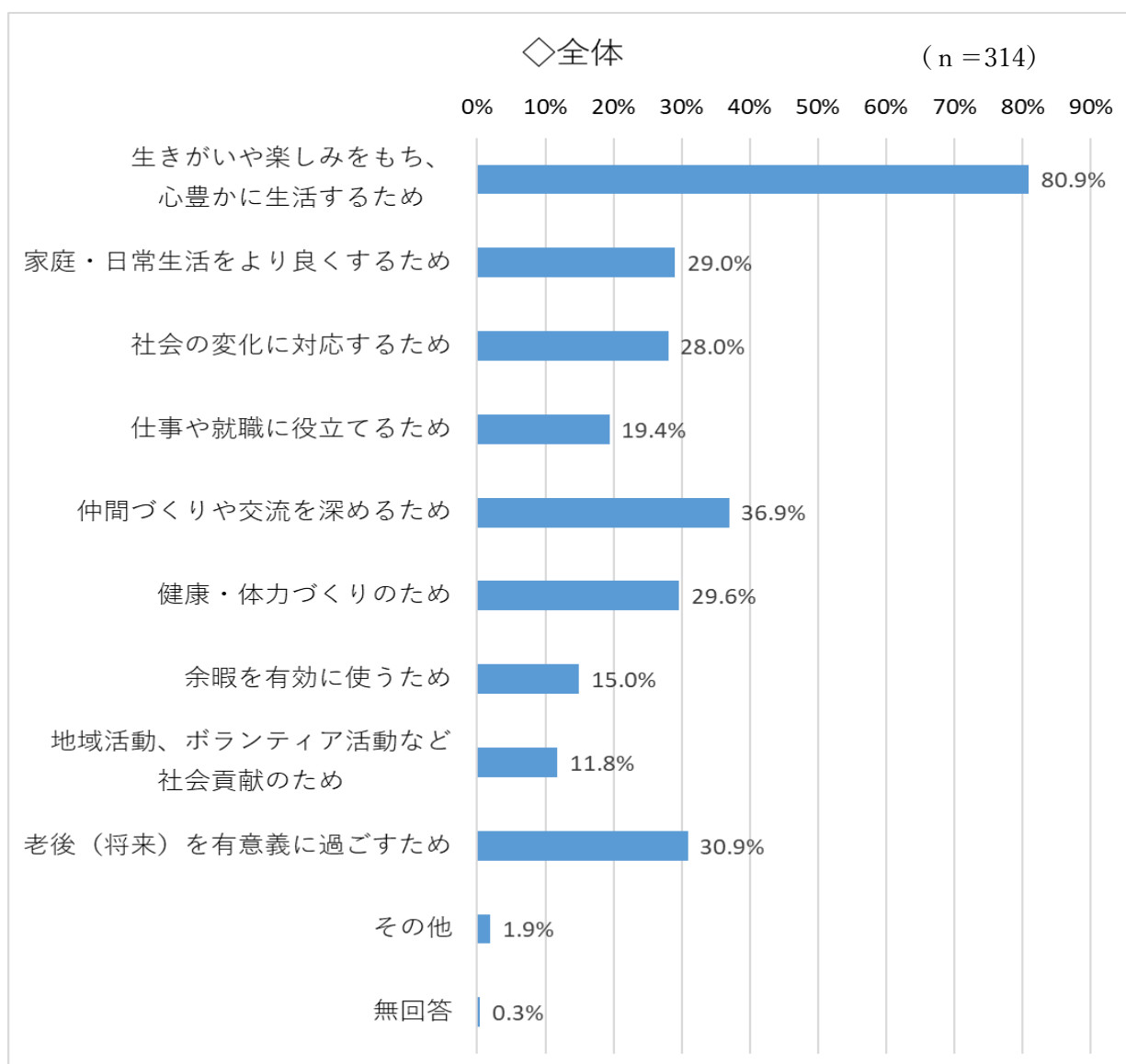
問1で「必要なことだと思う」と回答した方にうかがいます。

【問2】 生涯学習が必要だと思う理由をお選びください。（3つ以内）

「生きがいや楽しみをもち、心豊かに生活するため」（80.9%）が圧倒的に高く、「仲間づくりや交流を深めるため」（36.9%）、「老後（将来）を有意義に過ごすため」（30.9%）の順となり、前回の調査同様に生涯学習によって自らの人生の充実・向上を期待する割合が高いといえます。

「生きがいや楽しみをもち、心豊かに生活するため」との回答は、全ての年代・職業においても最も高い数値となりました。

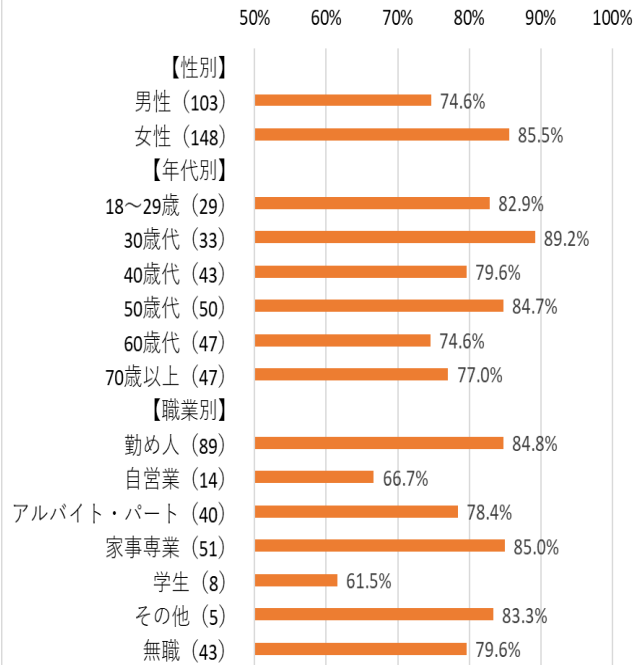
一方、「地域活動、ボランティア活動などの社会貢献のため」と回答した割合は11.8%と最も低く、これからの生涯学習は、自らの人生を豊かにする手段だけではなく、自分の住む地域がより良くなっていくよう地域社会に参画し、助け合っていくことが求められているということも発信していく必要があります。



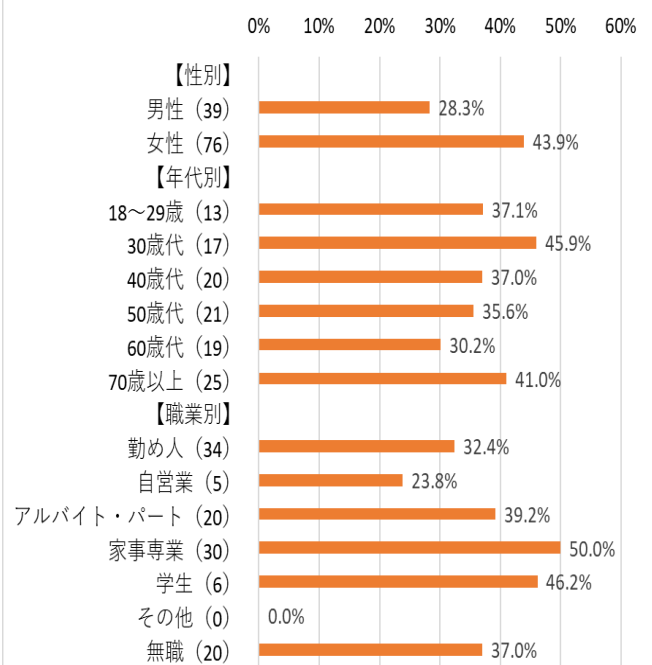
《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》



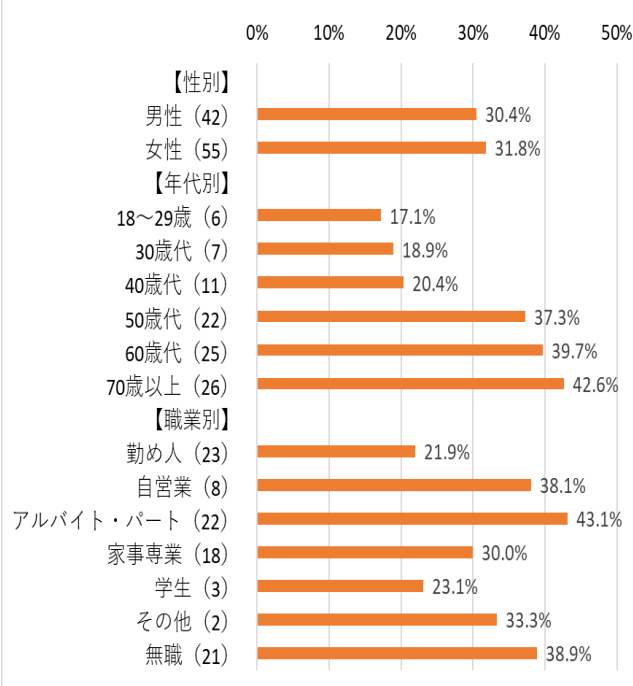
◇生きがいや楽しみをもち、心豊かに生活するため



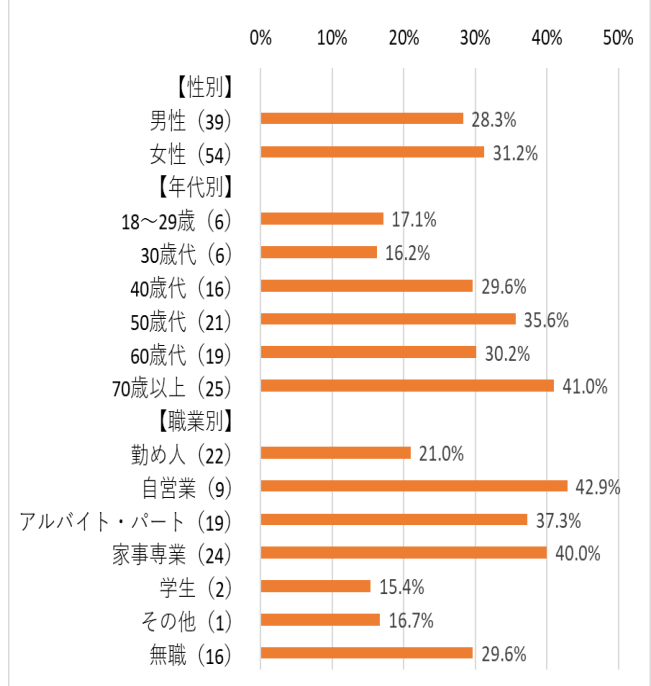
◇仲間づくりや交流を深めるため



◇老後（将来）を有意義に過ごすため



◇健康・体力づくりのため



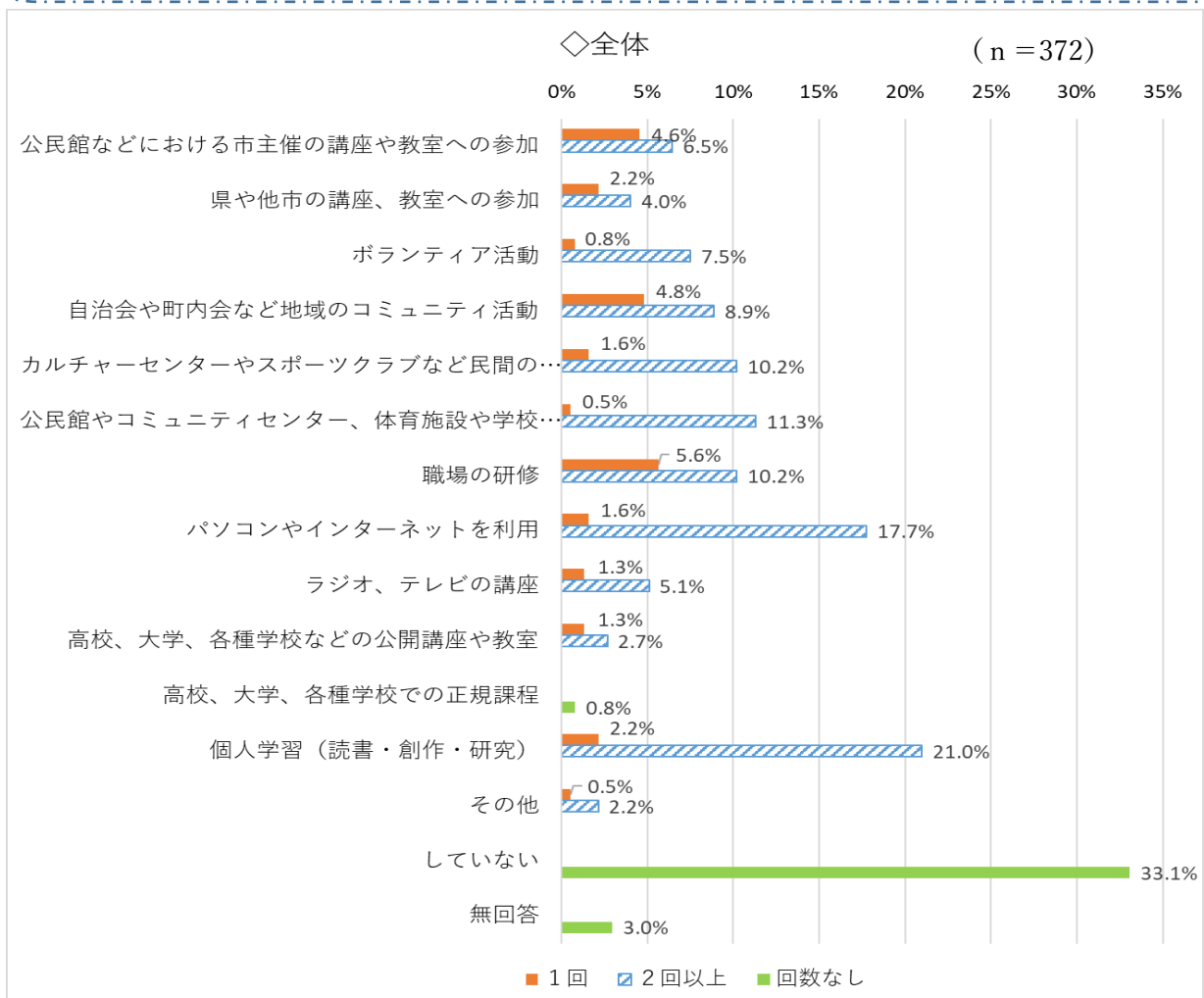
IV. 生涯学習の現状について

【問3】 あなたはこの1年くらいの間に、どのような方法で生涯学習活動をしましたか。あてはまる項目と回数に✓をつけてください。（複数回答可）

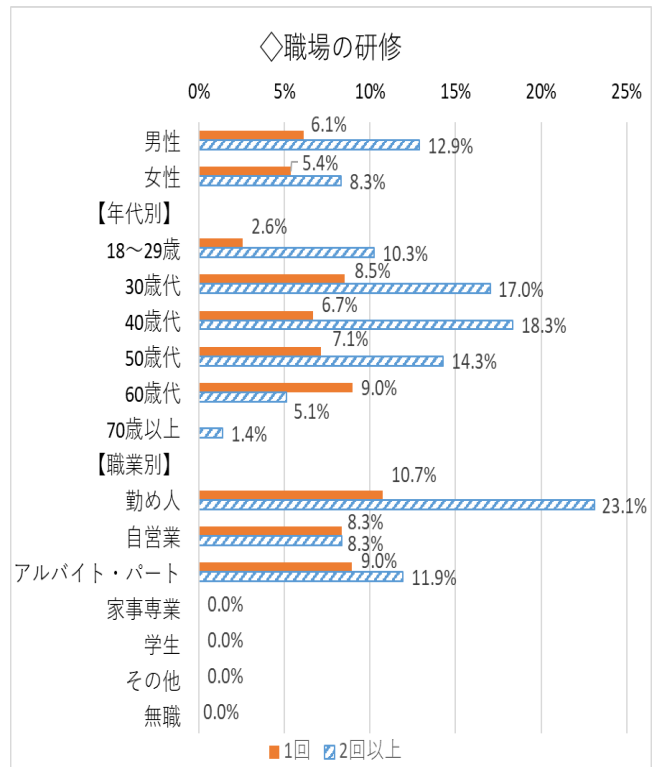
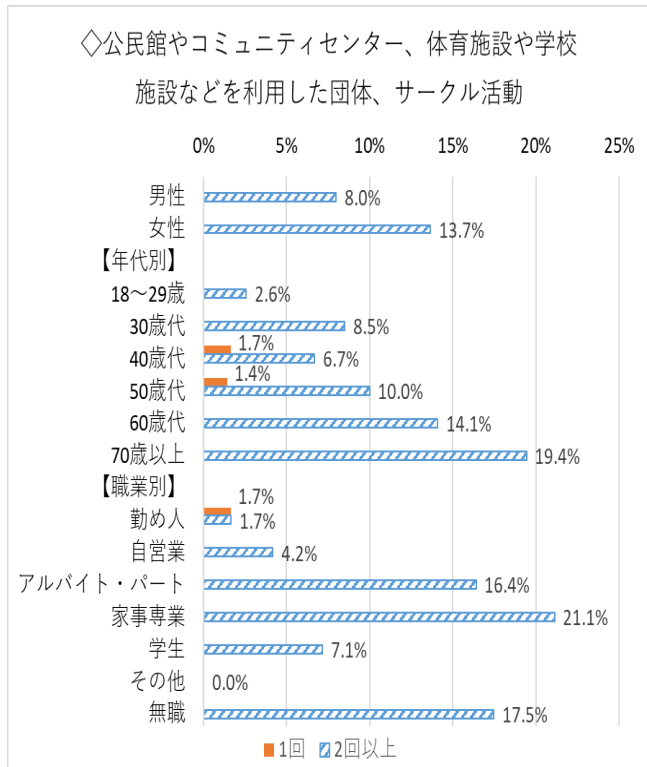
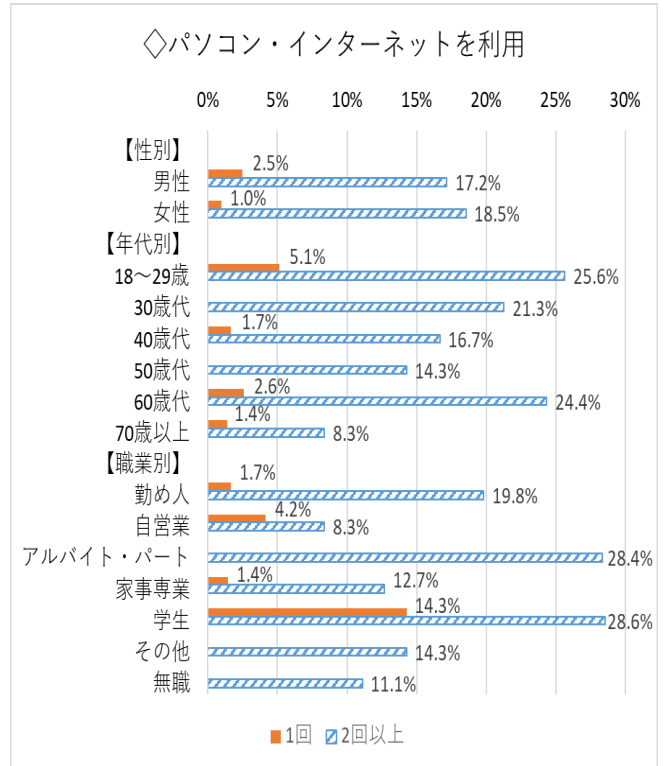
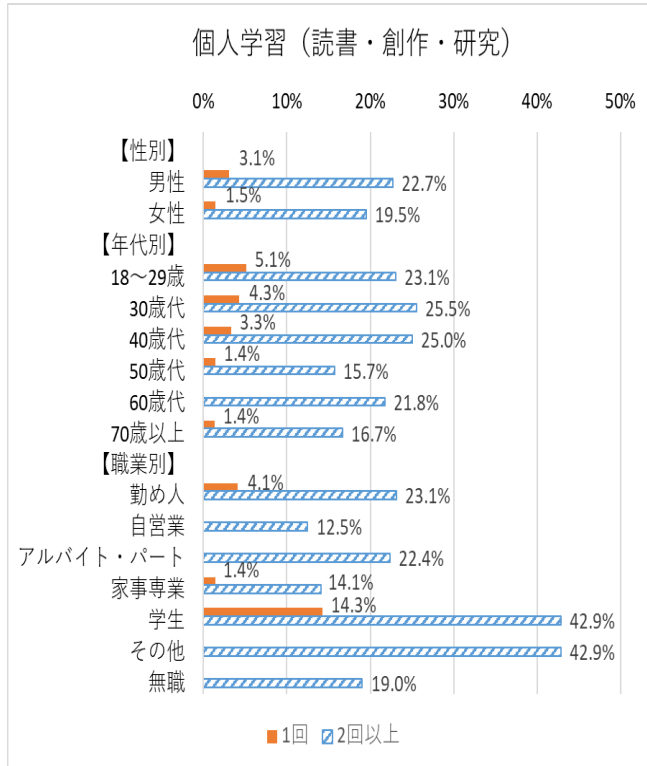
「個人学習」(①2.2%、②21.0%)、「パソコンやインターネットを利用」(①1.6%、②17.7%)の順となり、内閣府による「生涯学習に関する世論調査」(平成30年8月)においても、「インターネット」「職場の教育・研修」「自宅での学習活動(書籍など)」の順に高く、上位項目は同様の傾向となりました。また、生涯学習をしている人はどの項目においても「2回以上」との回答が多く、継続して活動をしている人が多いことがわかります。

年代別にみると、70歳以上を除く世代では、「個人学習」、「パソコン・インターネットを利用」など個人でできる学習割合が高く、70歳以上では、地域の施設などを利用したサークルや団体での学習割合が高くなりました。

一方、「していない」と回答した割合は33.1%ですが、生涯学習の必要性については、8割以上の方が「必要なことだと思う」と回答していることから、学習活動をしていない人も、その必要性を感じている人は多く、今後どのように生涯学習活動につなげていけるかが課題となります。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》



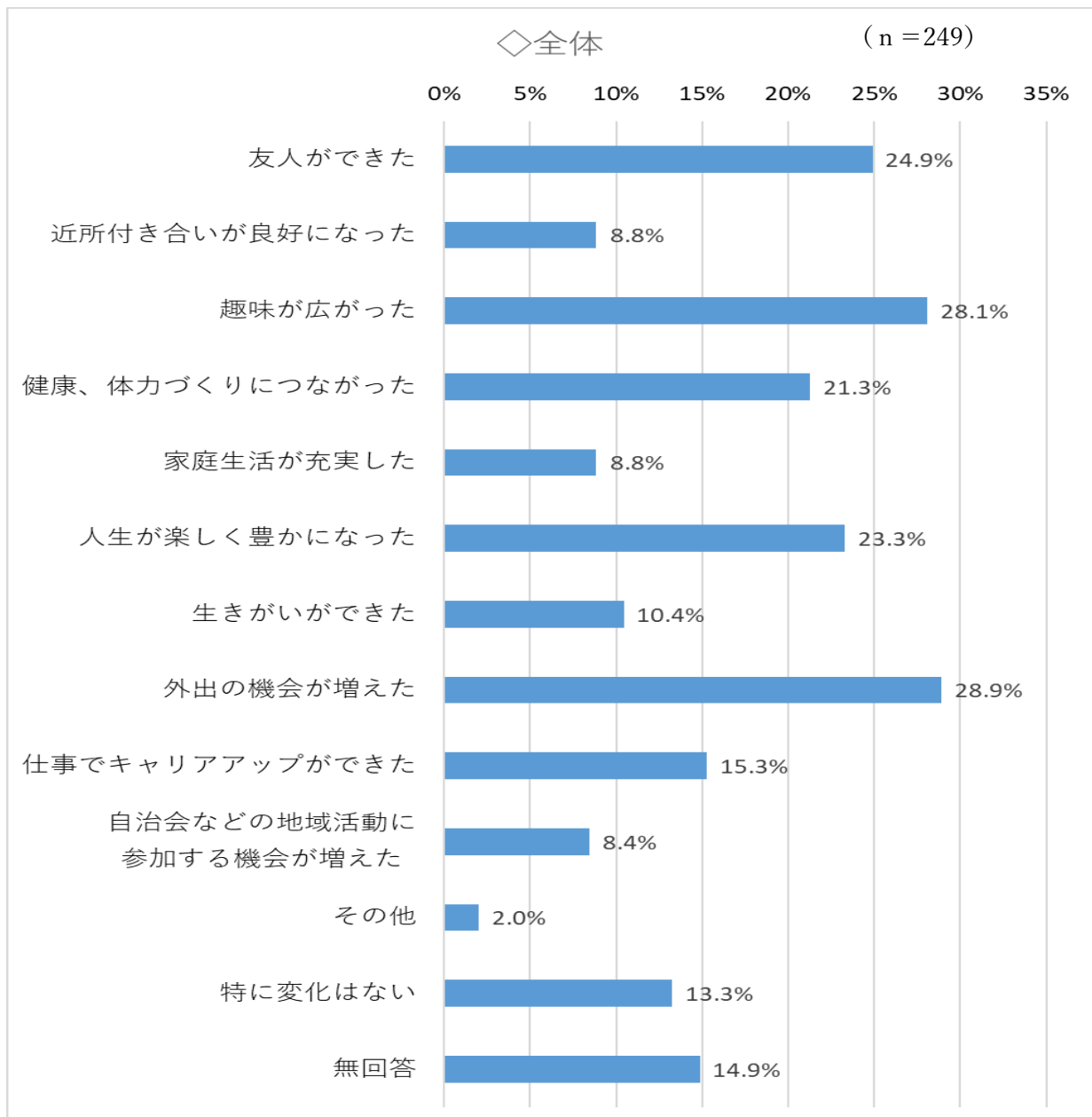
問3で「していない」以外に○をつけた方にうかがいます。

【問4】 生涯学習を通じて人付き合いや生活に変化はありましたか。（複数回答可）

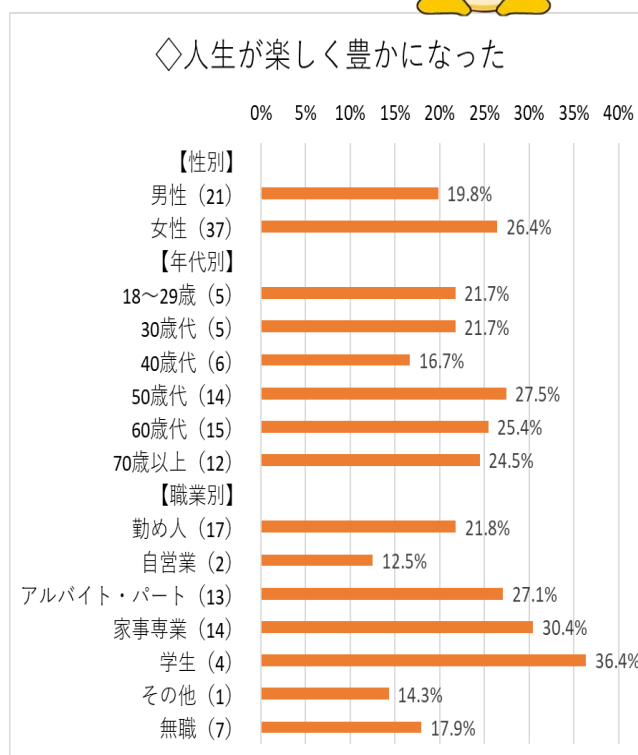
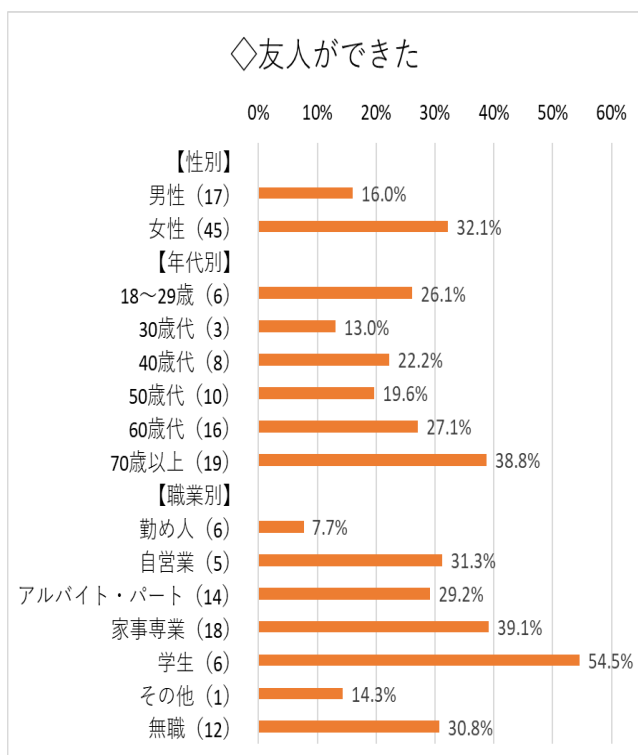
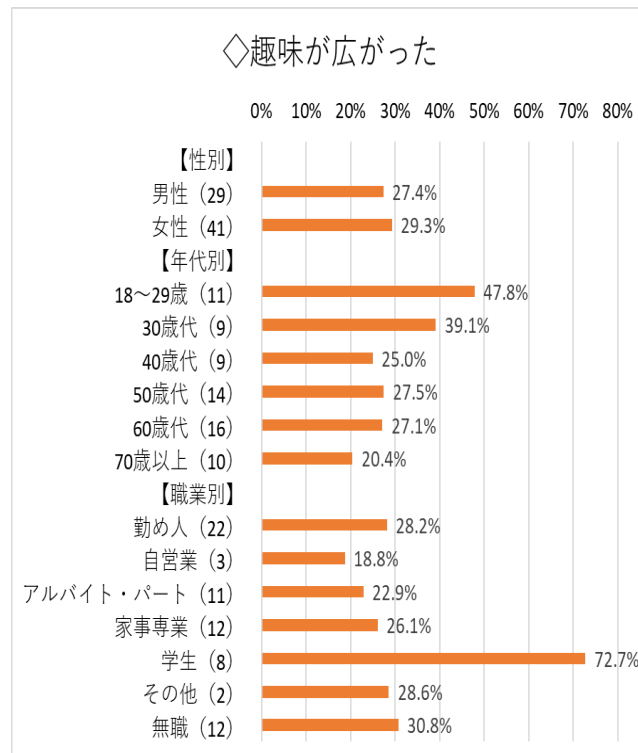
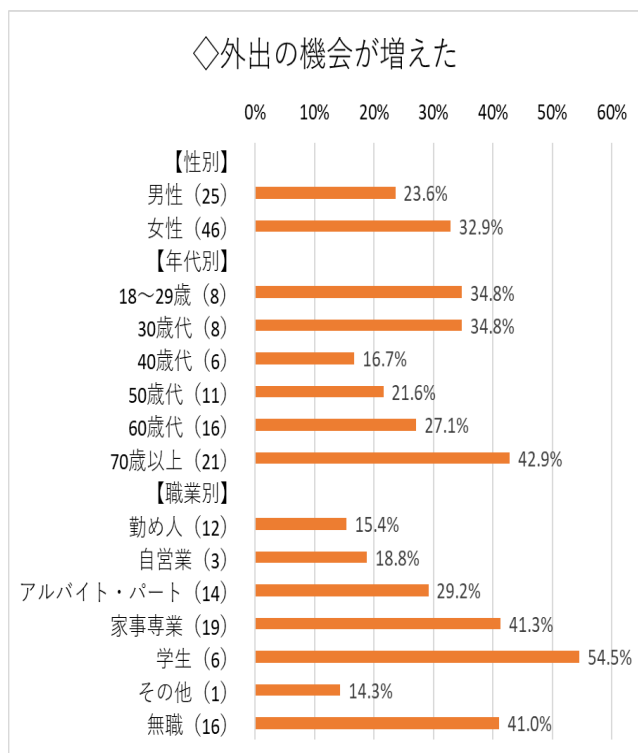
「外出の機会が増えた」（28.9%）、「趣味が広がった」（28.1%）、「友人ができた」（24.9%）の順となりました。学習活動を通じて生活の幅が広がり、ネットワークの形成など人生にプラスの効果を及ぼしているほか、経済的な効果も期待でき、学習活動が経済活動にも寄与していることも考えられます。

年代別にみると、「外出の機会が増えた」、「友人ができた」と回答した割合は、70歳以上が他の年代に比べ高くなっており、学習活動が社会とつながる役割を担っていることがうかがえます。

一方、「自治会などの地域活動に参加する機会が増えた」と回答した割合は8.4%に留まり、今後自治会や地域活動への参加意欲を高めるための取り組みが課題となります。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》



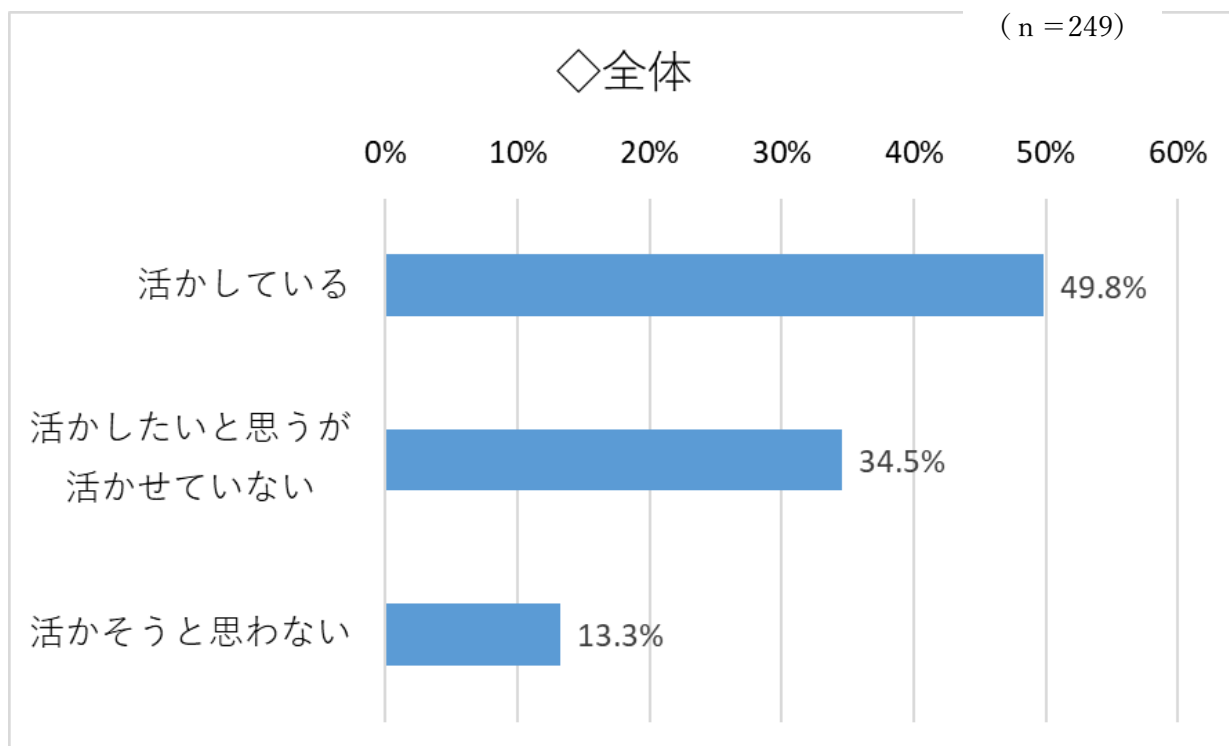
【問5】 あなたは、生涯学習を通じて身に着けた知識や技能、経験を活かしていますか。



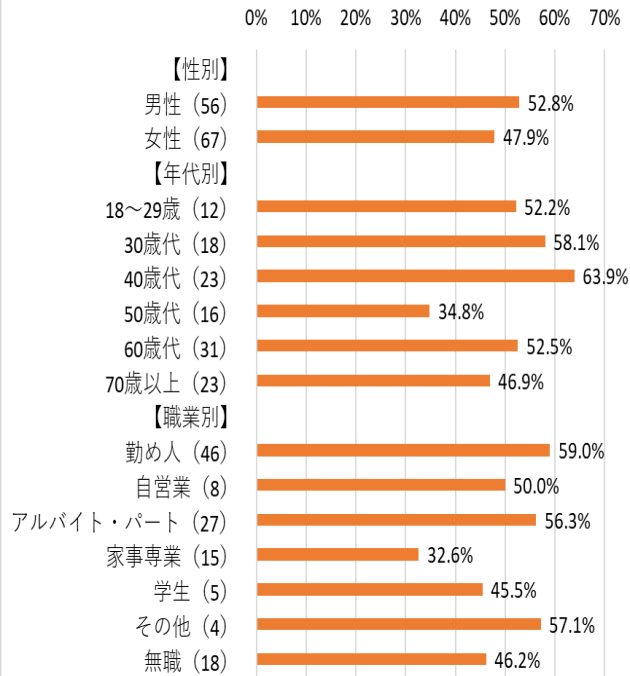
「活かしている」(49.8%)、「活かしたいと思うが活かせていない」(34.5%)となり、活かしている、活かしたいと思っている人が8割以上と高い結果となりました。今後、活かしたいが活かせていない人への活かすきっかけづくりが課題となります。

年代別でみると、「活かしたいと思うが活かせていない」と回答した割合は、50歳代で52.2%、18～29歳で47.8%と高くなりました。

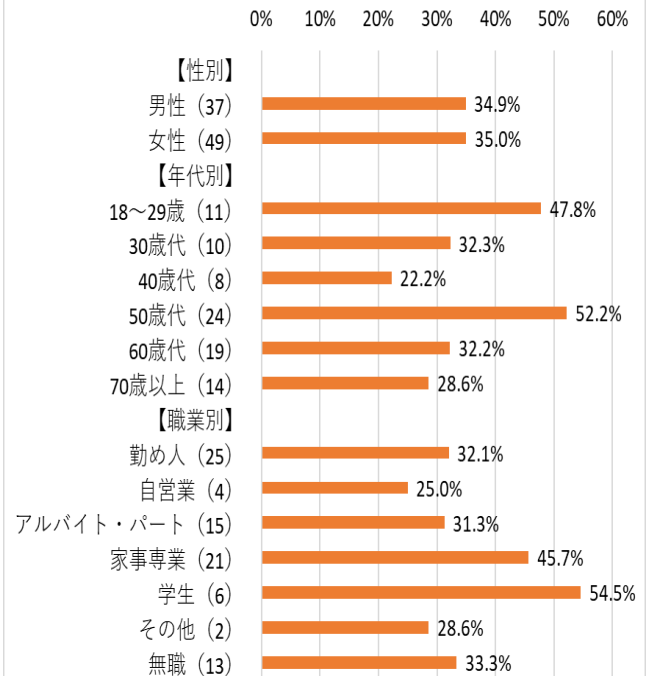
職業別にみると、「活かしたいと思うが活かせていない」と回答した割合は、学生で54.5%、家事専業で45.7%と高くなっており、「活かしたい」と思っている人が、学んだ成果を活かせるような活用や交流機会の創出、人材情報の把握・提供などの取り組みが必要です。



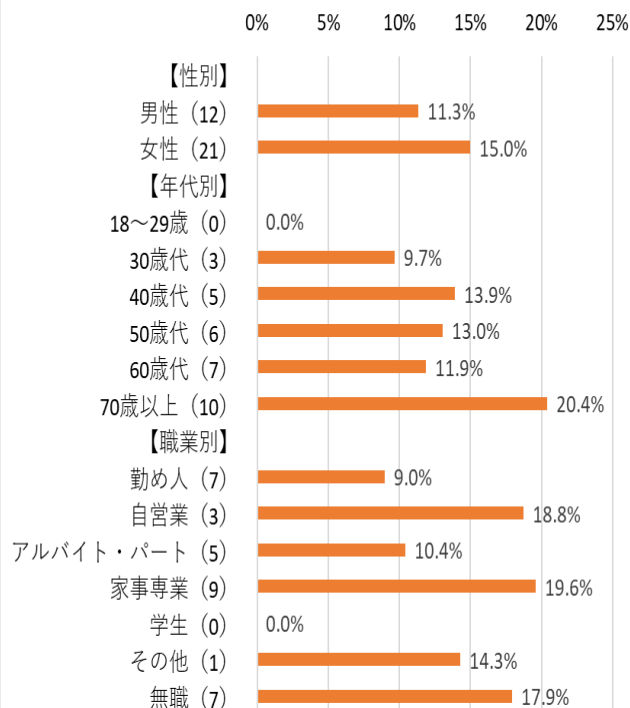
◇活かしている



◇活かしたいと思うが活かせていない



◇活かそうと思わない



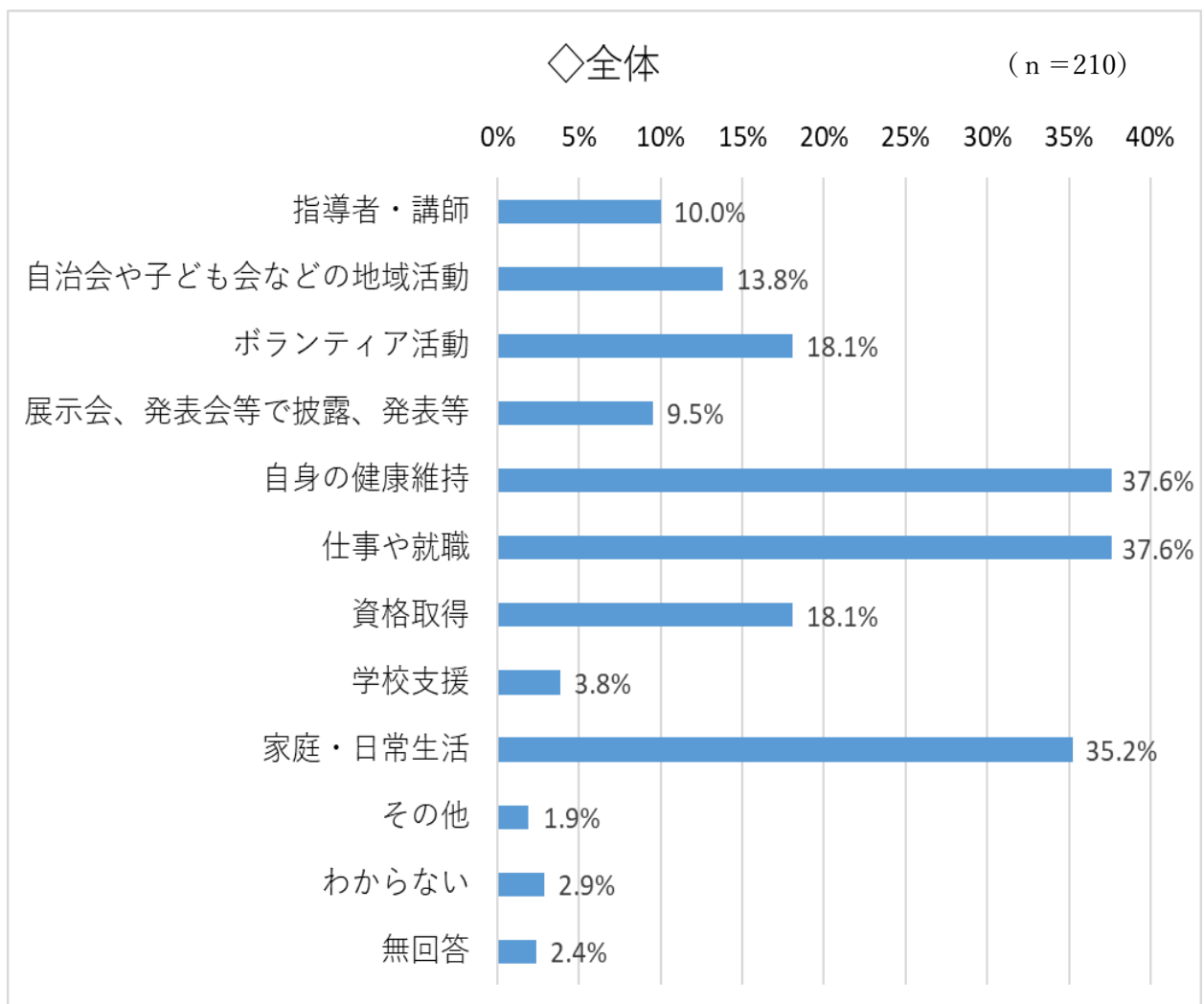
問5で「活かしている」「活かしたいと思うが活かせていない」と回答した方にうかがいます。

【問6】 どのように活かしていますか、また活かしたいと思いますか。

「自身の健康維持」(37.6%)、「仕事や就職」(37.6%)、「家庭・日常生活」(35.2%)の順となり、学びを通じた自己実現のために活かしている割合が高いといえます。内閣府による「生涯学習に関する世論調査」(平成30年8月)においても、「自分の人生を豊かにするため」、「仕事や就職のため」、「家庭・日常生活のため」、「健康の維持・増進のため」の順となっており、学習を自己で完結する傾向にあります。

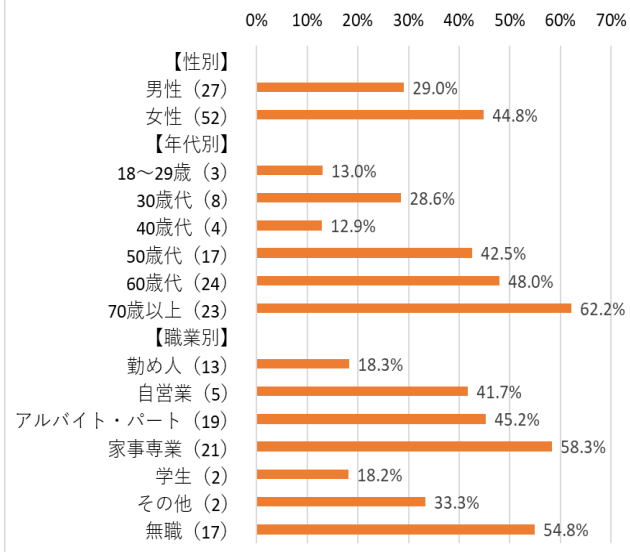
職業別にみると、「自身の健康維持」と回答した割合は、家事専業、無職、アルバイト・パートの順に、「仕事や就職」と回答した割合は、勤め人、学生、自営業の順に高く、生活環境が学習意欲にも影響することがうかがえます。

今後は、自己実現にとどまらず地域や社会への貢献活動にどうつなげていけるのが課題となります。

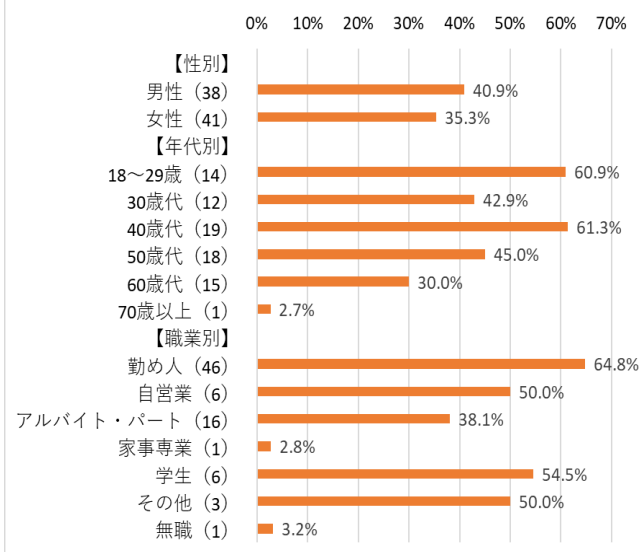


《上位5項目における性別・年代別・職業別 集計》

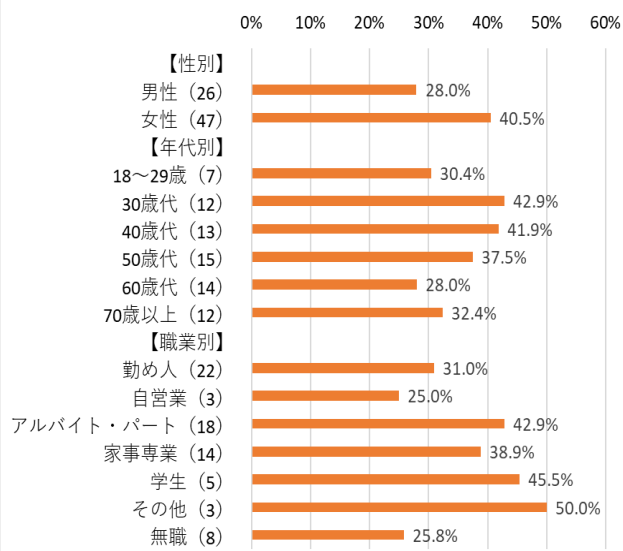
◇自身の健康維持



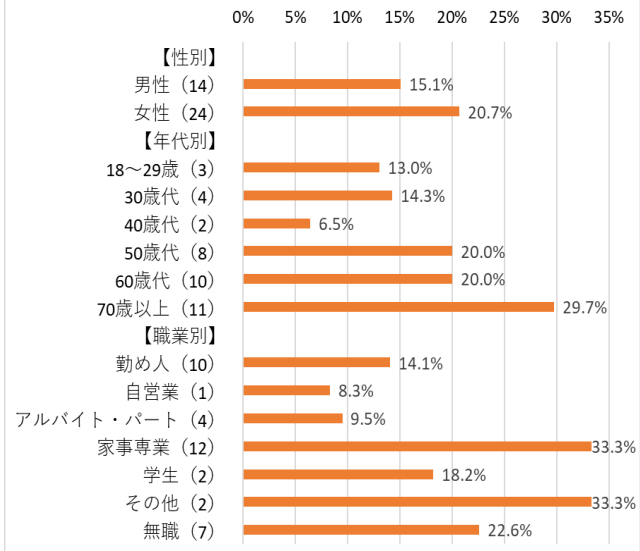
◇仕事や就職



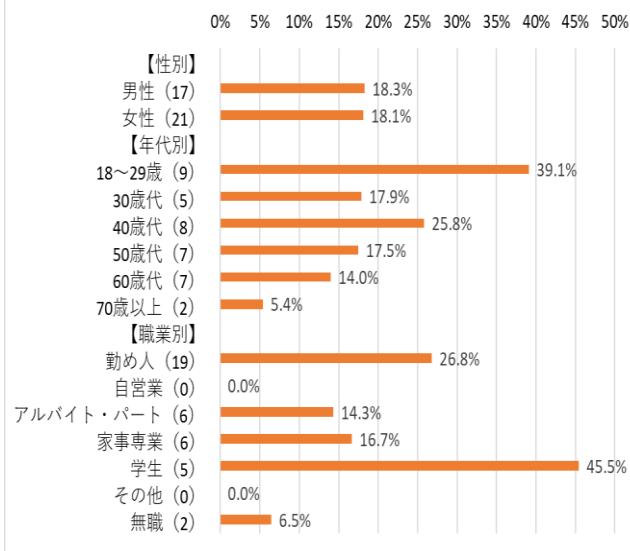
◇家庭・日常生活



◇ボランティア活動



◇資格取得



問5で「活かそうと思わない」と回答した方にうかがいます。

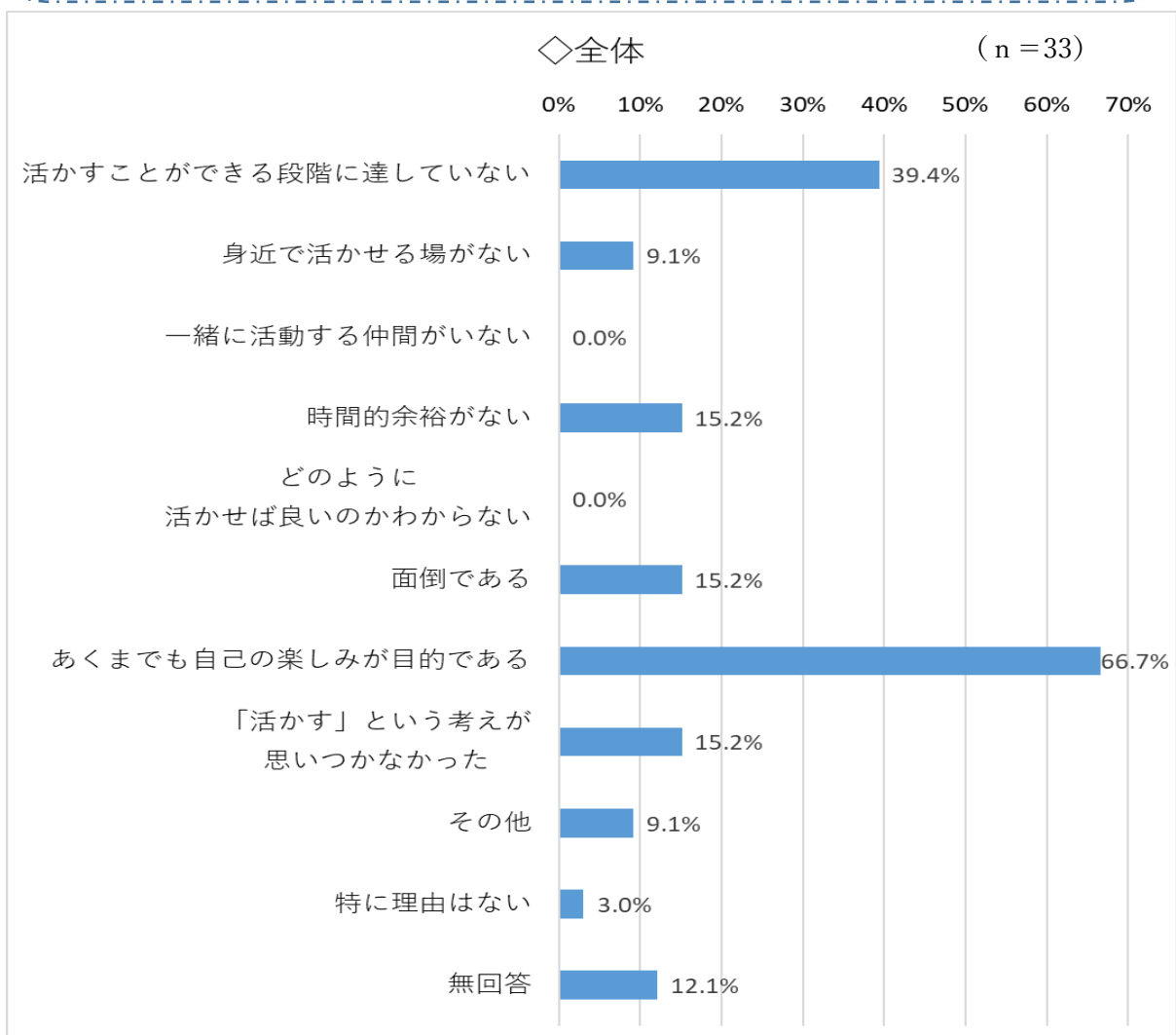
【問7】 ご自分の持っている知識や技能、経験を活かそうと思わない理由は何ですか。（複数回答可）

「あくまでも自己の楽しみが目的である」（66.7%）が圧倒的に高く、次いで「活かすことができる段階に達していない」（39.4%）の順となりました。「時間的余裕がない」や「身近で活かせる場がない」という環境的要因ではなく、自己で完結する傾向が強いことがうかがえます。

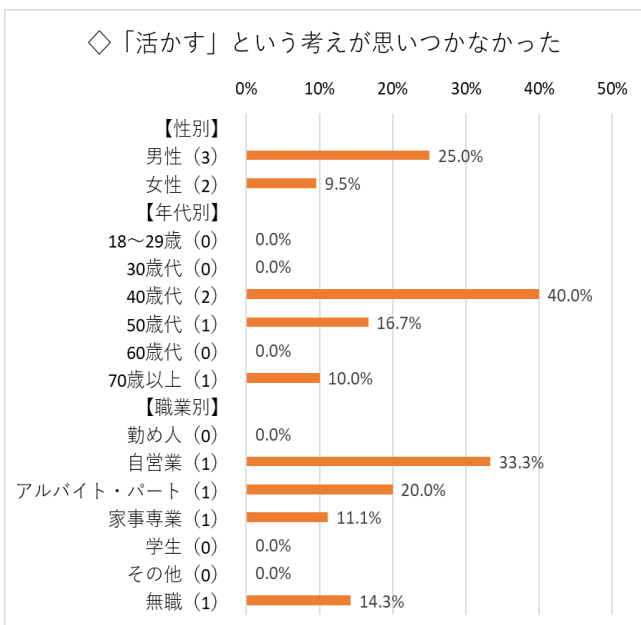
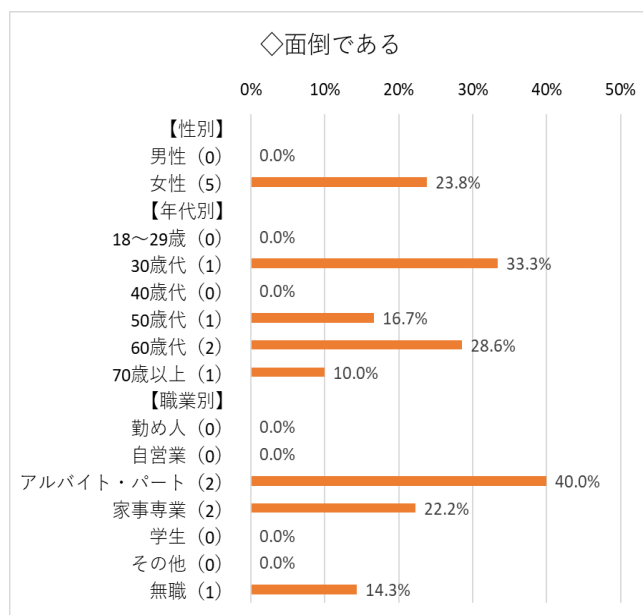
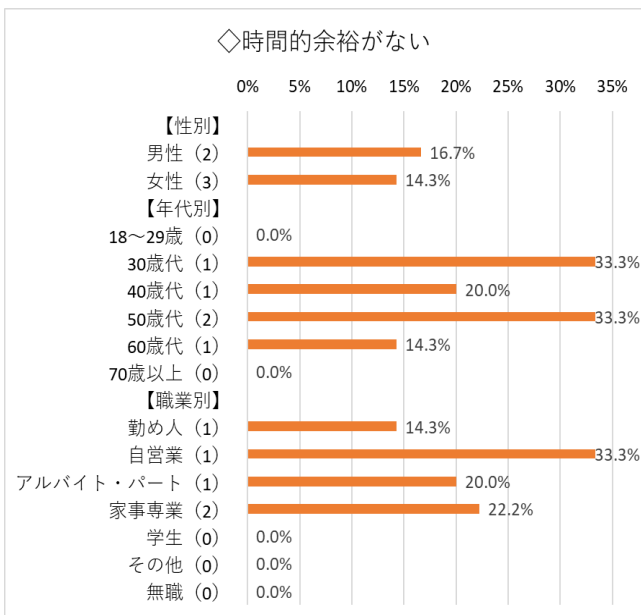
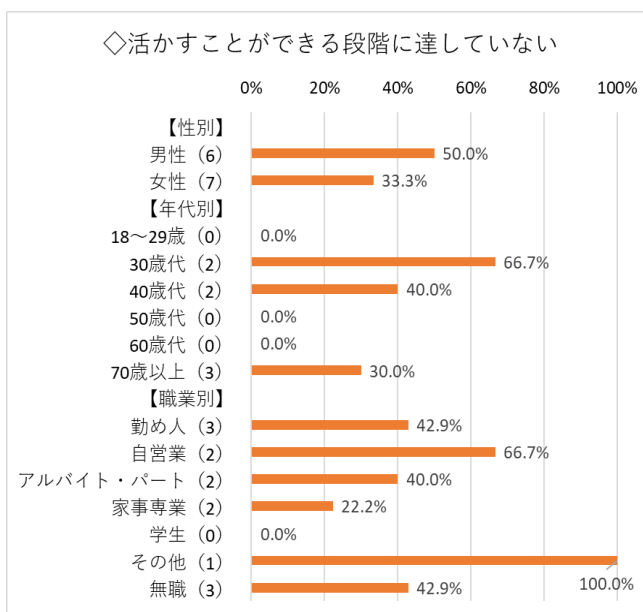
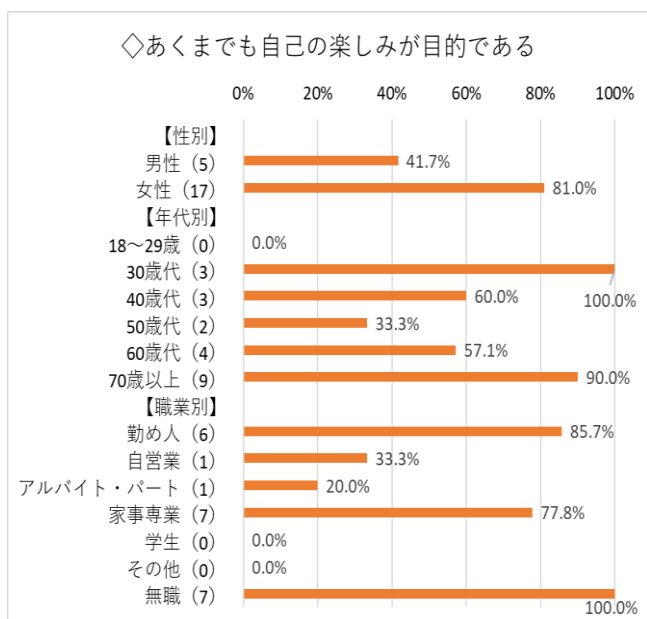
性別でみると、女性が男性に比べ「あくまでも自己の楽しみが目的である」と回答した割合は約40%、「面倒である」は約20%高い数値となりました。また、「活かすことができる段階に達していない」、「活かすという考えが思いつかなかった」と回答した割合は、男性が女性に比べて15%以上高くなりました。

職業別にみると、「あくまでも自己の楽しみが目的である」と回答した割合は、無職で100%、勤め人で85.7%と高くなりました。

今後は、生涯学習による自己実現を図りながら学習成果を活用し、社会参画するといった取り組みや意識を醸成する必要があります。



《上位5項目における性別・年代別・職業別 集計》



問3で「していない」と回答した方にうかがいます。

【問8】 生涯学習活動をしていない理由は何ですか。（複数回答可）

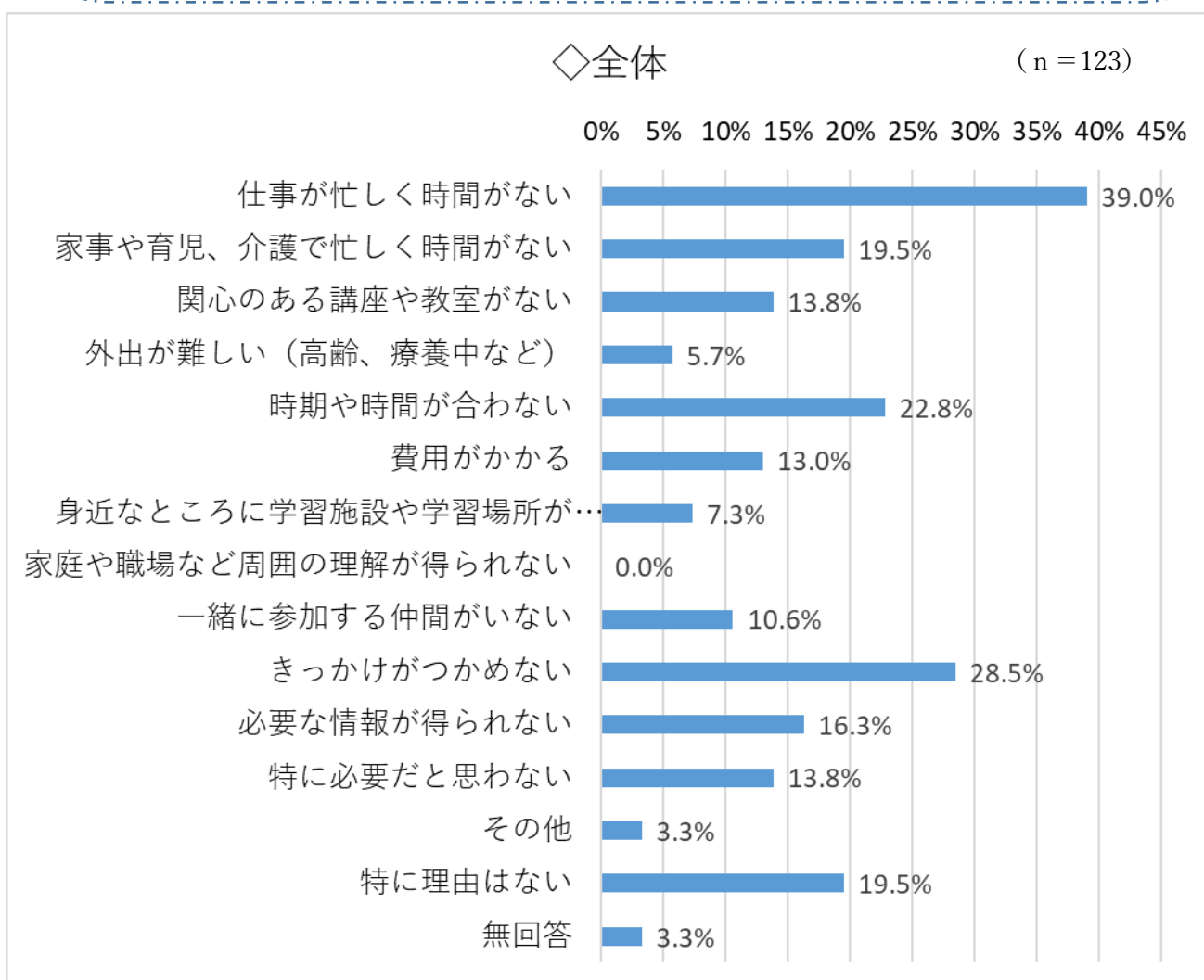
「仕事が忙しく時間がない」（39.0%）が最も高く、「きっかけがつかめない」（28.5%）「時期や時間が合わない」（22.8%）の順となり、内閣府による「生涯学習に関する世論調査」（平成30年8月）では、「仕事が忙しく時間がない」、「特に必要がない」との回答が高い結果となっています。

性別でみると「家事や育児、介護で忙しく時間がない」と回答した割合は、女性が男性に比べて15%以上高くなりました。

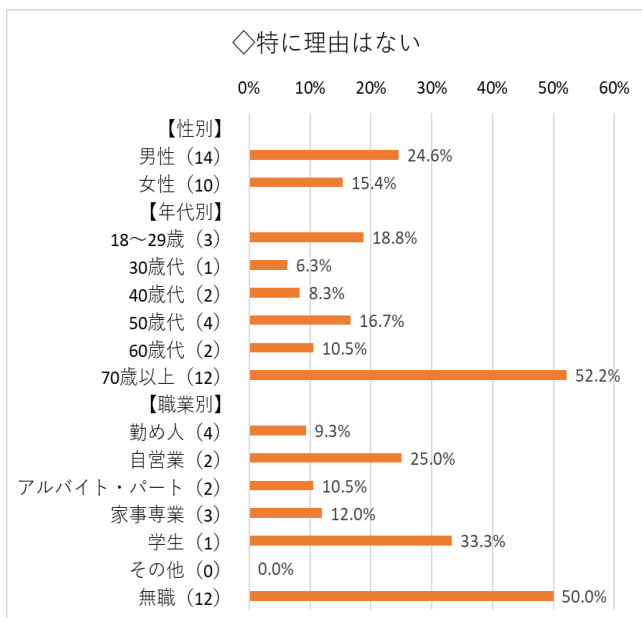
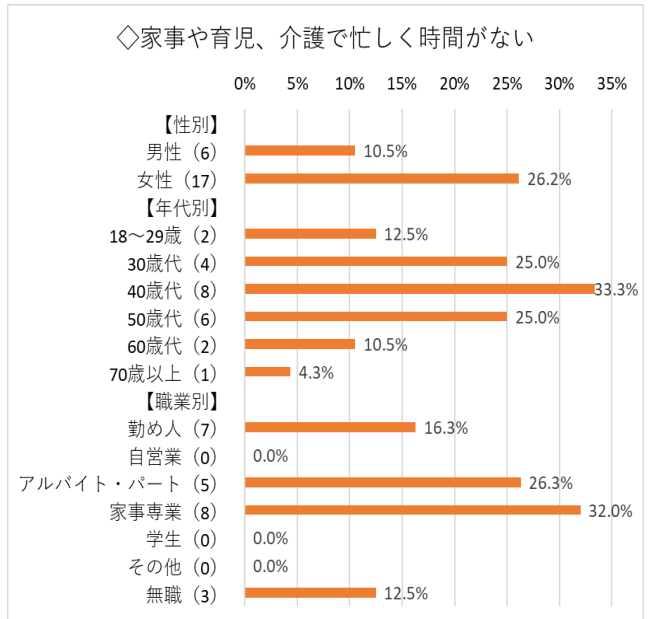
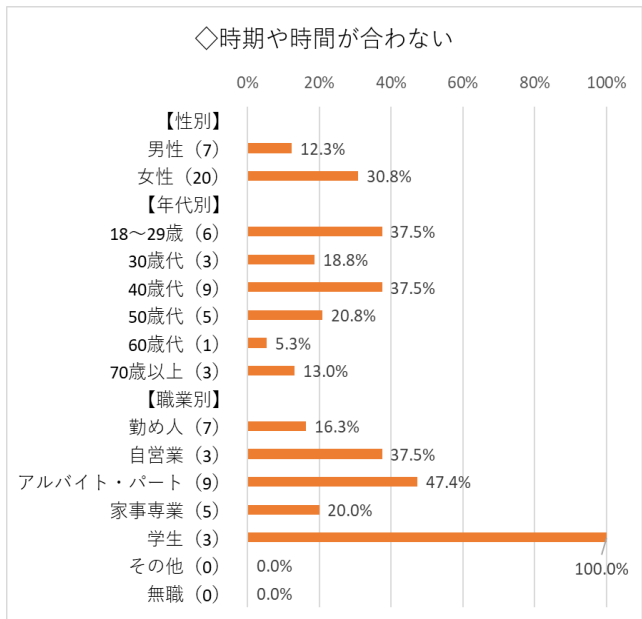
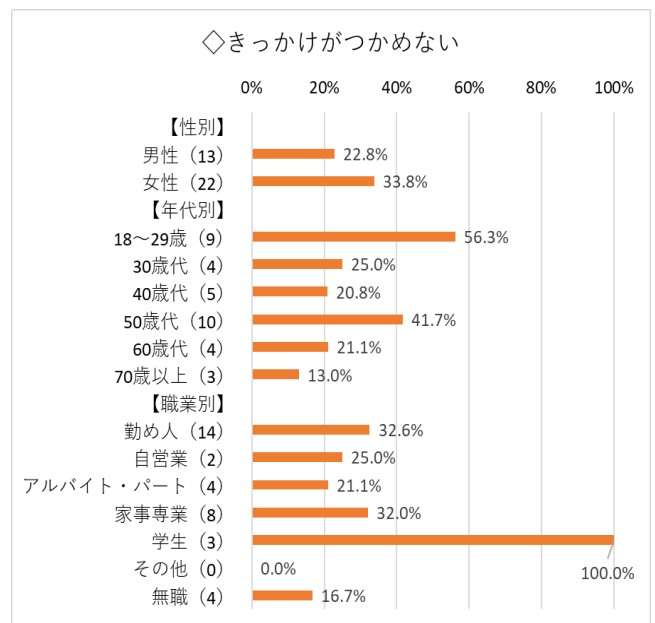
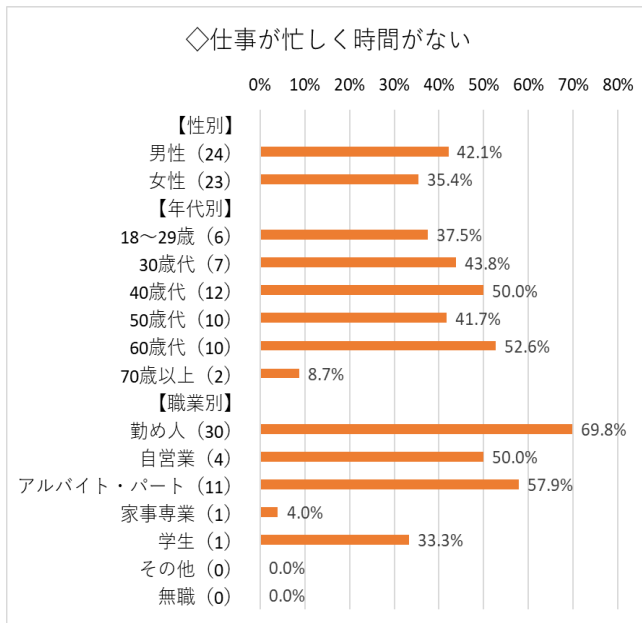
年代別でみると、18歳～60歳代までは、「仕事が忙しく時間がない」、「家事や育児、介護で忙しく時間がない」と回答した割合が高く、70歳以上は「特に理由がない」と回答した割合が52.2%と他の世代に比べ高くなりました。

職業別にみると、「きっかけがつかめない」、「時期や時間が合わない」と回答した割合は、学生において圧倒的に高い結果となりました。

今後、仕事や家事・育児をしている人でも参加できるような、多様な時間設定や生涯学習活動を始めのきっかけとなる学習メニューの充実が必要です。



《上位5項目における性別・年代別・職業別 集計》



すべての方にうかがいます。

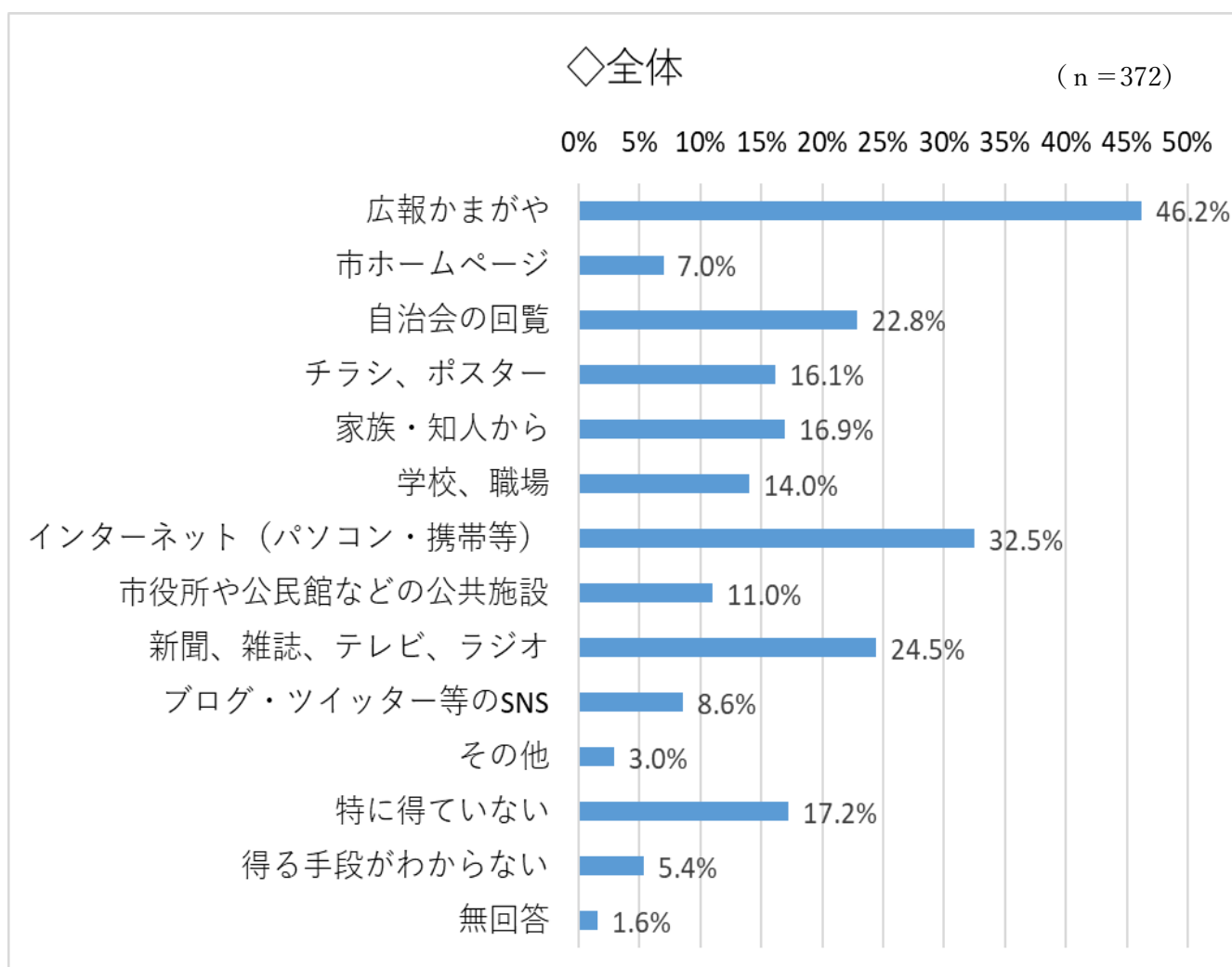
【問9】 現在、生涯学習に関する情報をどのように得ていますか。（複数回答可）

「広報かまがや」（46.2%）が最も高く、「インターネット（パソコン・携帯等）」（32.5%）「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」（24.5%）の順となりました。

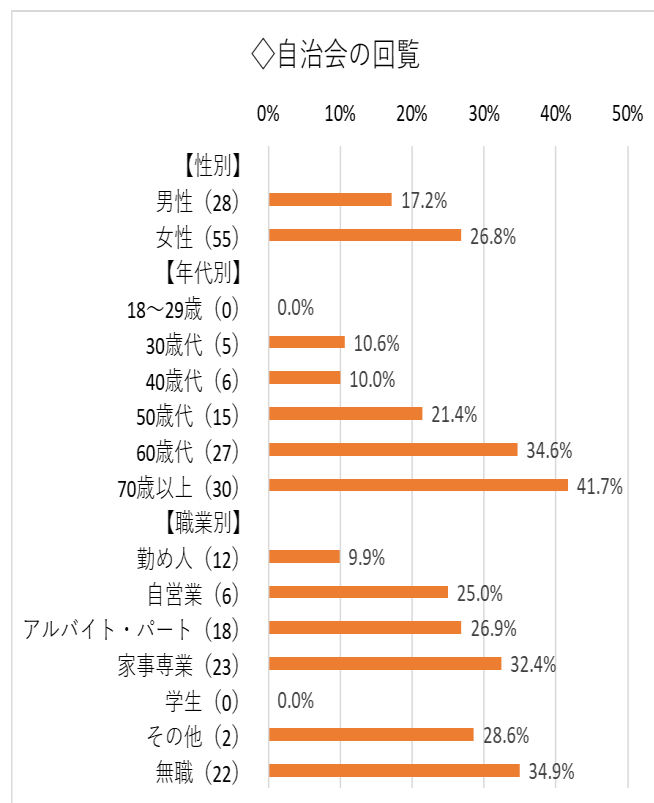
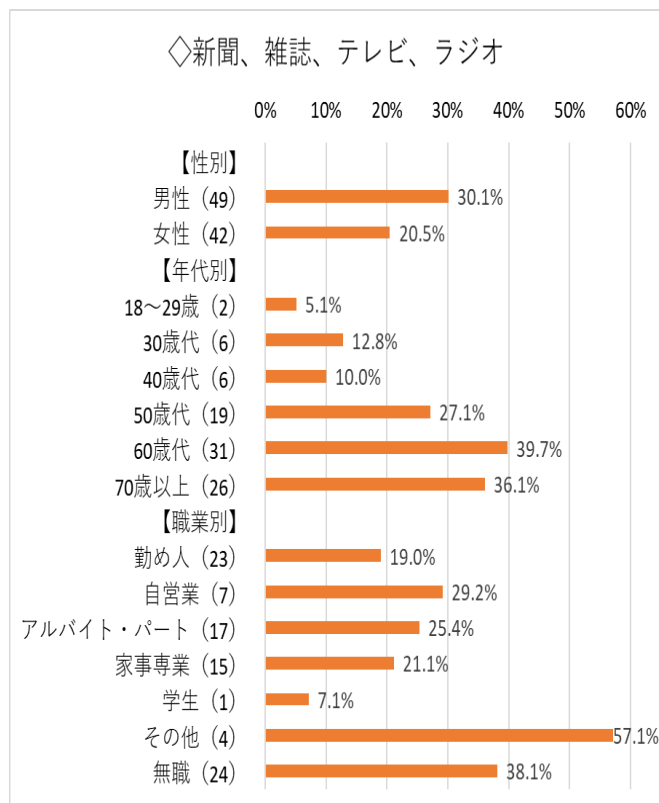
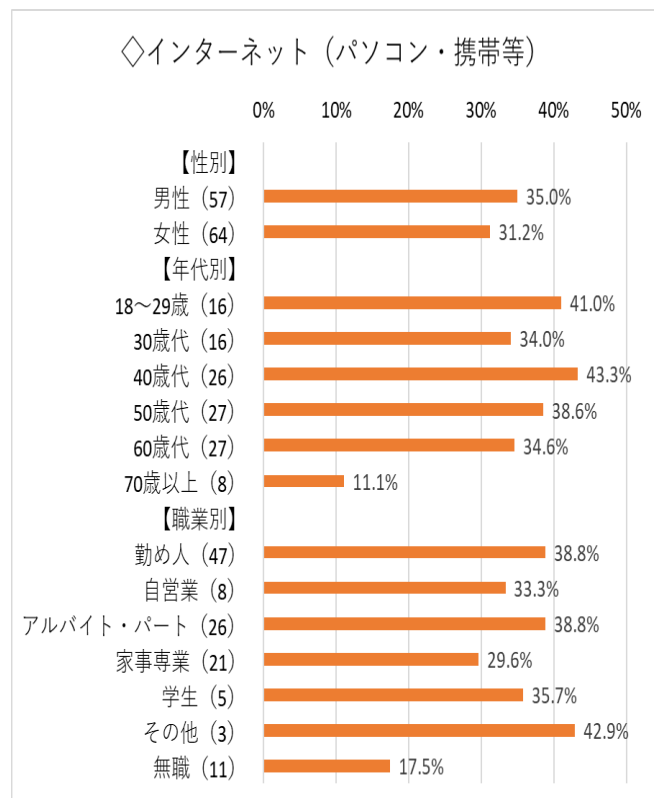
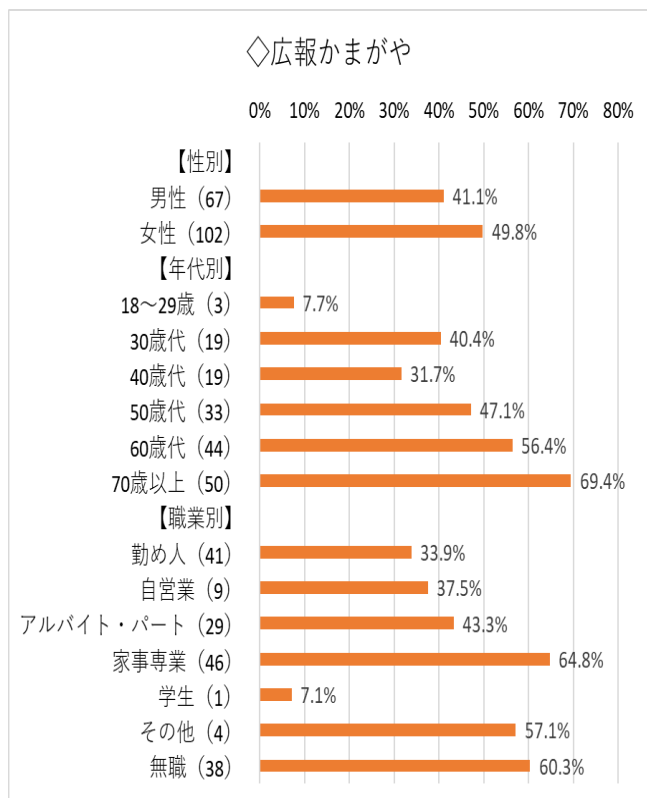
年代別で見ると、「広報かまがや」、「自治会の回覧」、「新聞、雑誌、テレビ、ラジオ」の紙媒体を回答した割合は、年代が上がるほど高く、「インターネット」、「ブログ・ツイッターなどのSNS」の電子媒体は年代が下がるほど高い傾向にあります。

職業別にみると、「自治会の回覧」と回答した割合は、学生で0%、勤め人で9.9%と他の世代に比べ低くなっており、地域との関わりと比例的な関係性がうかがえます。

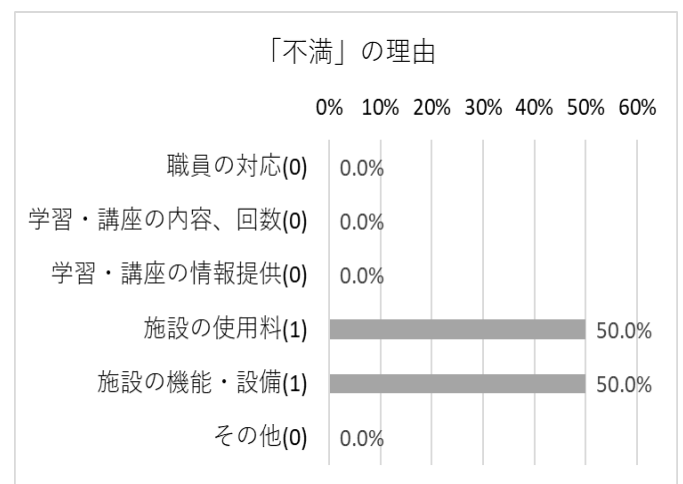
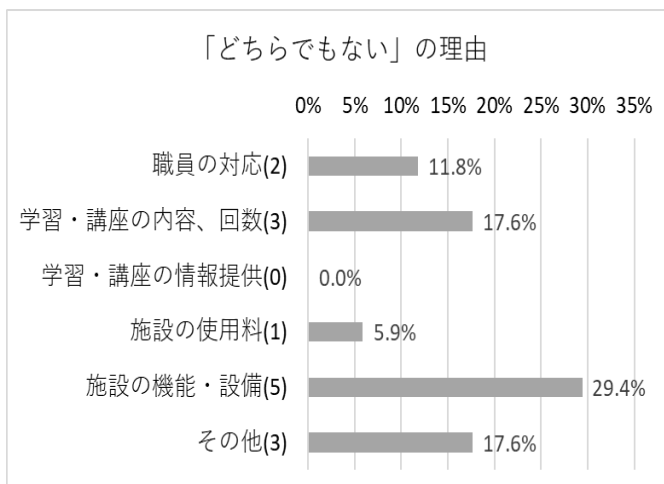
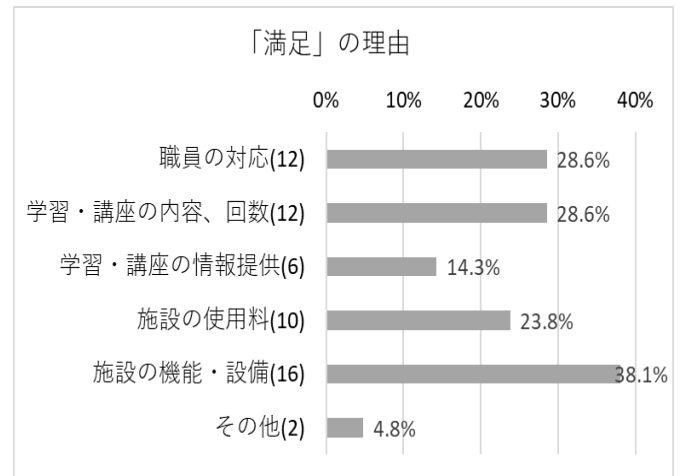
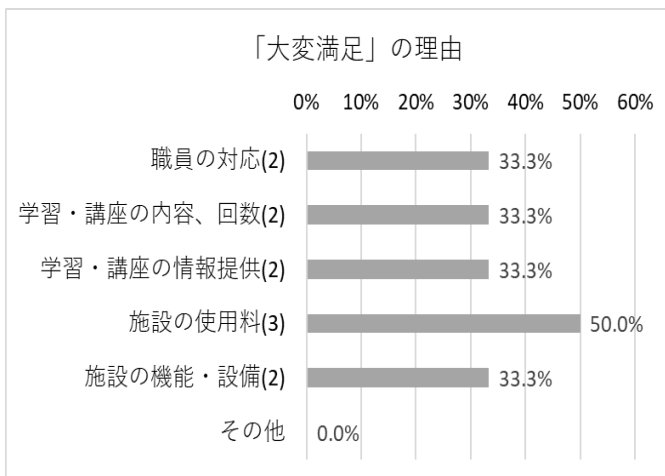
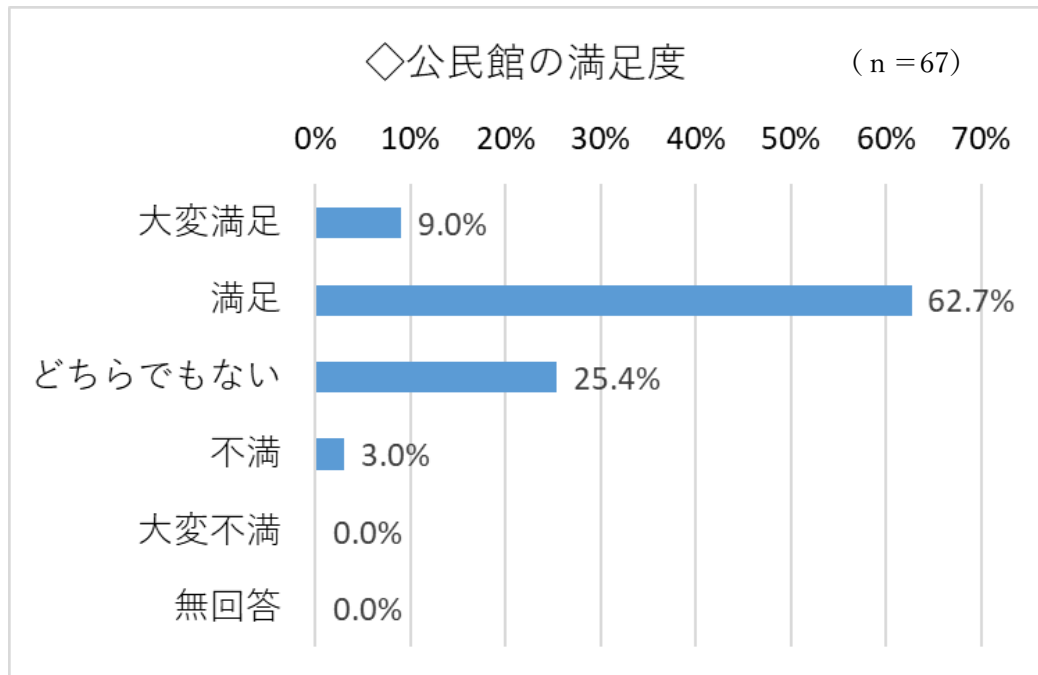
一方、「インターネット」と回答した割合が32.5%あるものの、「ブログ・ツイッター等のSNS」と回答した割合は8.6%、「市ホームページ」では7.0%に留まっています。また、「特に得ていない」では17.2%と全体的に高い数値となっていることから、今後は紙媒体と電子媒体の両方をより充実することで、情報を得ていない人へのアプローチにもつなげていくことが課題となります。

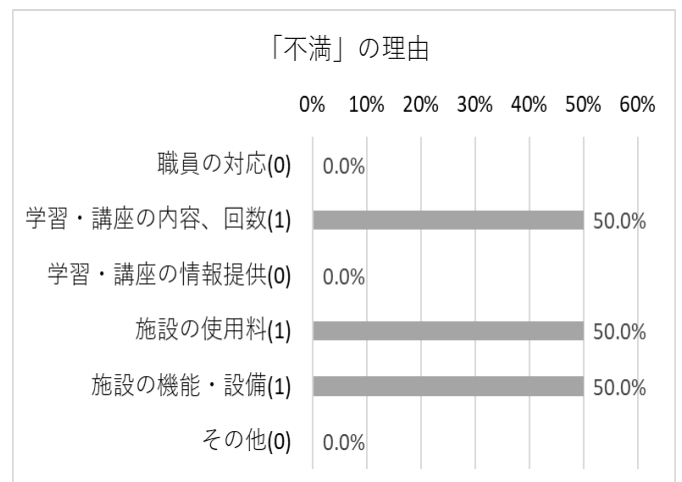
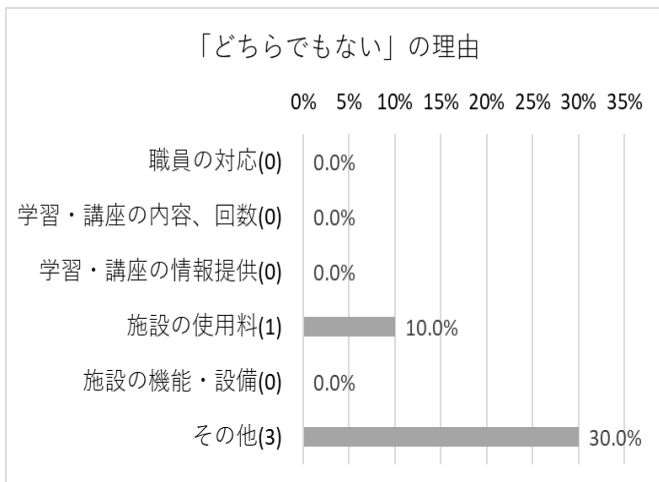
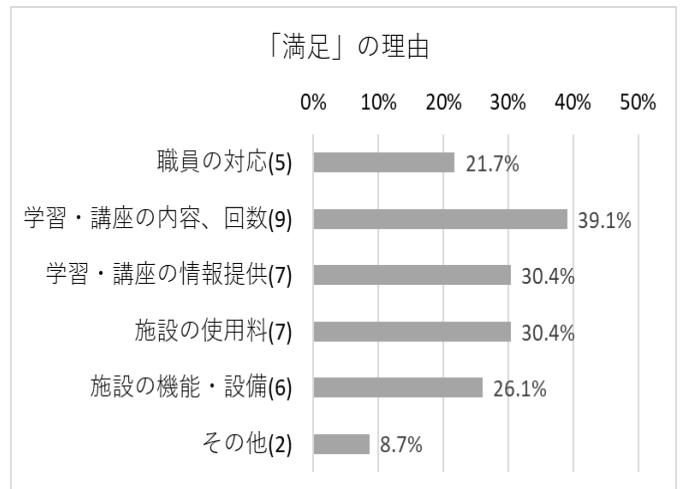
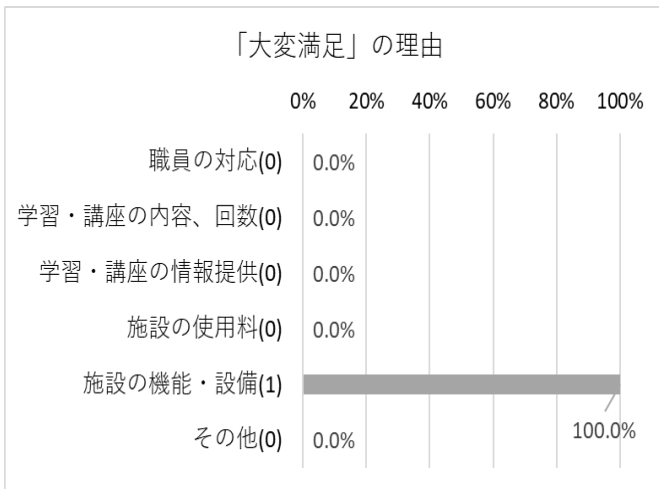
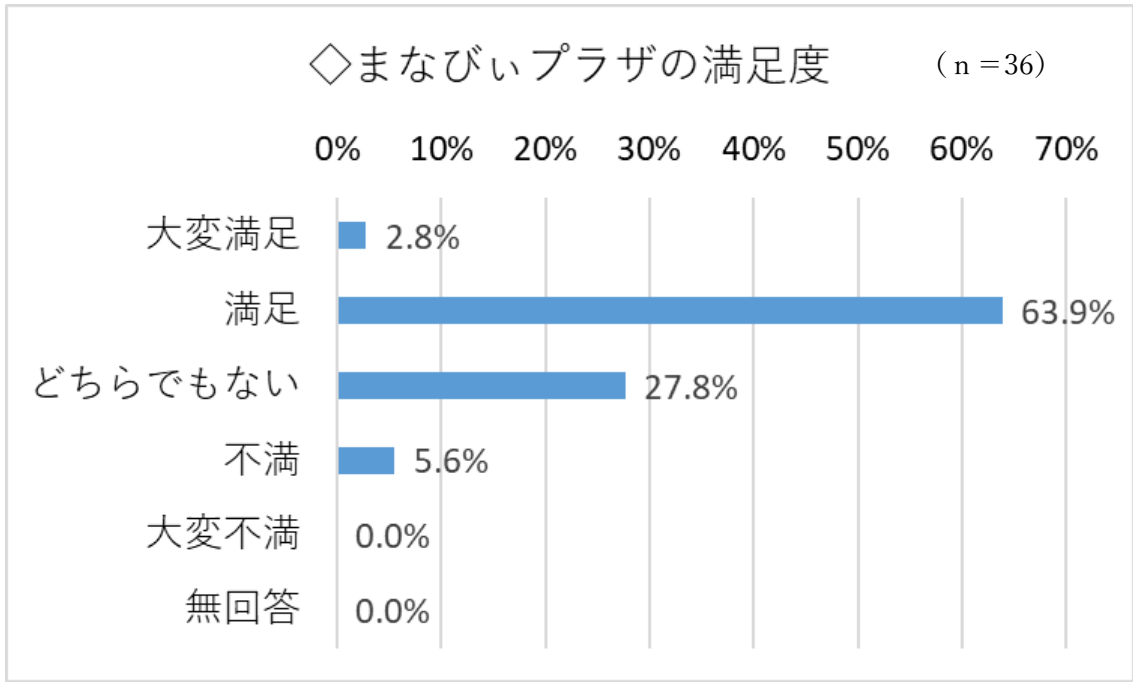


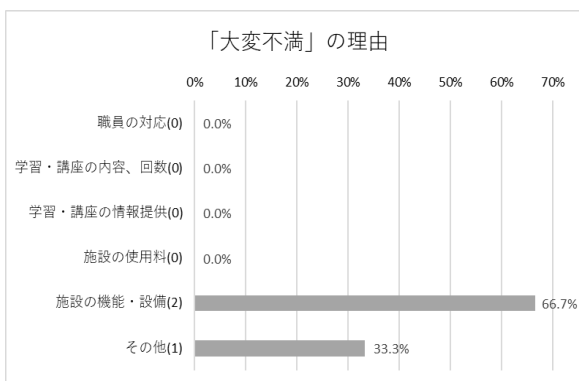
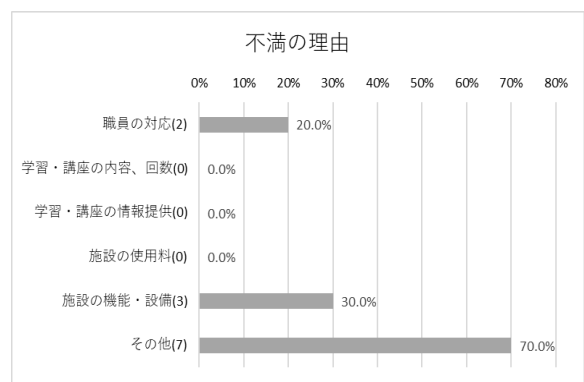
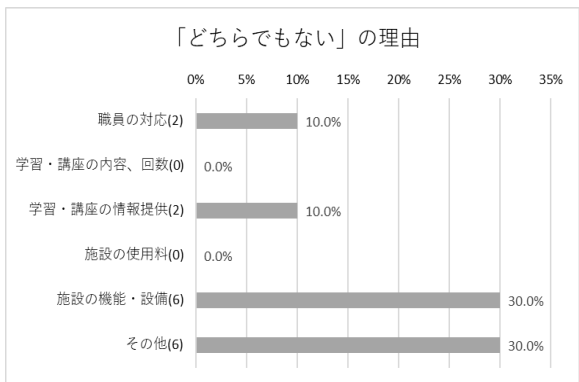
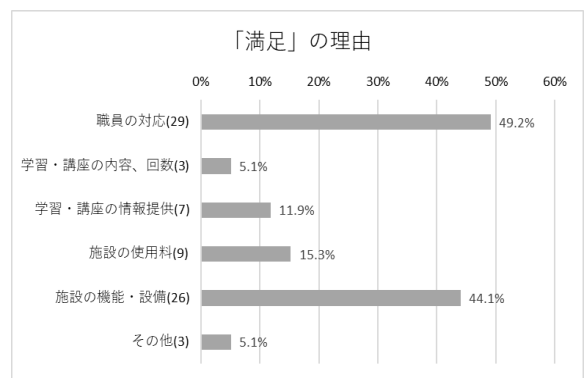
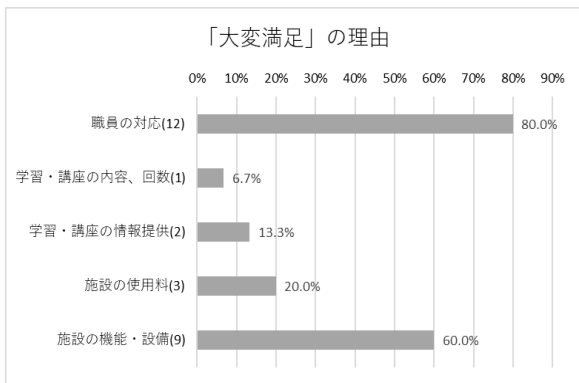
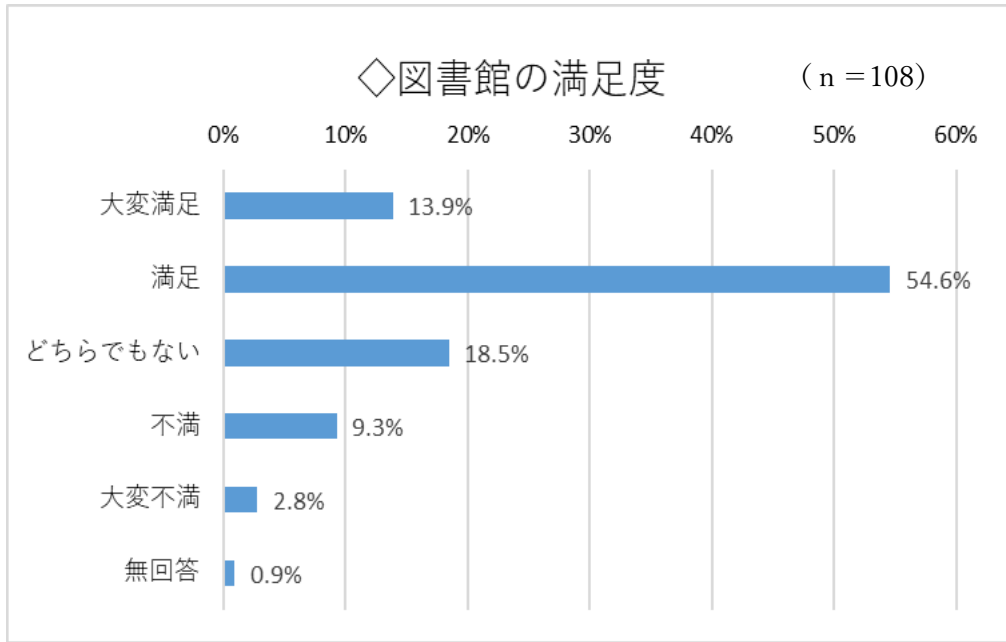
《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》

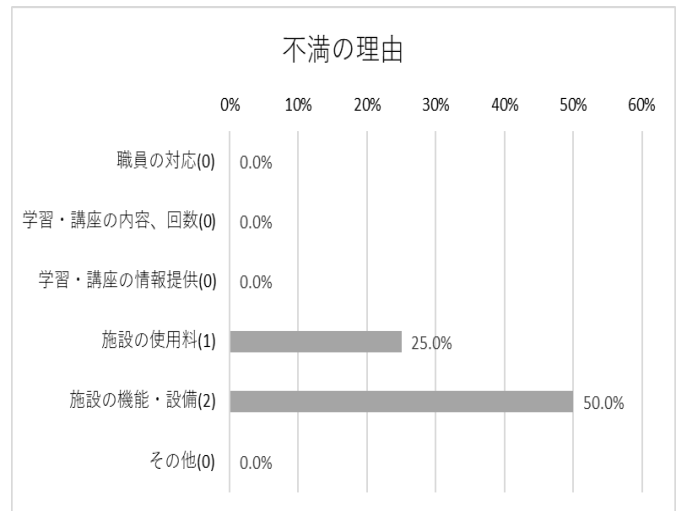
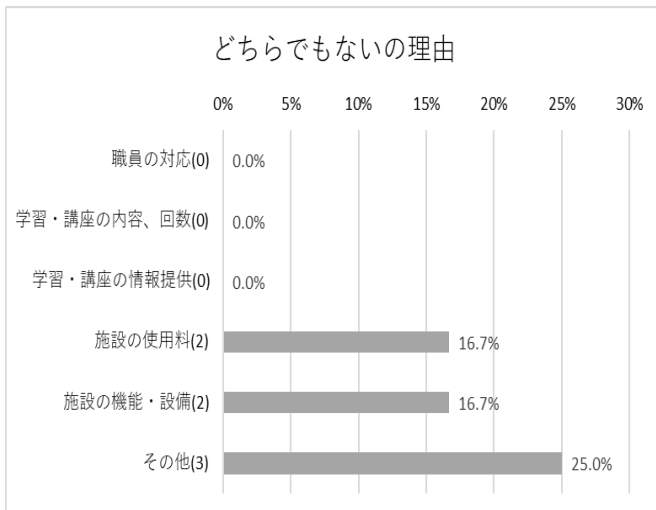
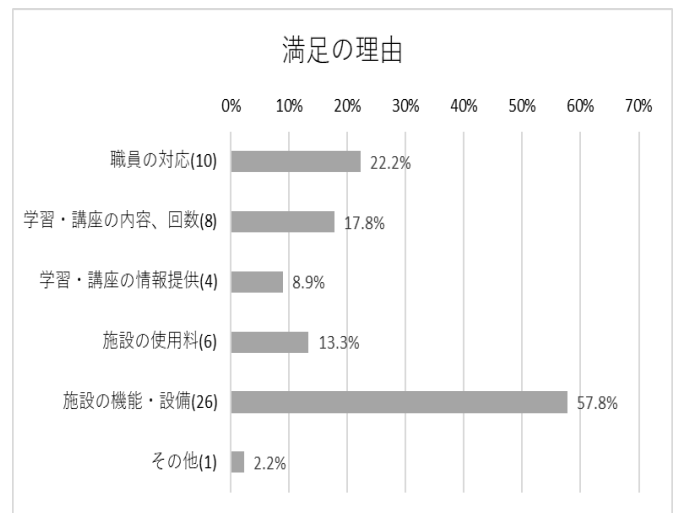
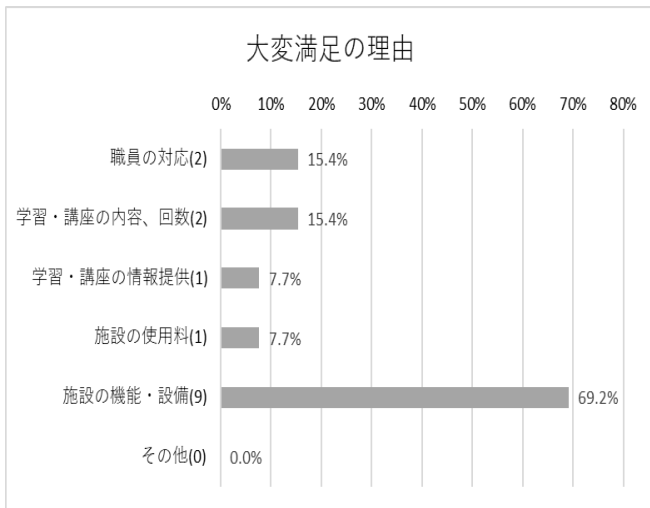
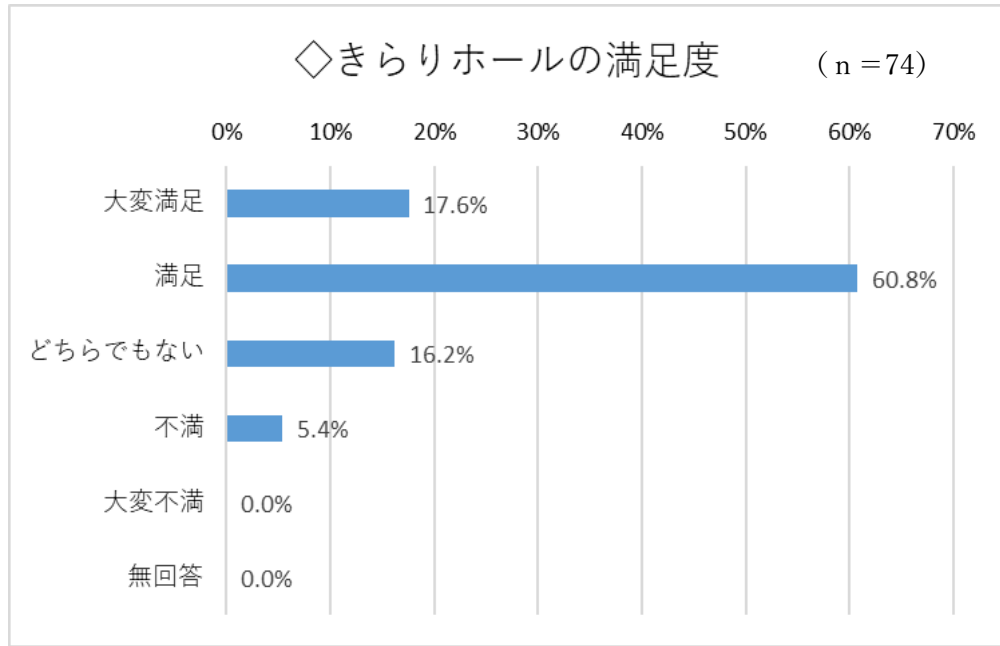


【問10】 あなたは、この1年くらいの間下記の生涯学習施設を利用したことがありますか。利用したことがある施設があれば、施設名と施設の満足度、その理由を選んでください。



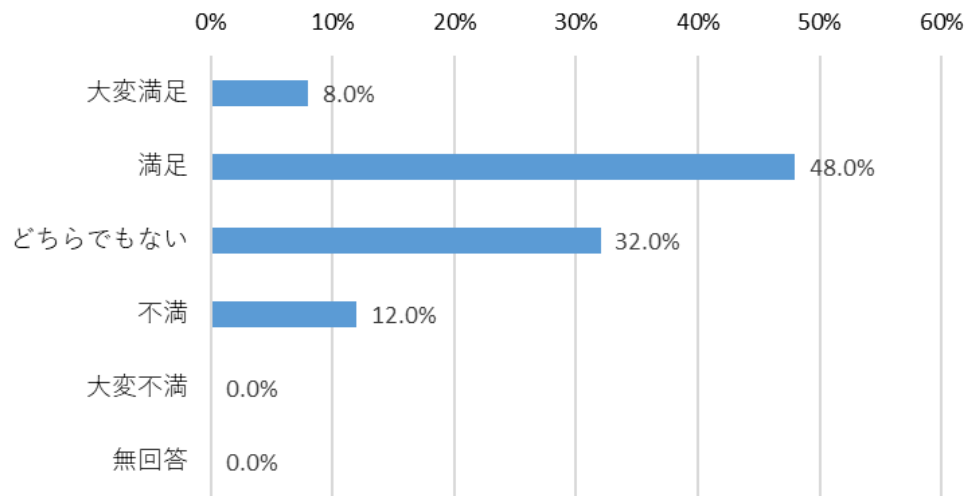




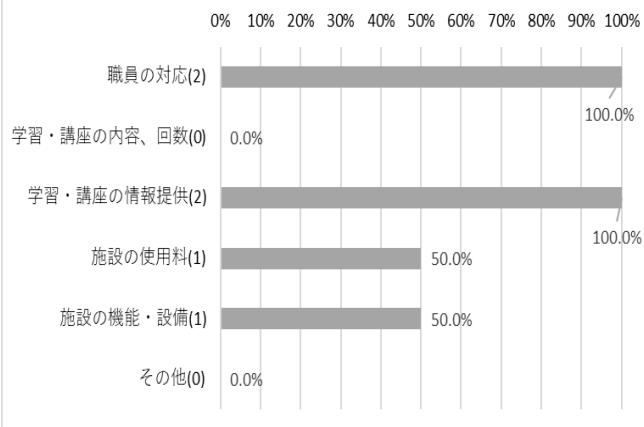


◇郷土資料館の満足度

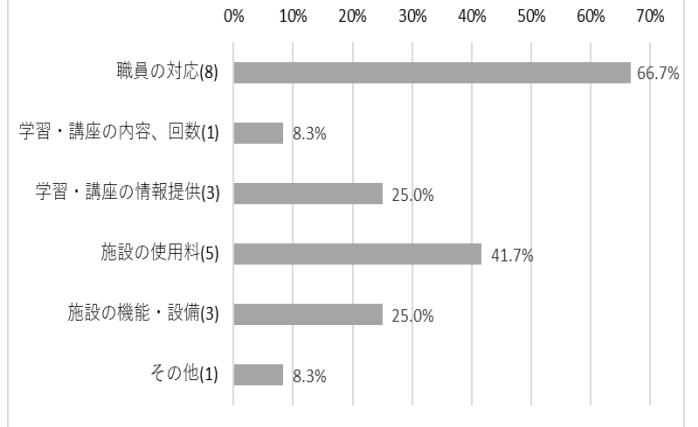
(n = 25)



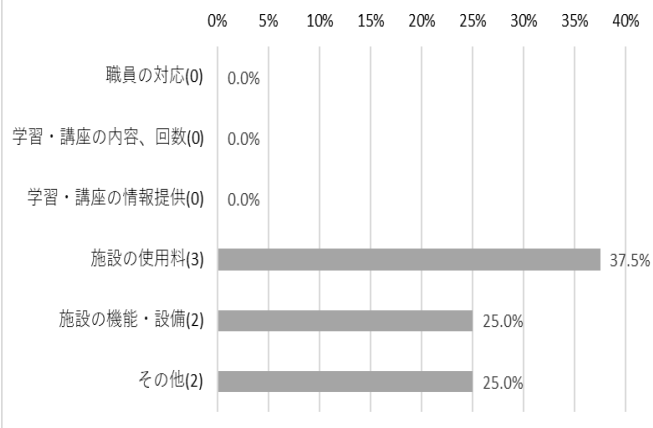
大変満足の理由



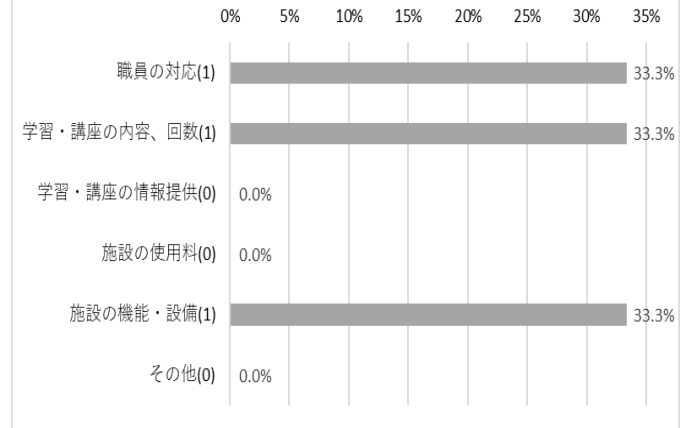
満足の理由

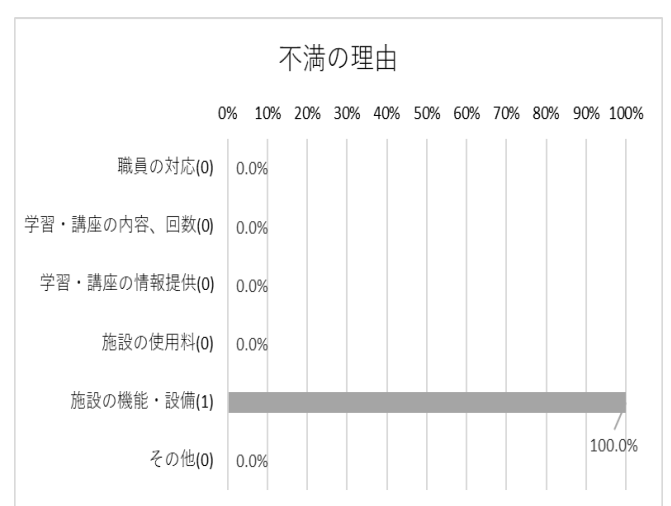
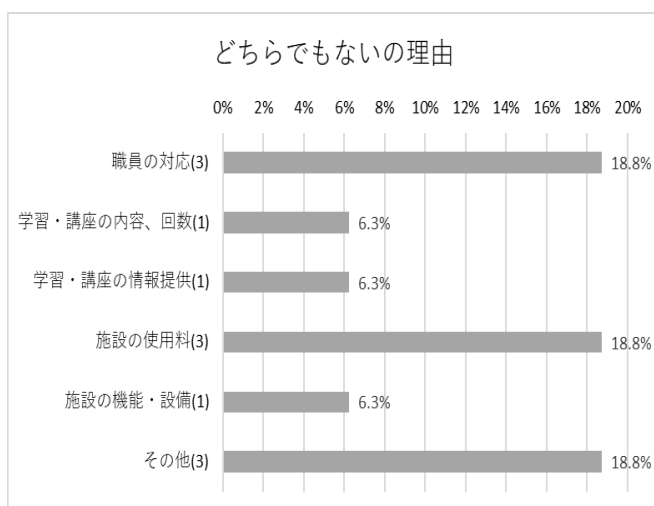
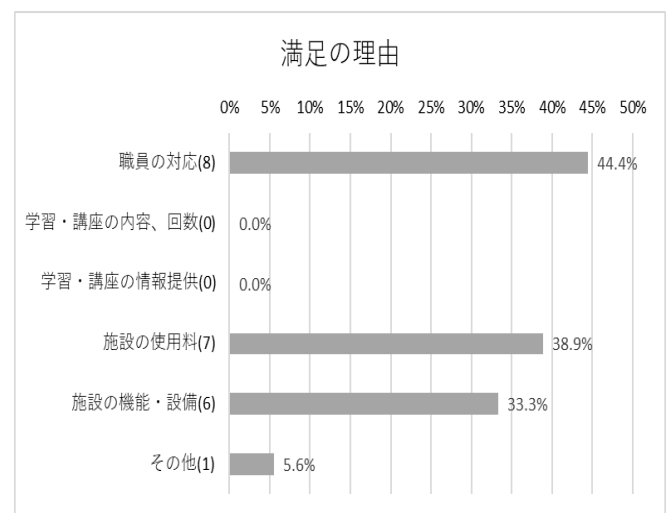
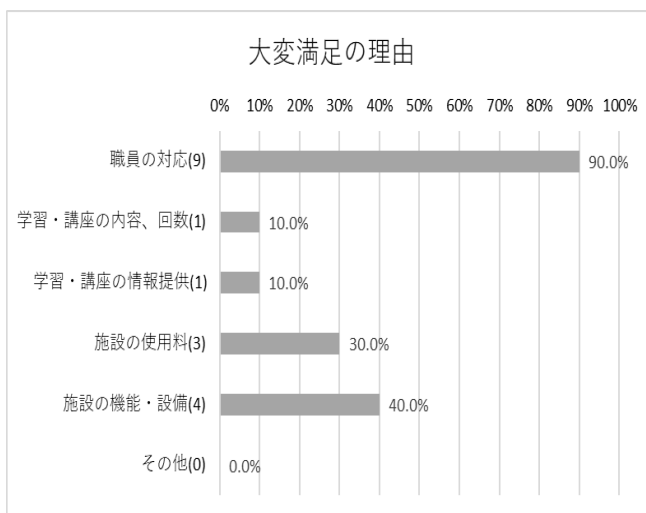
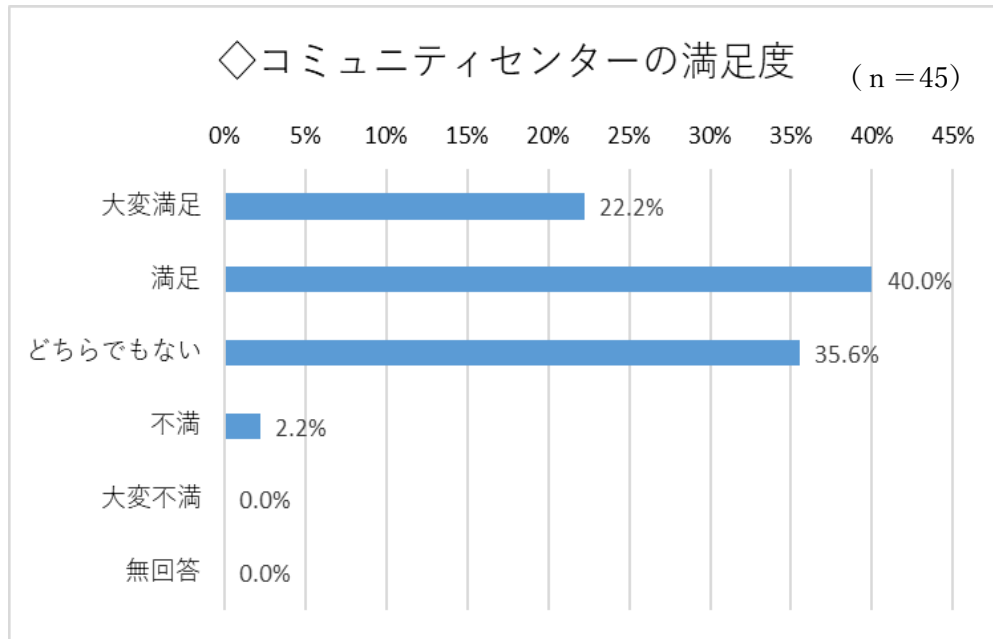


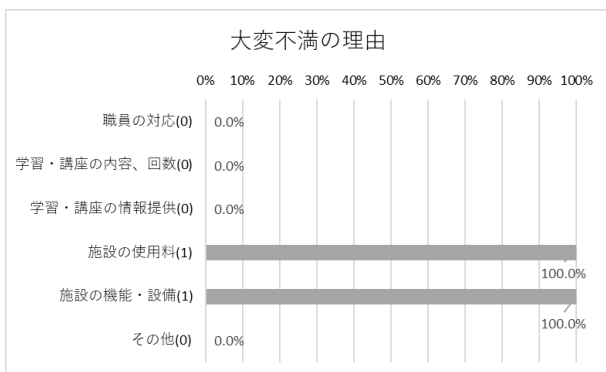
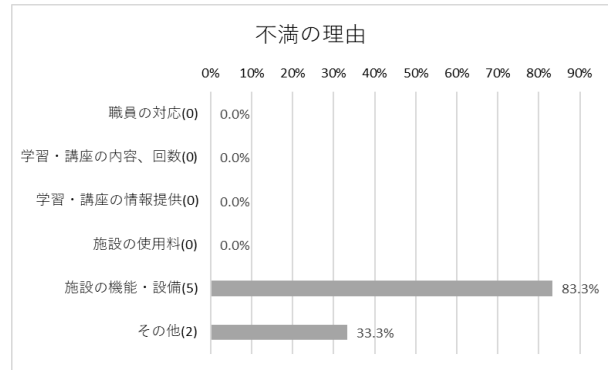
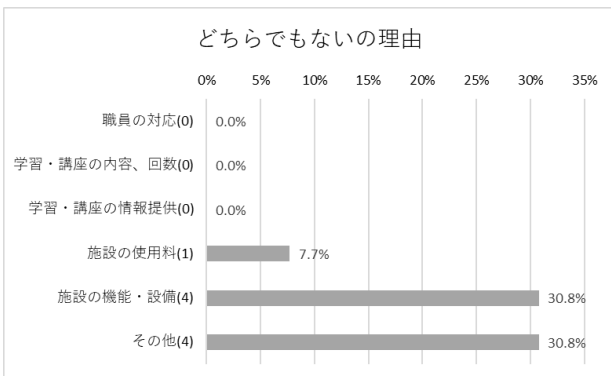
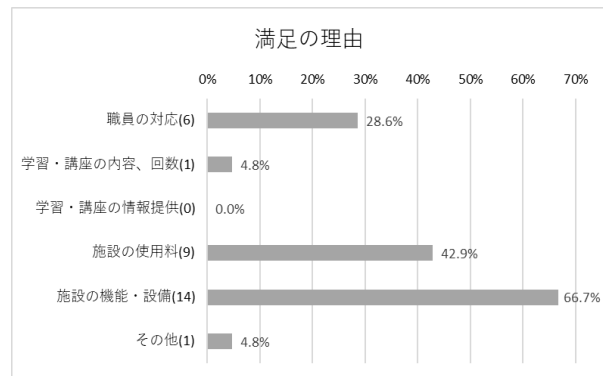
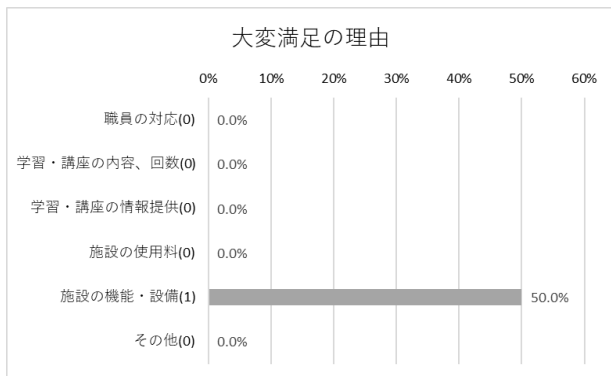
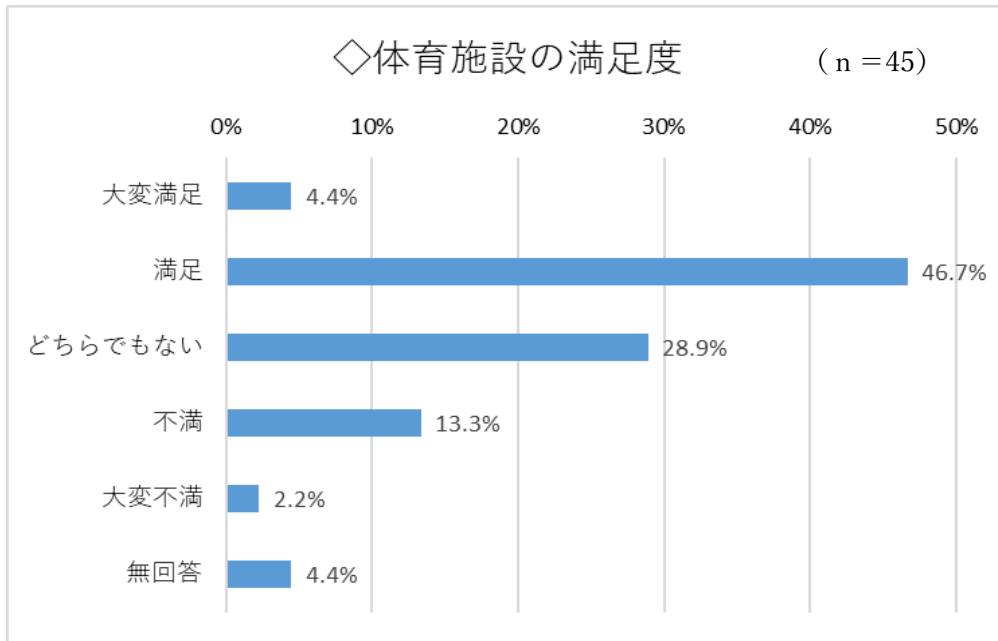
どちらでもないの理由



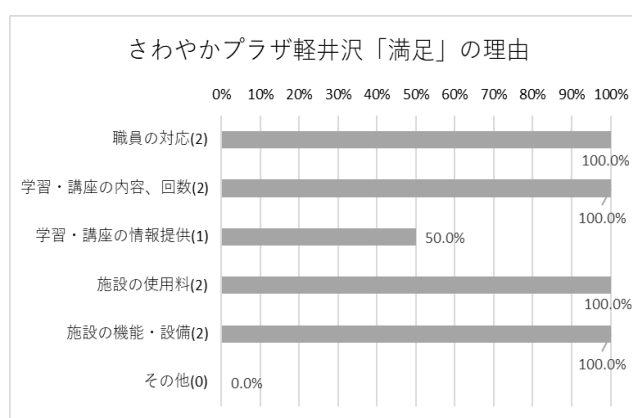
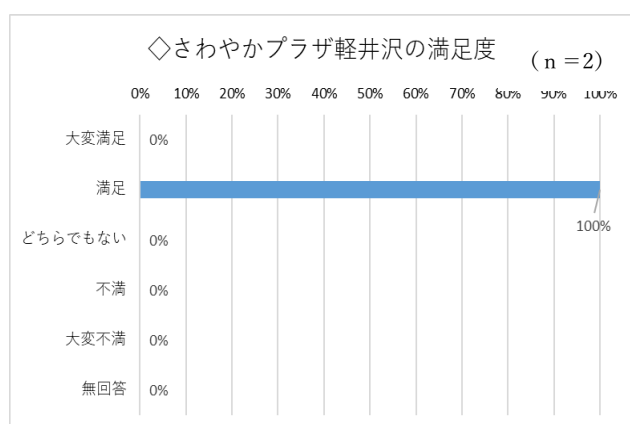
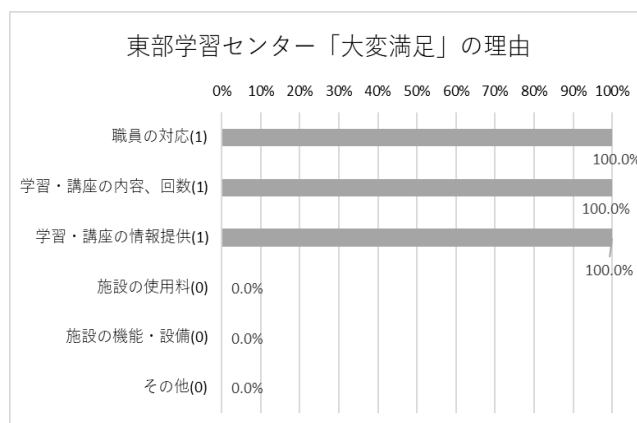
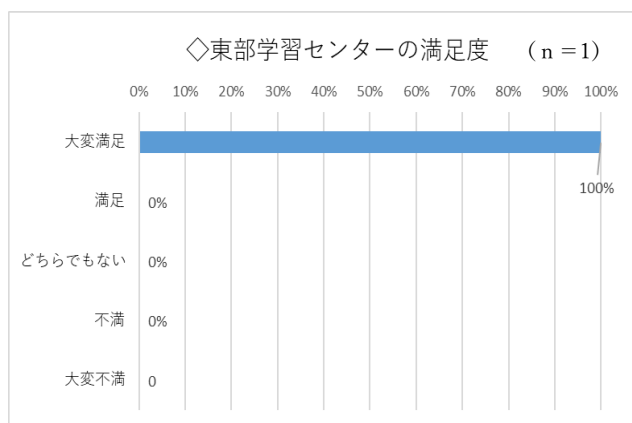
不満の理由







《その他でご意見いただいた生涯学習施設の満足度及び理由》



すべての施設において「満足」が最も高くなりました。また、「不満」、「大変不満」と回答した割合が高い施設でも13.3%となり、施設利用者の大多数は不満がなく利用していることがわかります。

「大変満足」、「満足」の主な理由としては、「職員の対応」や「施設の機能・設備」が高く、「不満」、「大変不満」の主な理由としては、「施設の使用料」や「施設の機能・設備」が高くなりました。

「施設の機能・設備」については、各施設の築年数等の関係から両方の主な理由になっていることが考えられます。引き続き施設の状況に合わせた対応が必要です。

各施設によって、目的や用途は異なりますが、生涯学習の拠点となる施設として、より多くの市民に満足してもらうためには、施設の利用促進のPRと、市民や地域のニーズに即した学習や情報の提供、施設の機能等の充実、きめ細やかな職員対応が重要です。

V. 生涯学習への今後の意向について

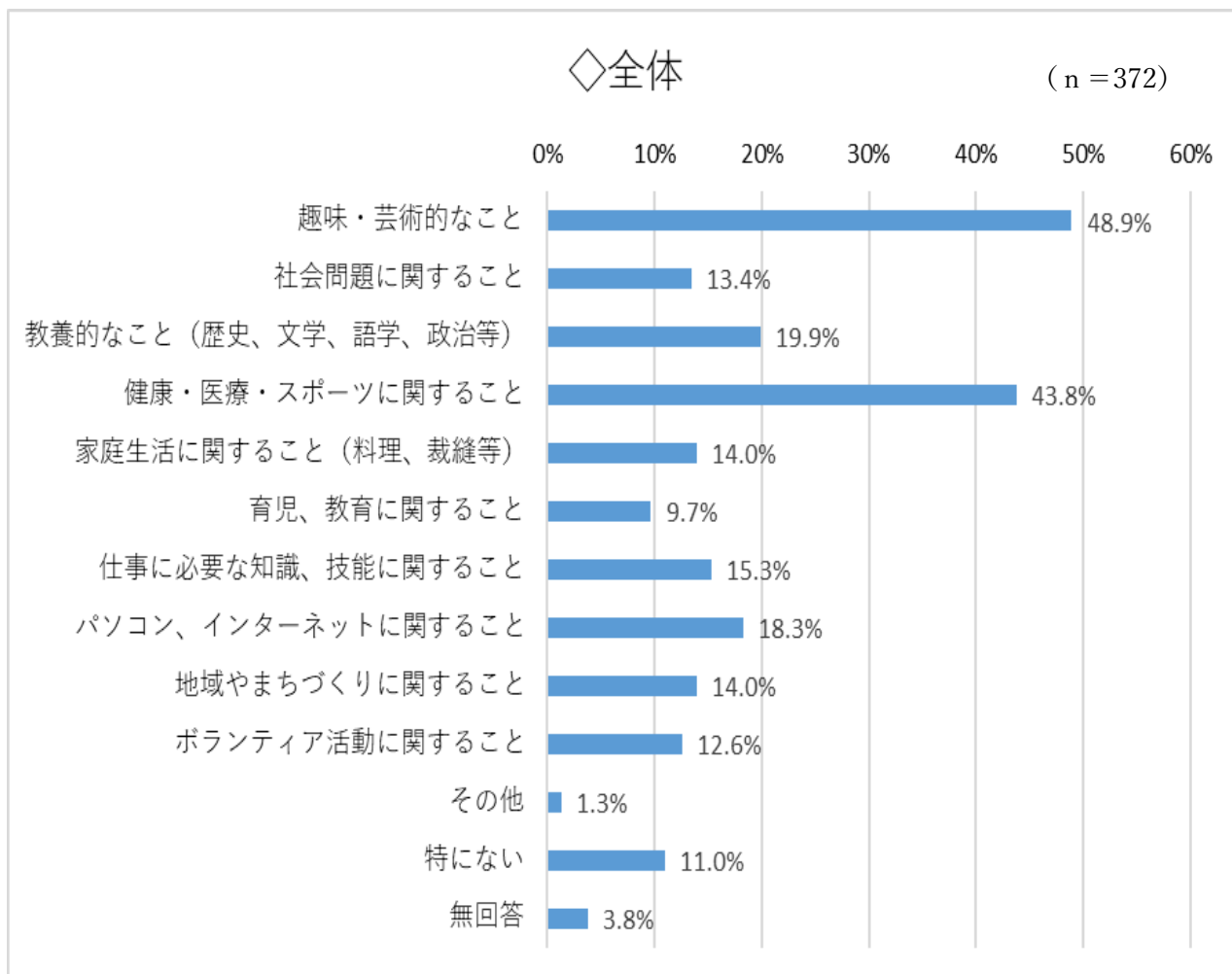
【問 1 1】 今後、どのような生涯学習活動がしたいですか。（複数回答可）

「趣味・芸術的なこと」（48.9%）、「健康・医療・スポーツに関すること」（43.8%）の2項目が突出して高く、内閣府による「生涯学習に関する世論調査」（平成30年8月）と同様の傾向となりました。

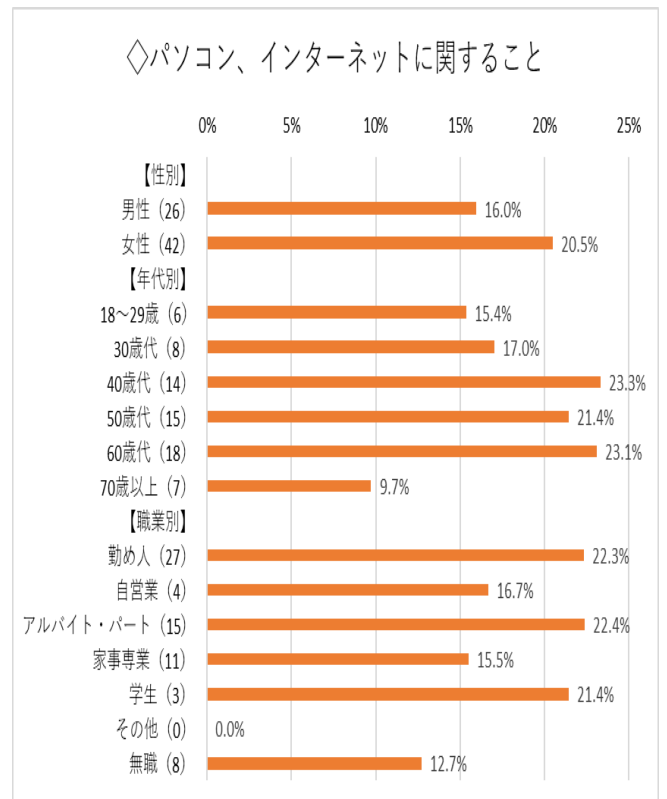
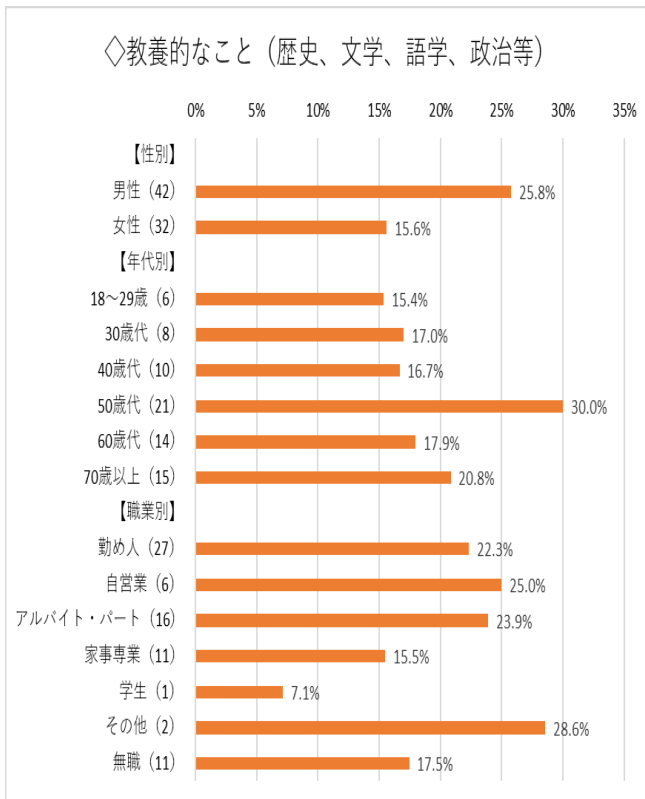
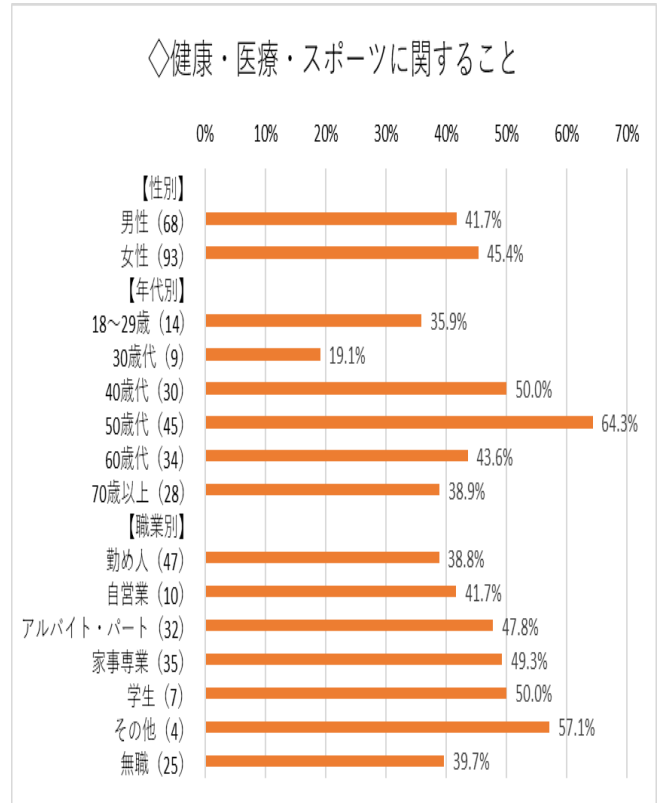
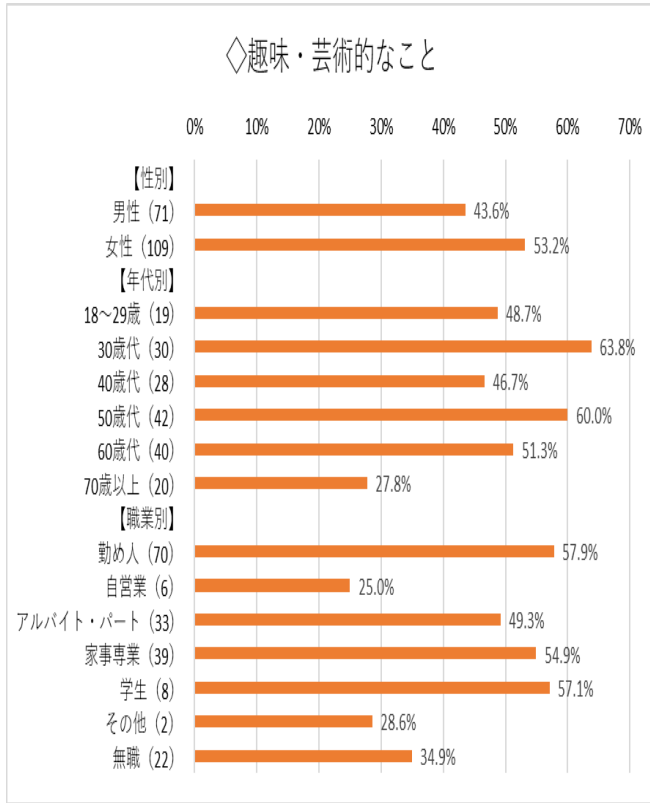
年代別で見ると、「趣味・芸術的なこと」と回答した割合は、あらゆる世代で数値が高く、「健康・医療・スポーツに関すること」では30歳代を除く世代で高くなりました。

職業別にみると、「趣味・芸術的なこと」と回答した割合は、自営業を除く職種で高く、「教養的なこと」と回答した割合は、学生が7.1%と低くなりました。

今後は、市民のニーズと社会課題を結び付けた生涯学習事業を展開することで、地域やまちづくりに関心を抱かせ、地域活動に参画してもらうための取り組みが必要です。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》



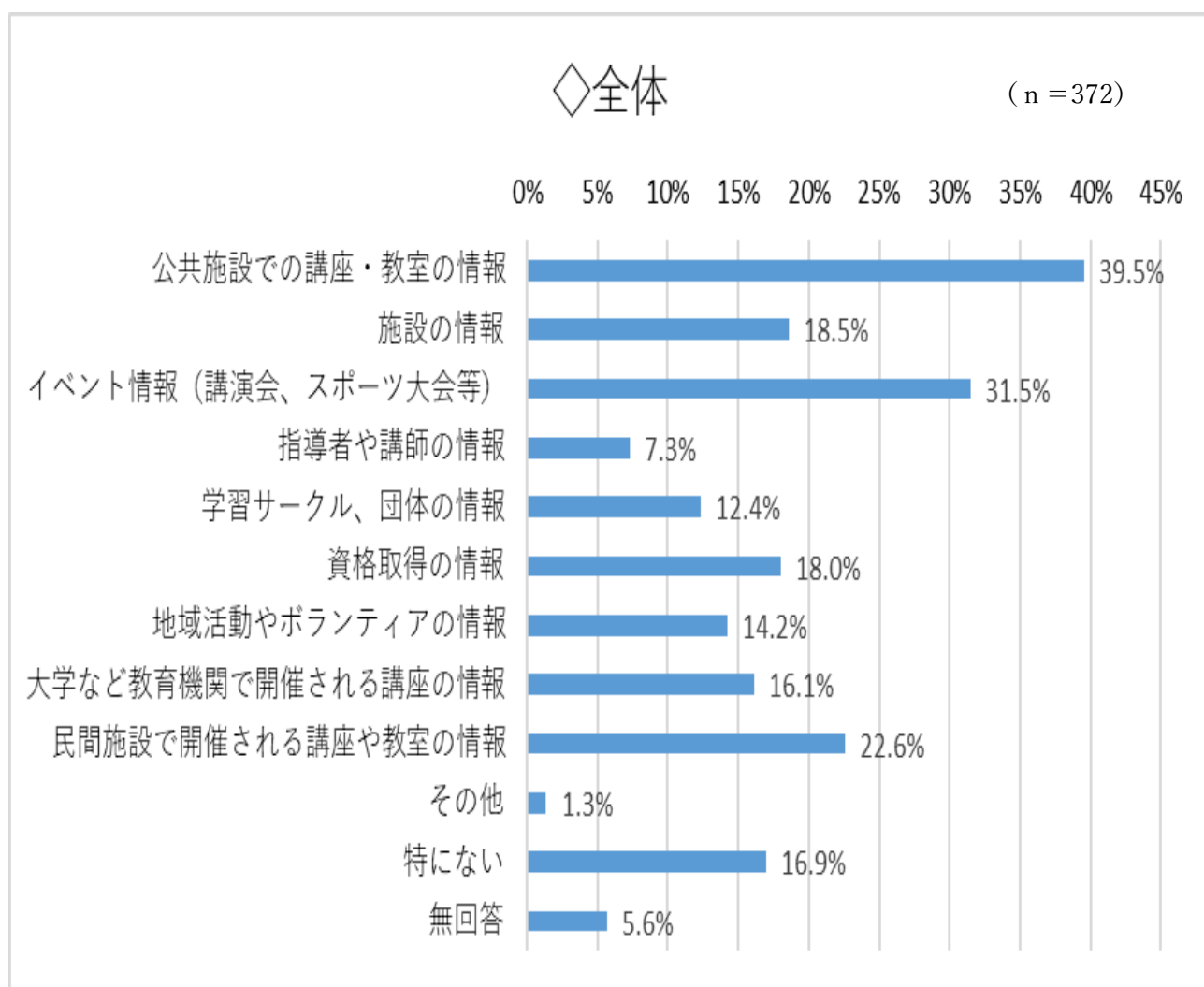
【問12】 あなたは、生涯学習に関するどのような情報が知りたいですか。
(複数回答可)

「公共施設での講座・教室の情報」(39.5%)、「イベント情報(講演会、スポーツ大会等)」(31.5%)、「民間施設で開催される講座や教室の情報」(22.6%)の順となりました。

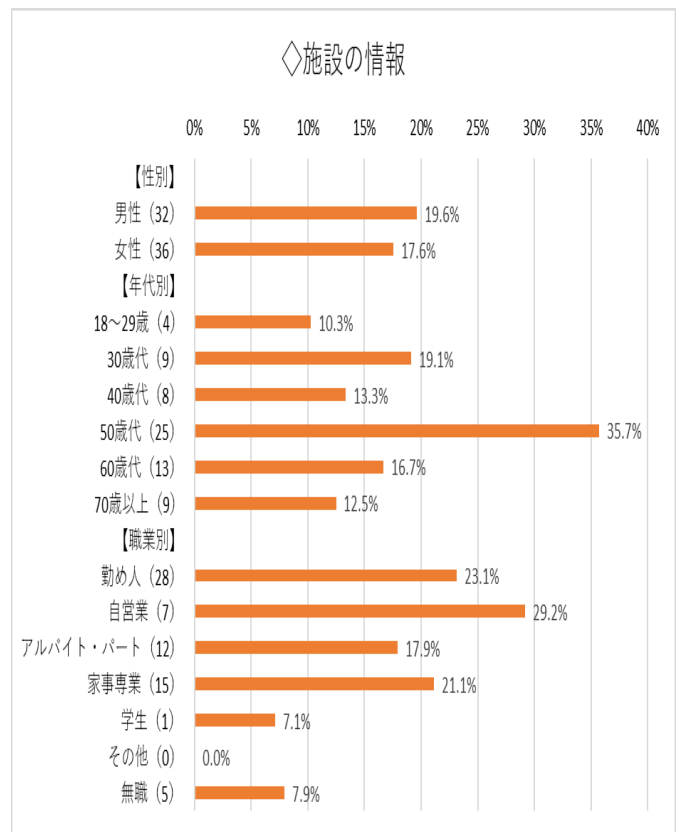
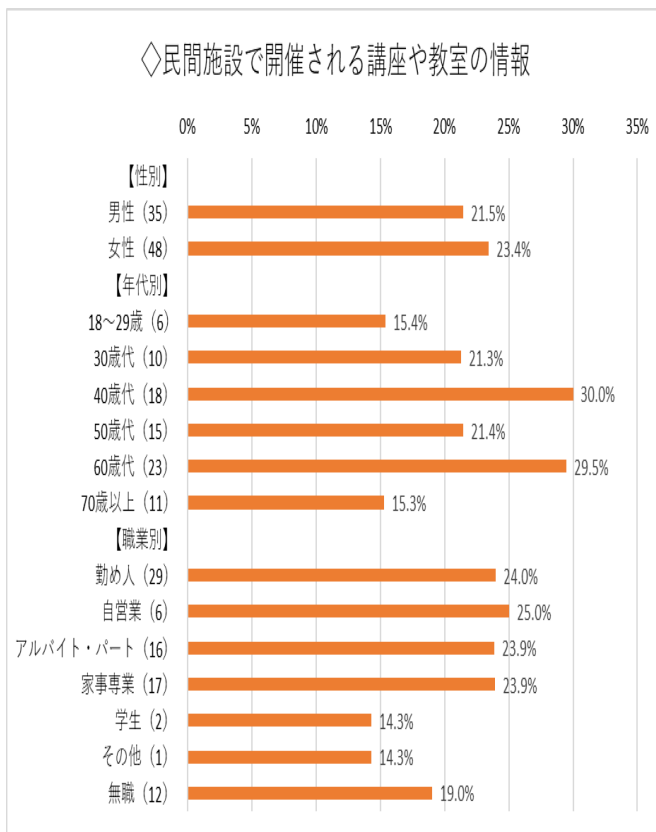
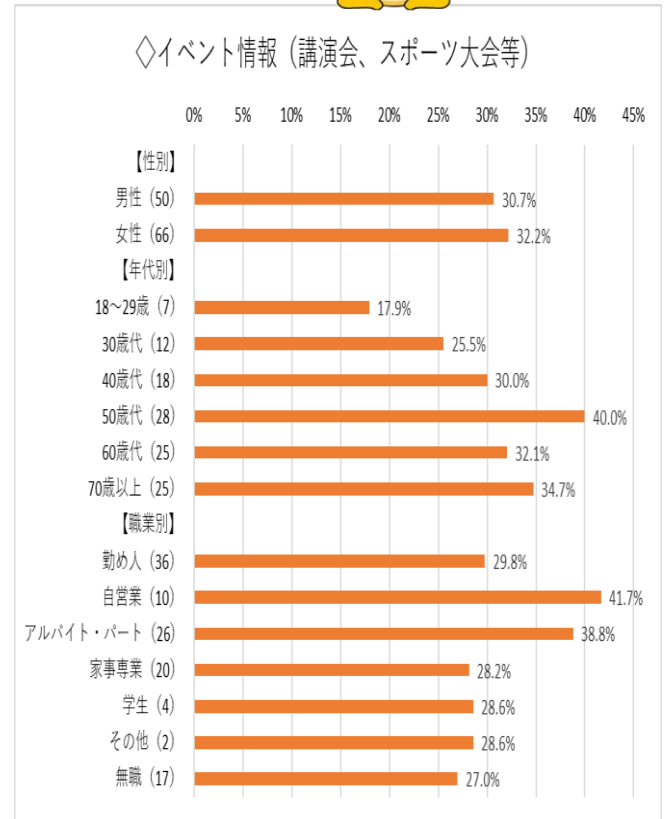
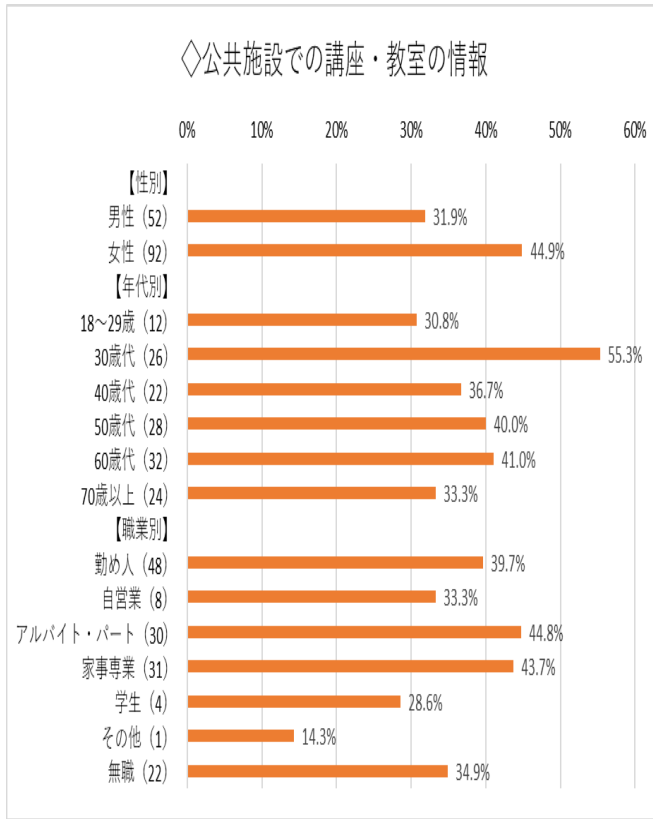
性別でみると「公共施設での講座・教室の情報」と回答した割合は、女性が男性に比べて10%以上高くなりました。

年代別でみると、「公共施設での講座・教室の情報」と回答した割合は、30歳代の55.3%を初めに全体的に高い数値となりました。また、「イベント情報」と回答した割合は、40歳代以上の世代で30%を超えています。

職業別にみると、「公共施設での講座・教室の情報」と回答した割合は、アルバイト・パート、家事専業が他の職種に比べ高く、年代と職種から、子育て世代の公共施設での講座・教室のニーズが高いことがうかがえます。また、「イベント情報」と回答した割合は、自営業で41.7%と高く、定期的な講座のほかに不定期に開催されるイベントの情報が求められています。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》



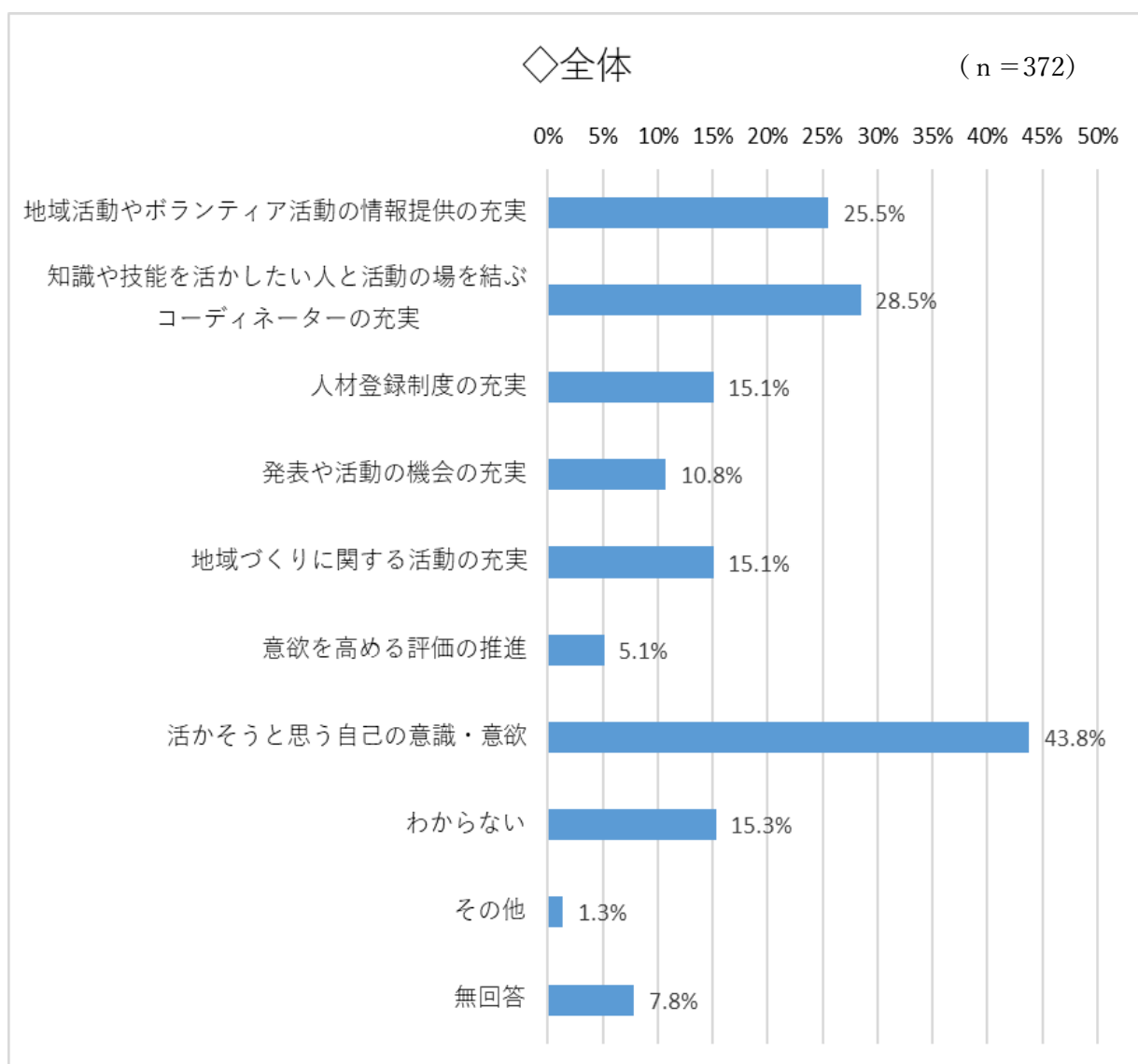
【問 1 3】 あなたは、生涯学習活動で身に着けた知識や技術、経験を活かすためには、どのようなことが必要だと思いますか。（複数回答可）

「活かそうと思う自己の意識・意欲」（43.8%）が最も高く、「知識や技能を活かしたい人と活動の場を結ぶコーディネーターの充実」（28.5%）、「地域活動やボランティア活動の情報提供の充実」（25.5%）の順となりました。

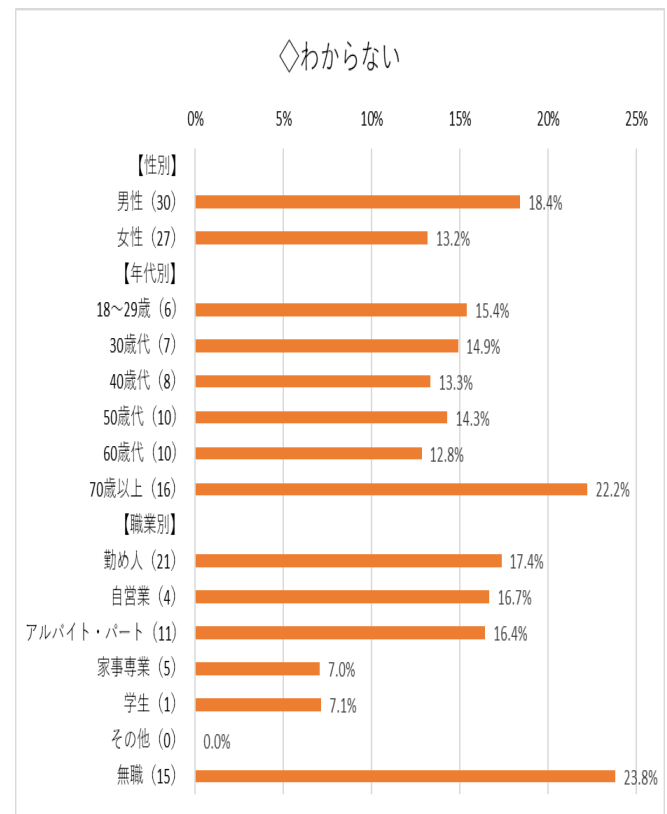
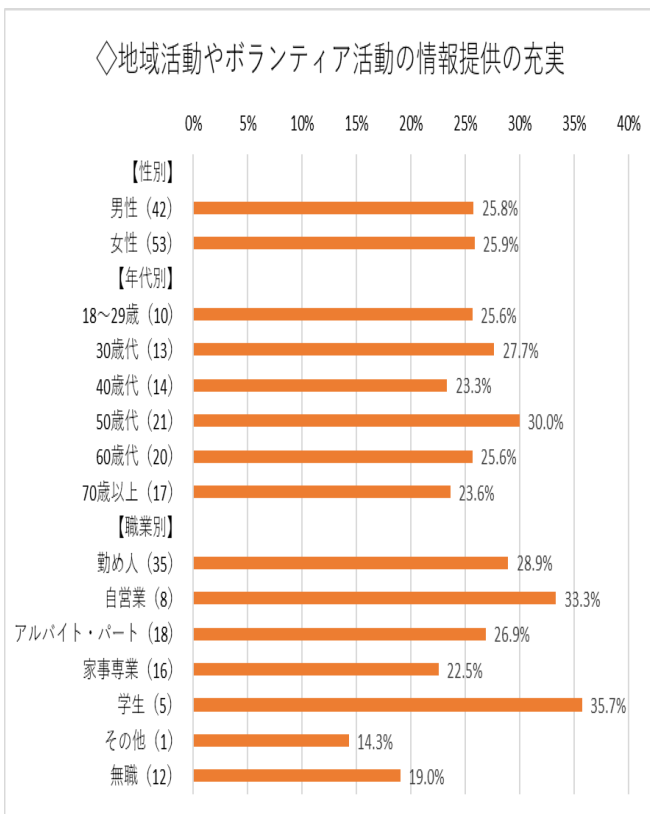
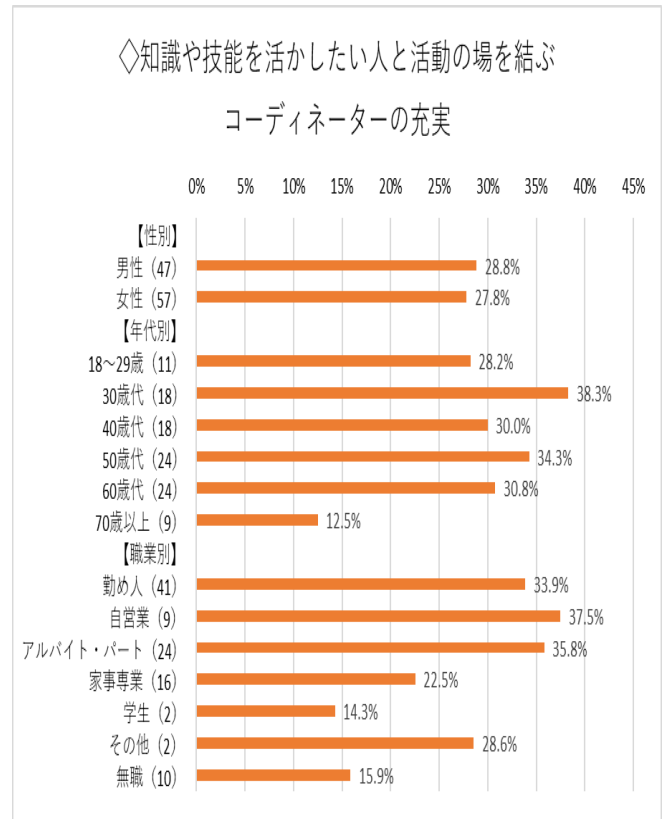
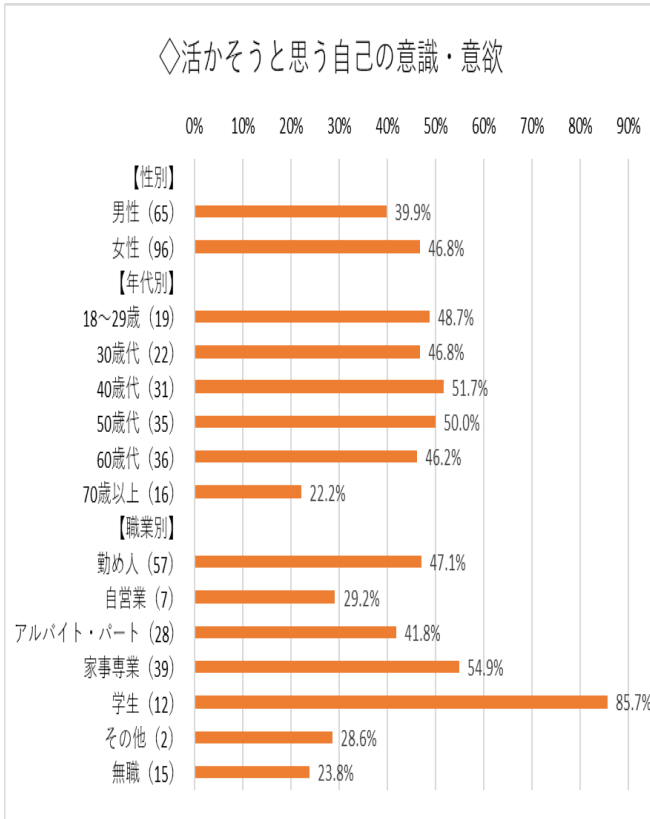
年代別でみると、「活かそうと思う自己の意識・意欲」、「知識や技能を活かしたい人と活動の場を結ぶコーディネーターの充実」と回答した割合は、70歳以上を除く世代で高くなりました。

職業別にみると、「活かそうと思う自己の意識・意欲」と回答した割合は、学生で85.7%と突出して高い数値となりました。

今後は、コーディネーターの充実や地域活動等の情報提供の充実といった環境的要因のほか、活かそうと思う自己の意識・意欲を刺激するような内的要因に対する働きかけが課題となります。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別》



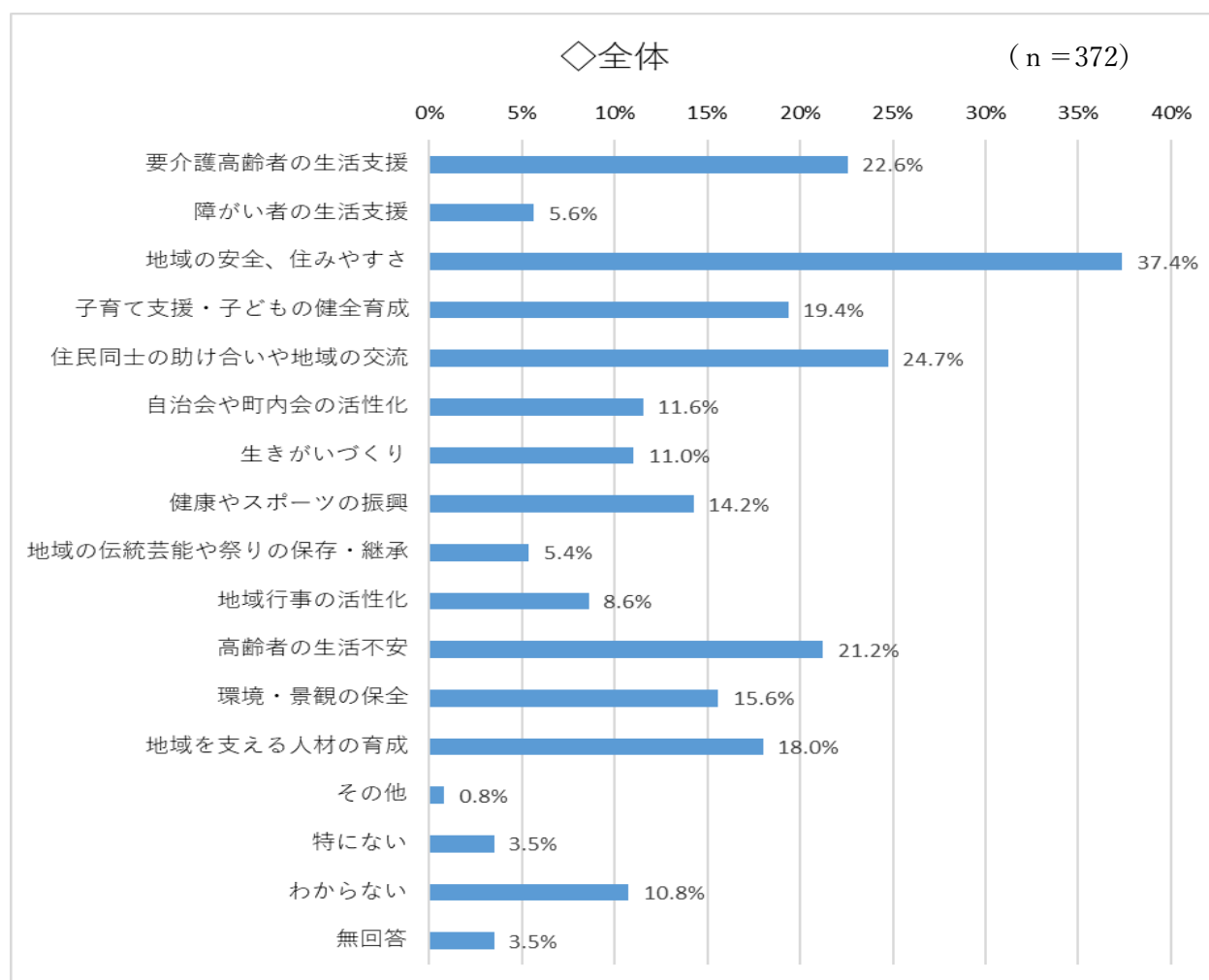
VI. 生涯学習を通じた地域づくりや子どもたちのことについて

【問14】 生涯学習によって、地域や社会の課題を解決することが期待されています。あなたがお住まいの地域にはどのような課題があると考えますか。（3つ以内）

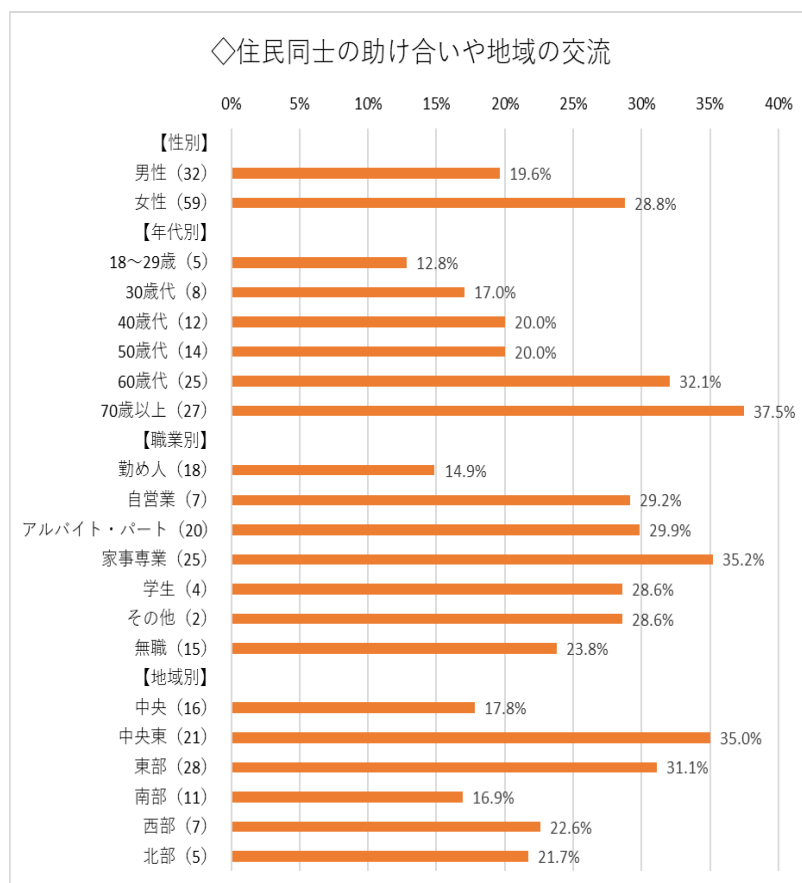
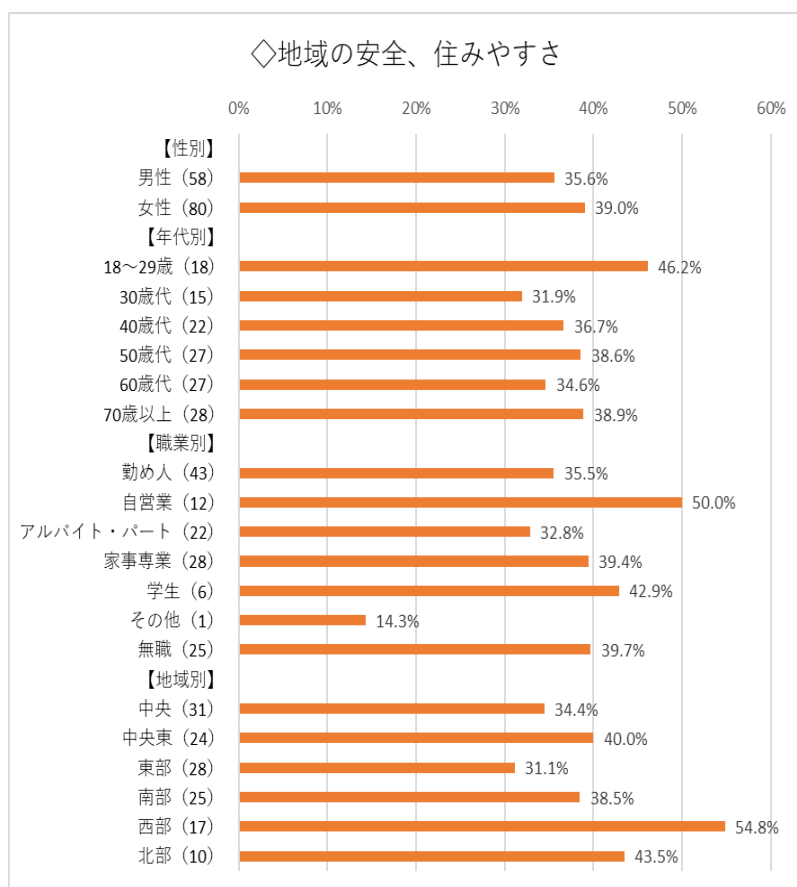
「地域の安全、住みやすさ」(37.4%)、「住民同士の助け合いや地域の交流」(24.7%)、「要介護高齢者の生活支援」(22.6%)の順となり、生活に対する安心・安全を課題とする割合が最も高くなりました。

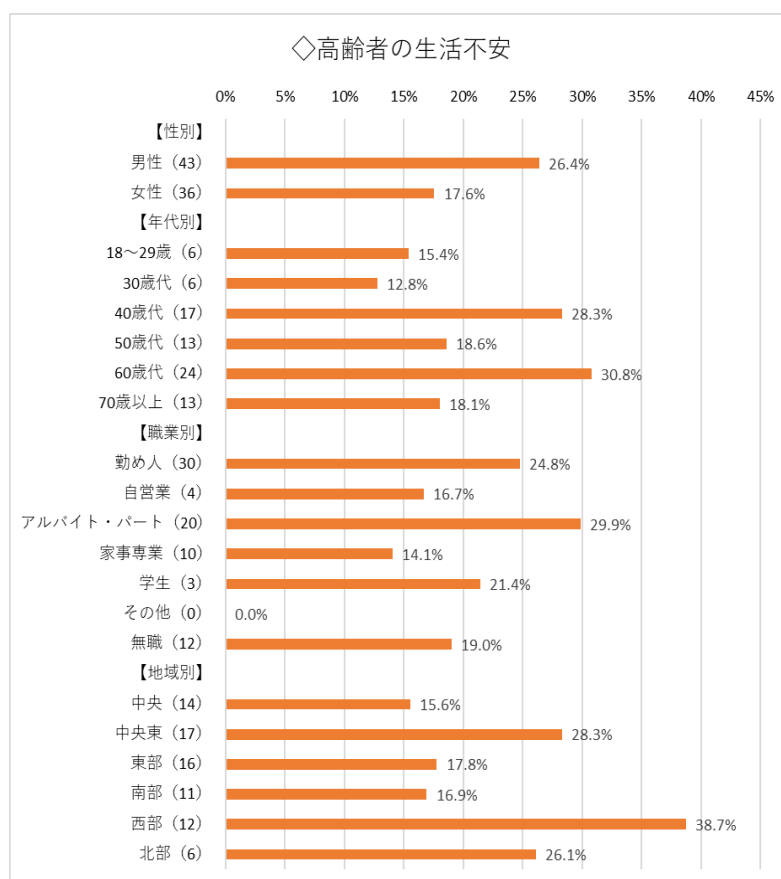
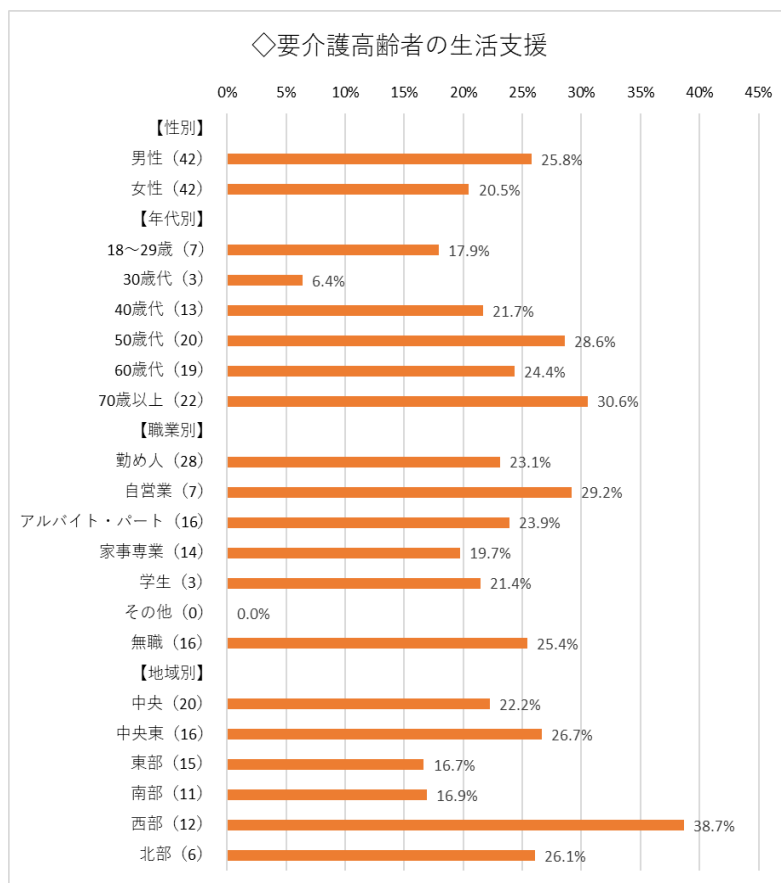
年代別でみると、「地域の安全、住みやすさ」と回答した割合は、18歳～29歳の46.2%を初めに全世代で高くなりました。また、「住民同士の助け合いや地域の交流」、「要介護高齢者の生活支援」、「高齢者の生活不安」と回答した割合は、40歳代以上の世代で高くなりました。

地区別にみると、「地域の安全、住みやすさ」のほかに、中央地区では「子育て支援・子どもの健全育成」、中央東地区と東部地区では「住民同士の助け合いや地域の交流」、南部地区では「環境・景観の保全」、西部地区と北部地区では「要介護高齢者の生活支援」の数値も高く、地域による課題の違いが浮かび上がりました。

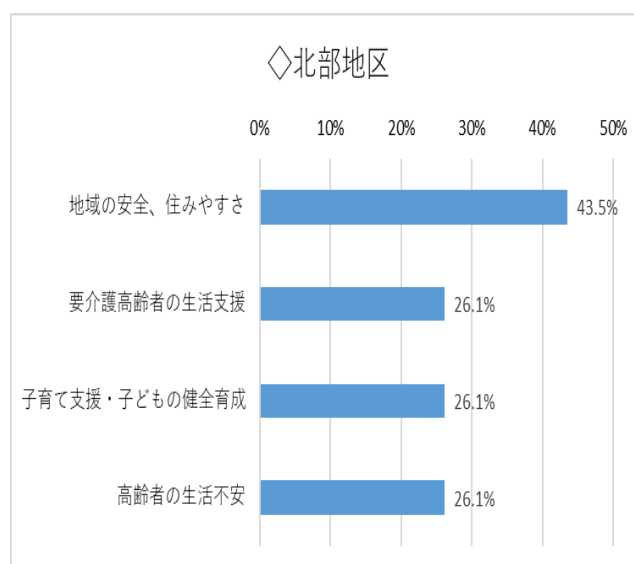
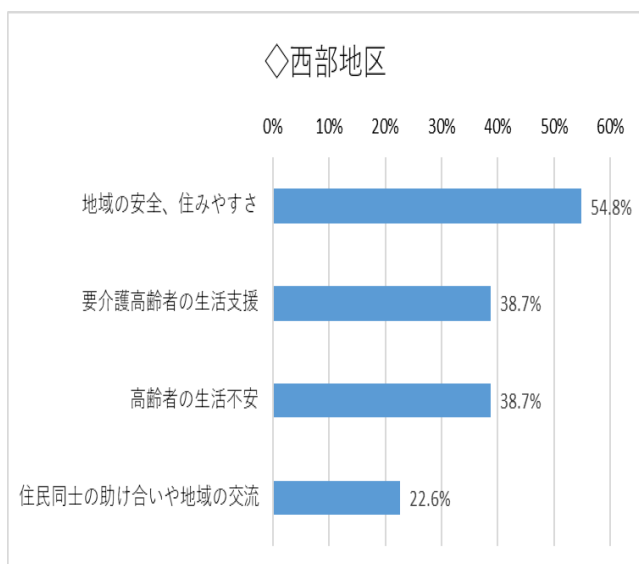
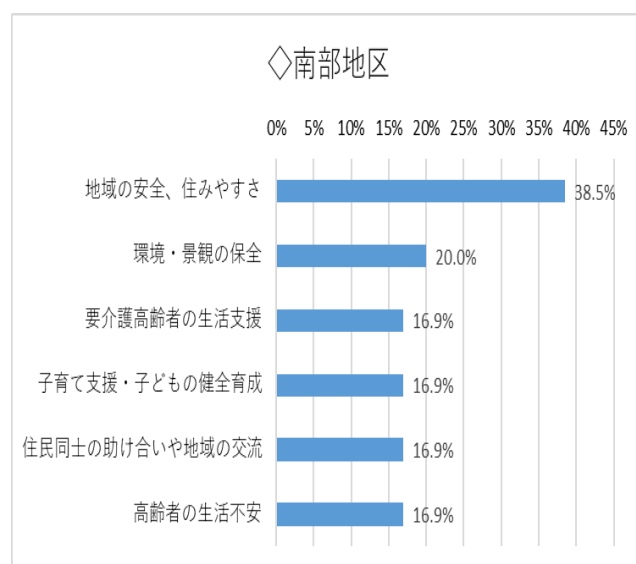
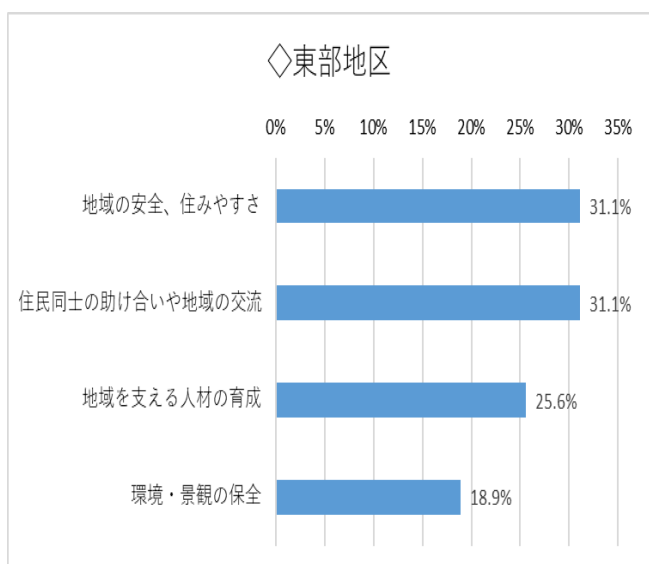
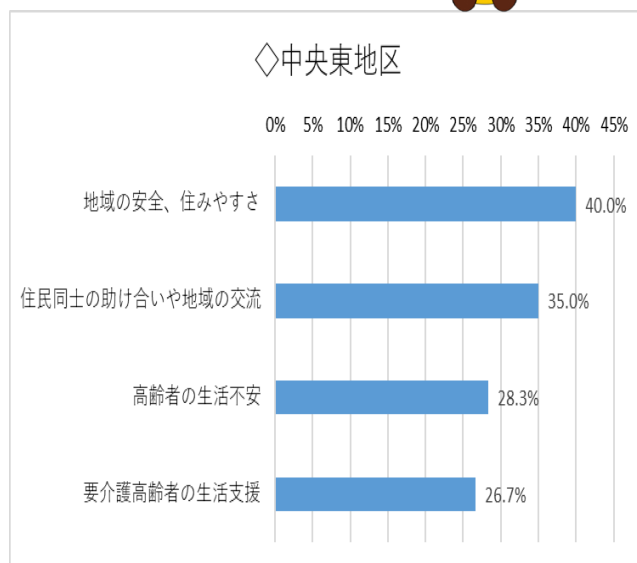
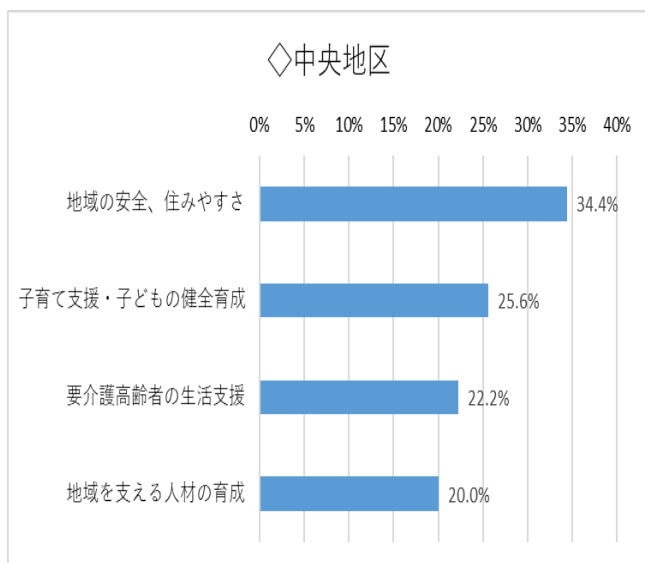


《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別・地区別》





《地区別集計＊上位4項目》



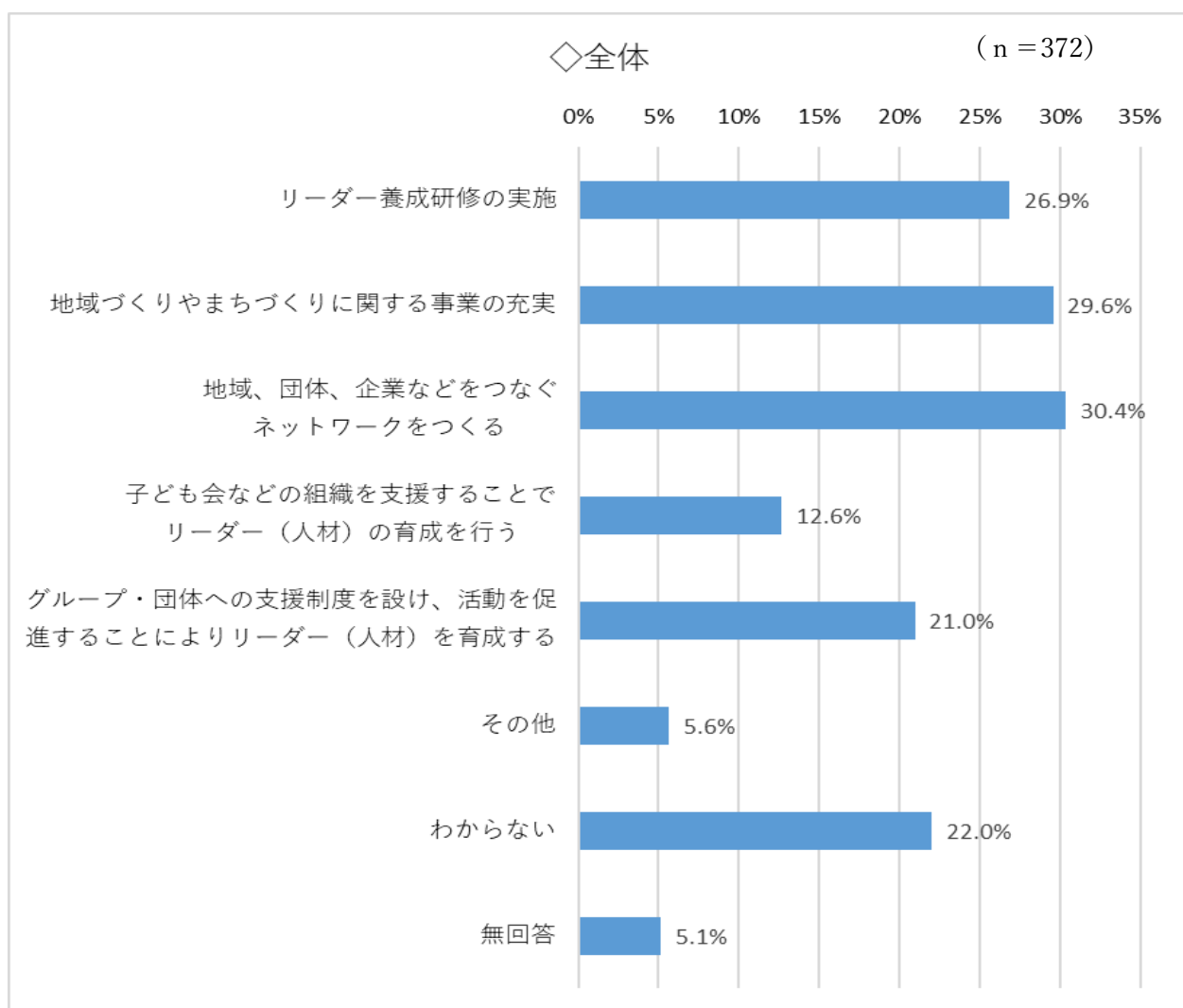
【問15】 生涯学習を通して地域やまちづくりのリーダー（人材）を育成していくためにはどのような取り組みが必要だと思いますか。
（複数回答可）

「地域、団体、企業などをつなぐネットワークをつくる」（30.4%）、「地域づくりやまちづくりに関する事業の充実」（29.6%）、「リーダー養成研修の実施」（26.9%）の順となりました。

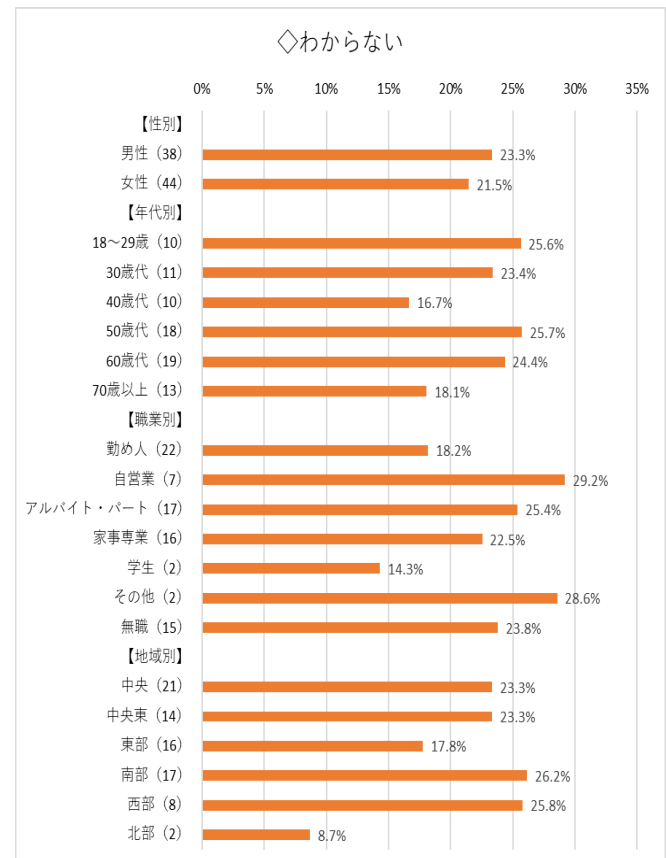
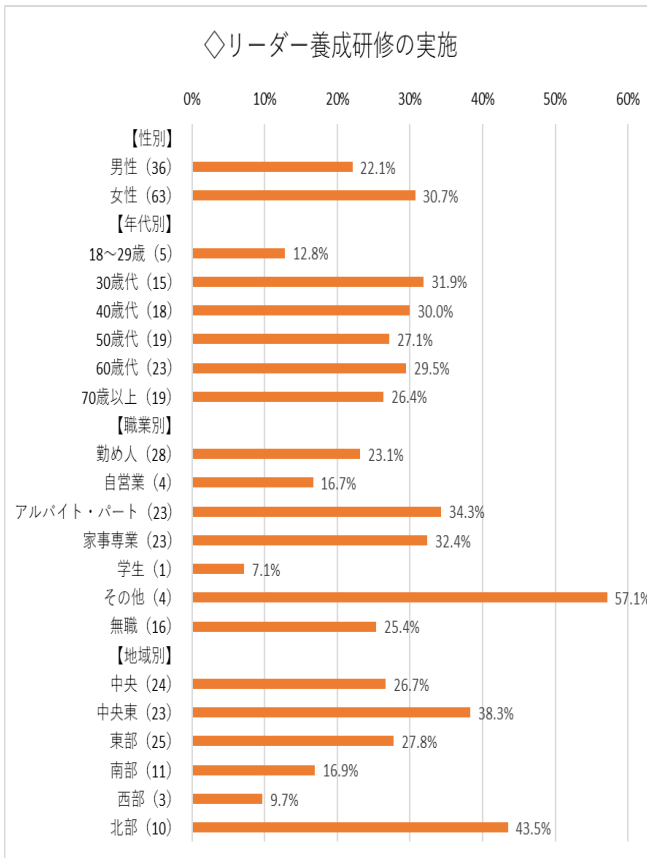
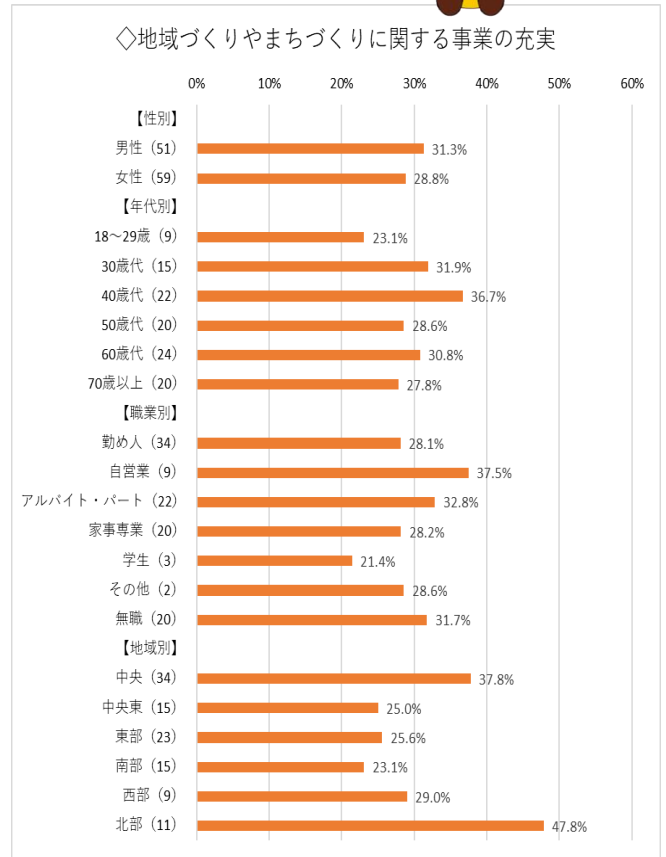
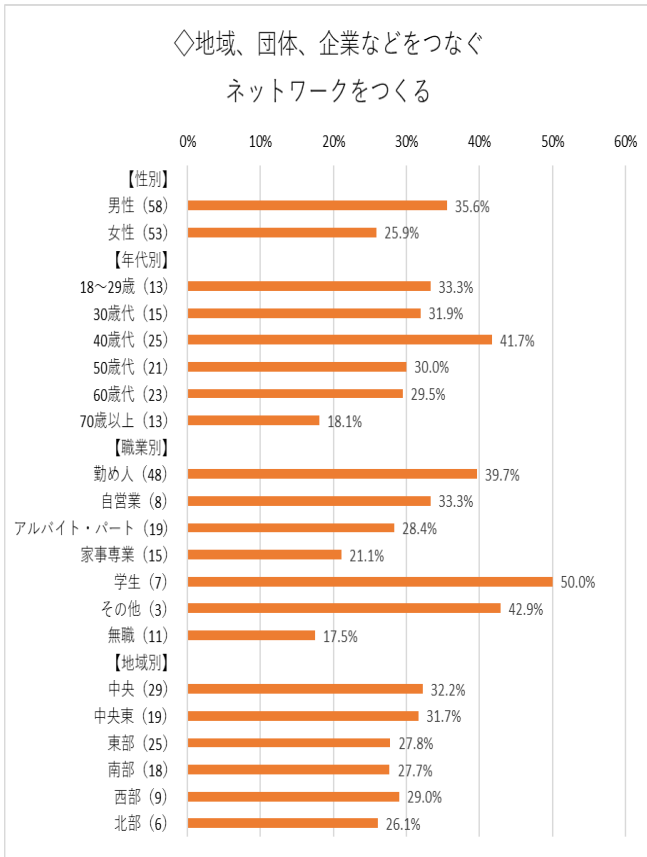
年代別で見ると、「地域、団体、企業などをつなぐネットワークをつくる」と回答した割合は、70歳以上を除く世代で高い数値となりました。

地区別にみると、北部地区では「地域づくりやまちづくりに関する事業の充実」と回答した割合は47.8%、「リーダー養成研修の実施」では43.5%と他の地区に比べて突出しています。

地域には、豊かな知識や経験、優れた技術や能力を持つ人材が多くいることから、こうした人材を発掘し、地域で活躍してくれる人材に育成することが重要です。調査結果から、養成研修などの座学型の取り組みと、地域でのネットワークを構築しながら、事業やプロジェクトへの参加を通じた実践的な取り組みを併せて実施していくことが必要です。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別・地区別》



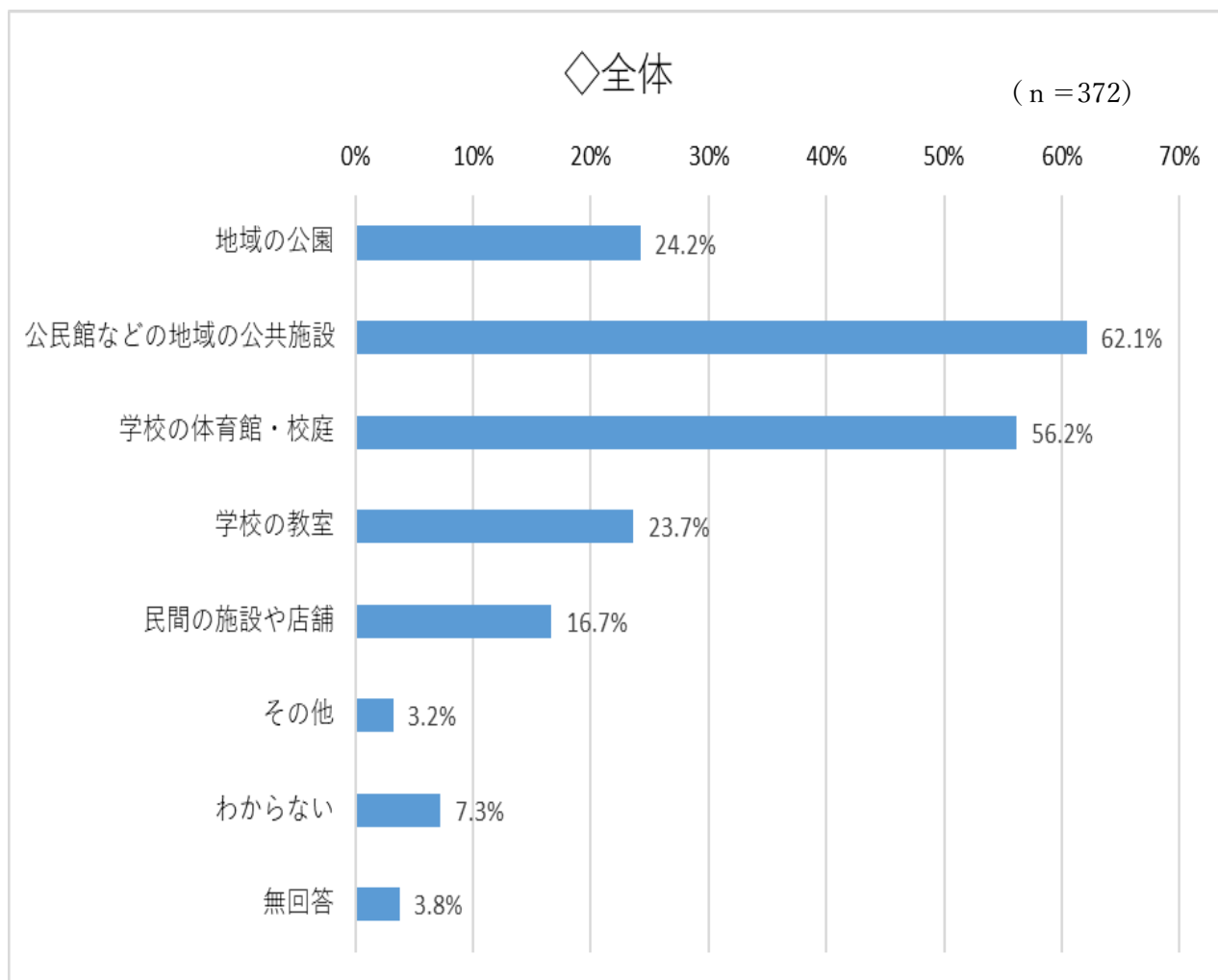
【問16】 あなたは、放課後や休日に小中学生が地域の人と生涯学習活動（文化・スポーツ活動、レクリエーション等）をするには、どの場所がふさわしいと思いますか。（複数回答可）

「公民館などの地域の公共施設」（62.1%）、「学校の体育館・校庭」（56.2%）の2項目が突出して高い結果となりました。

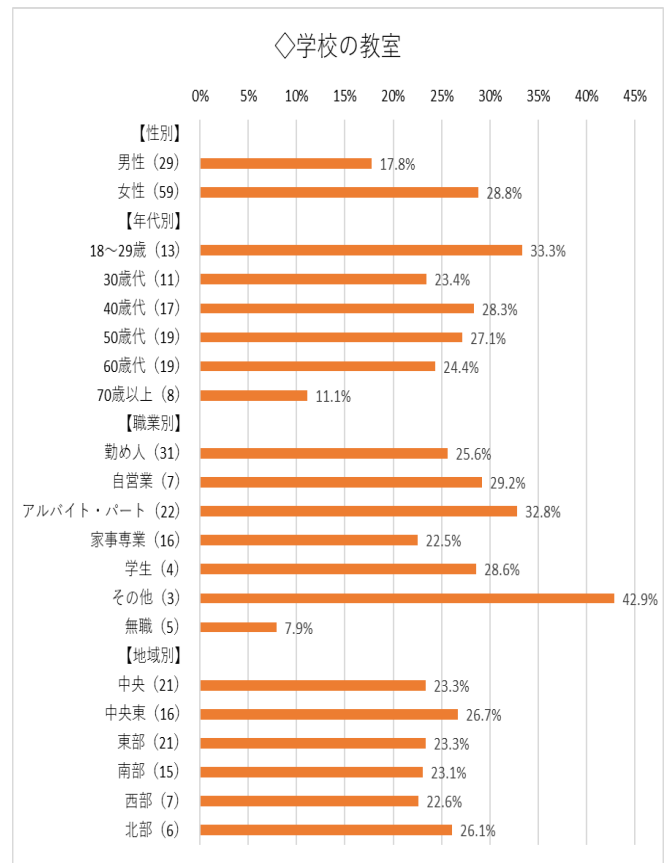
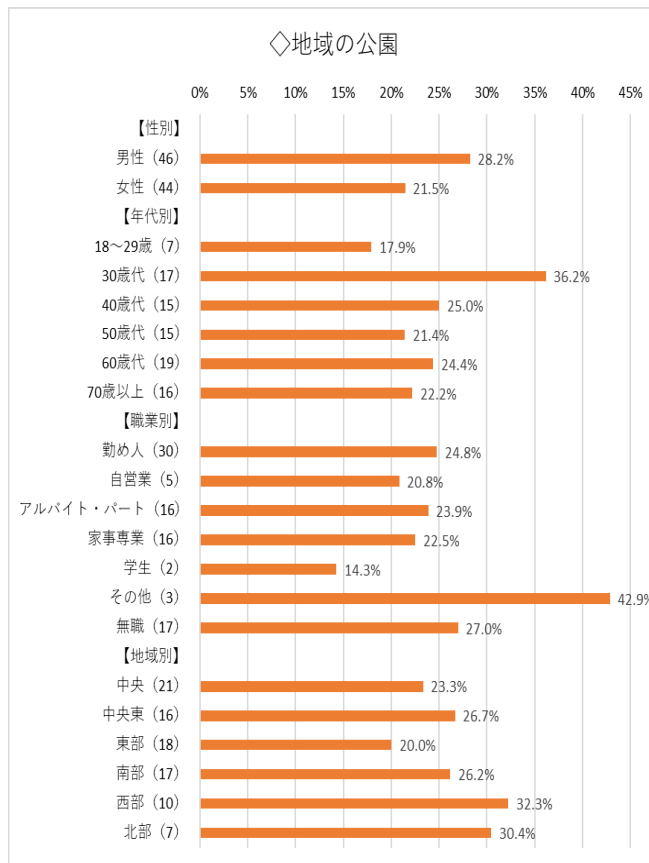
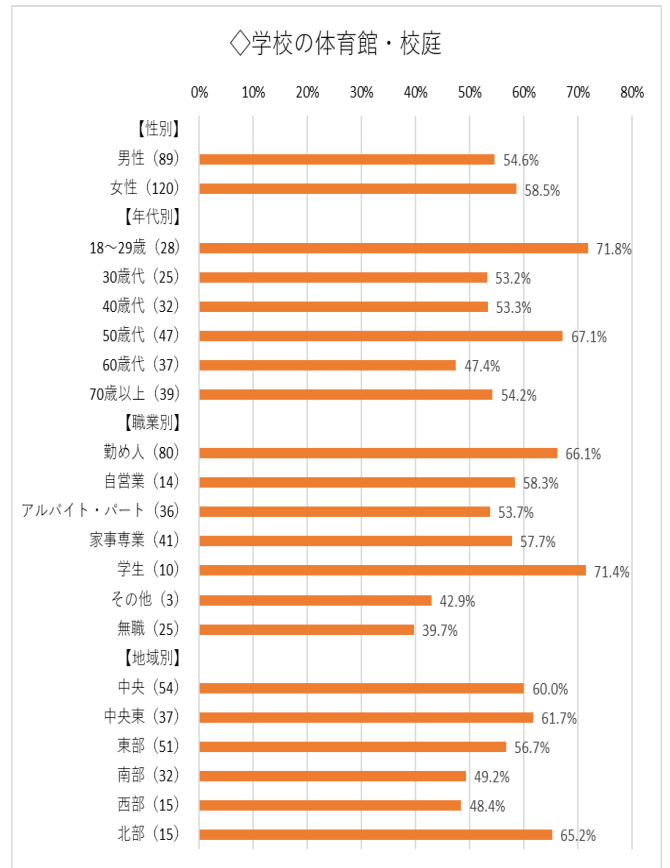
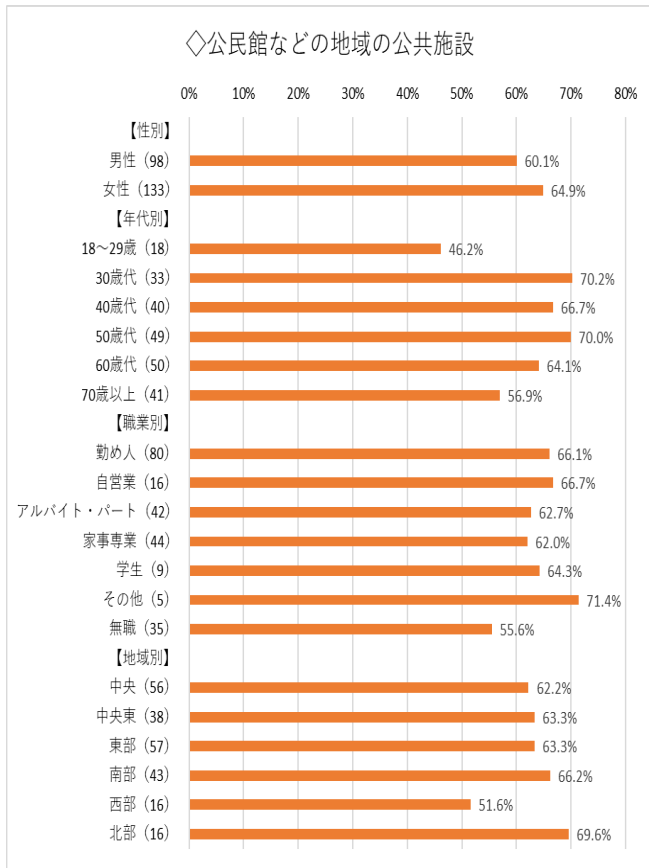
年代別でみると、「学校の体育館・校庭」と回答した割合は、18歳～29歳で71.8%と特に高く、学校をより身近な場所として捉えていることがうかがえます。また、30歳代～60歳代までは、「公民館などの地域の公共施設」と回答した割合が60%以上となりました。

職業別、地区別でも、上位2項目が高い数値となりました。

調査結果から、改めて公民館などの公共施設や学校などが地域の生涯学習活動の拠点となることが期待されており、身近で安心・安全に利用できる場所での活動が求められていることがうかがえます。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別・地区別》



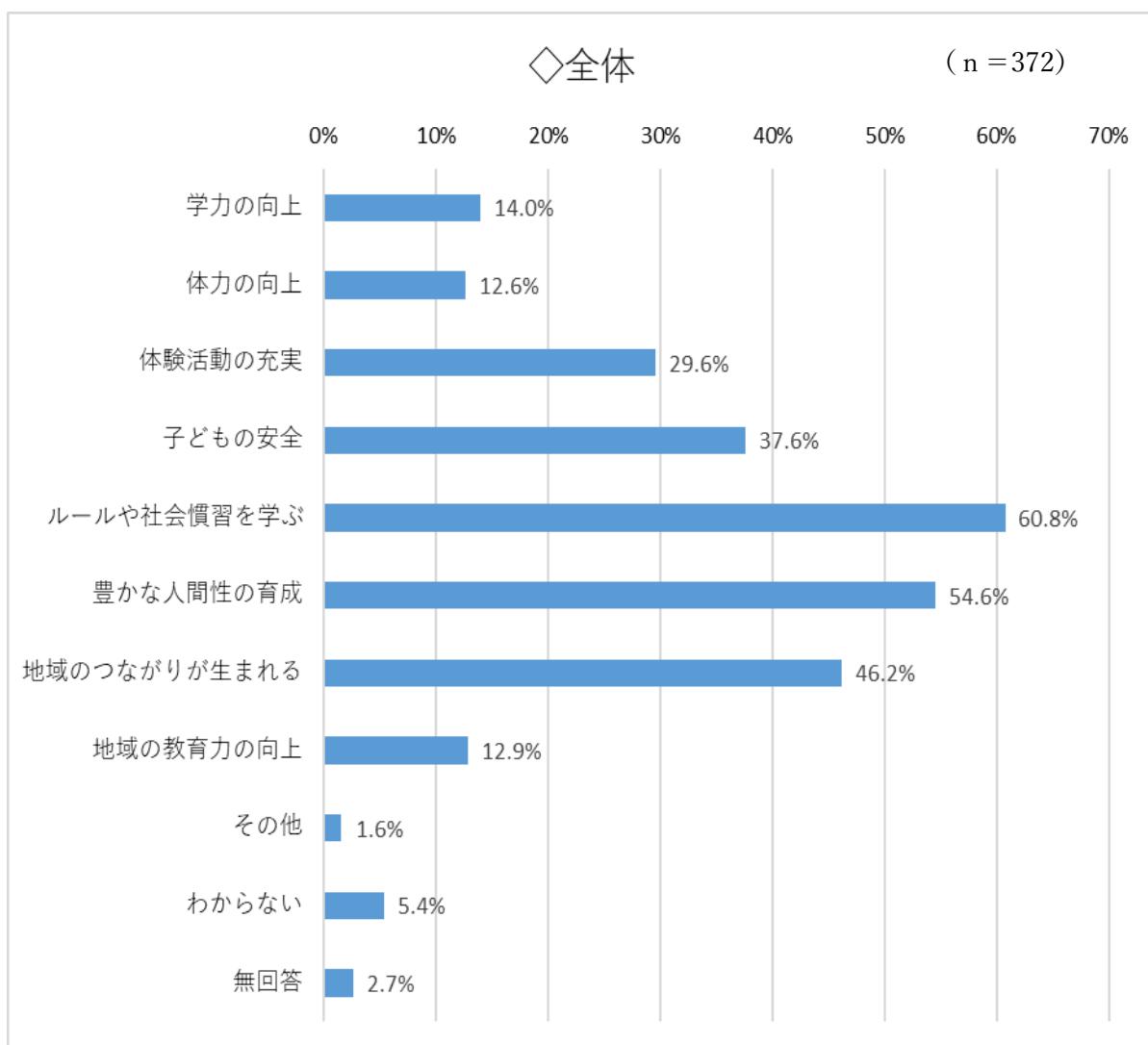
【問17】 あなたは、地域、学校、家庭が連携し、子どもの学びや成長を支援することで、期待できる効果はどのようなことだと思いますか。
(複数回答可)

「ルールや社会慣習を学ぶ」(60.8%)、「豊かな人間性の育成」(54.6%)、「地域のつながりが生まれる」(46.2%)の順となりました。

性別で見ると、「地域のつながりが生まれる」と「子どもの安全」と回答した割合は、女性が男性に比べて約10%高い数値となりました。

年代別、職業別、地域別で見ても、上位3項目が高い数値となりました。

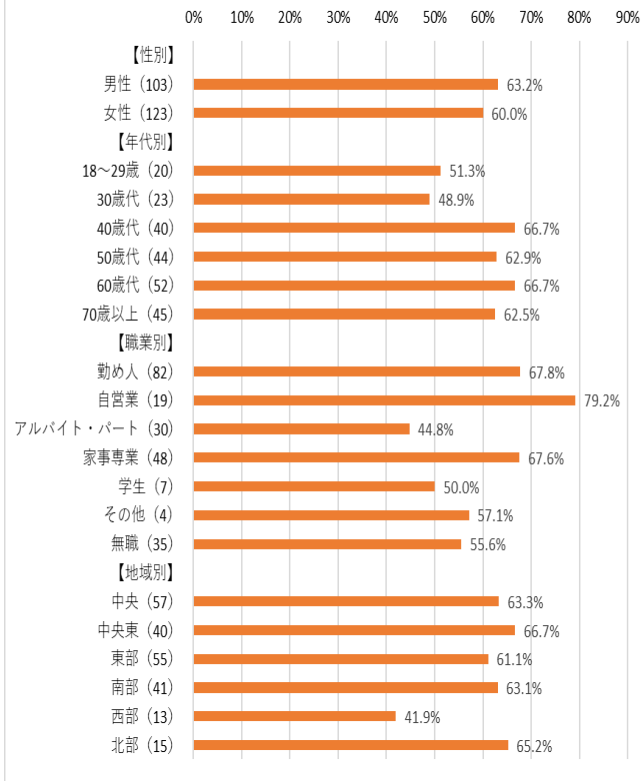
調査結果から、人格形成期である子ども時代に、様々な人と出会い、多様な価値観にふれることで社会のルールや豊かな人間性を育み、生き抜く力を育成すること、ライフスタイルの多様化などから人間関係が希薄になっている中、子どもの支援など学校を核とした地域づくりが期待されていることがうかがえます。



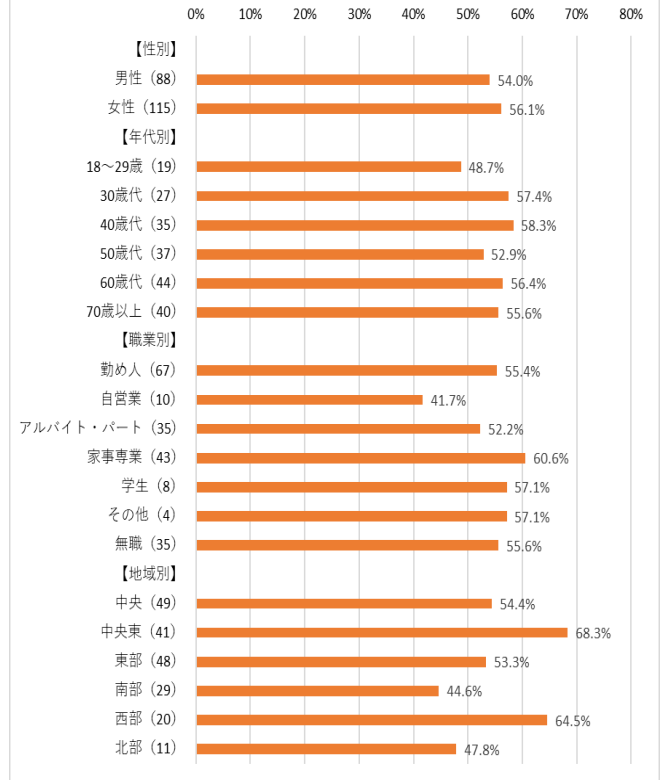
《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別・地区別》



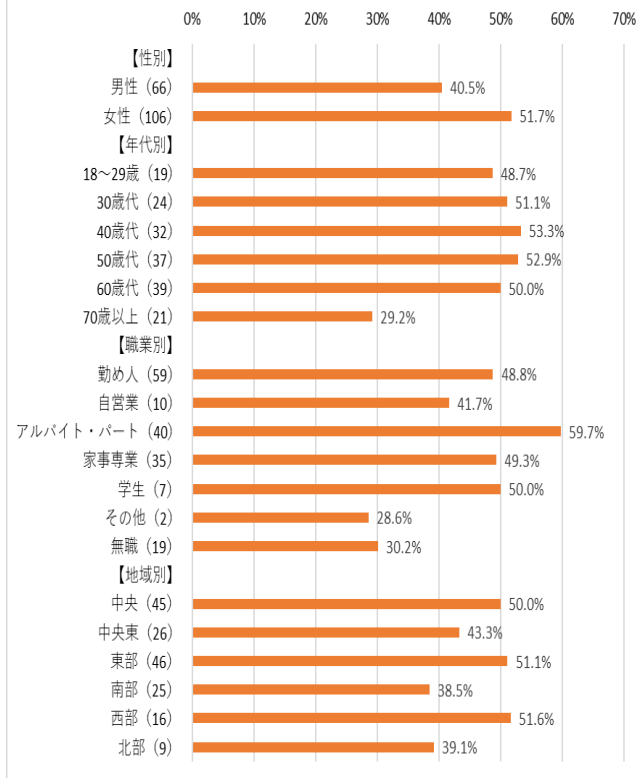
◇ルールや社会慣習を学ぶ



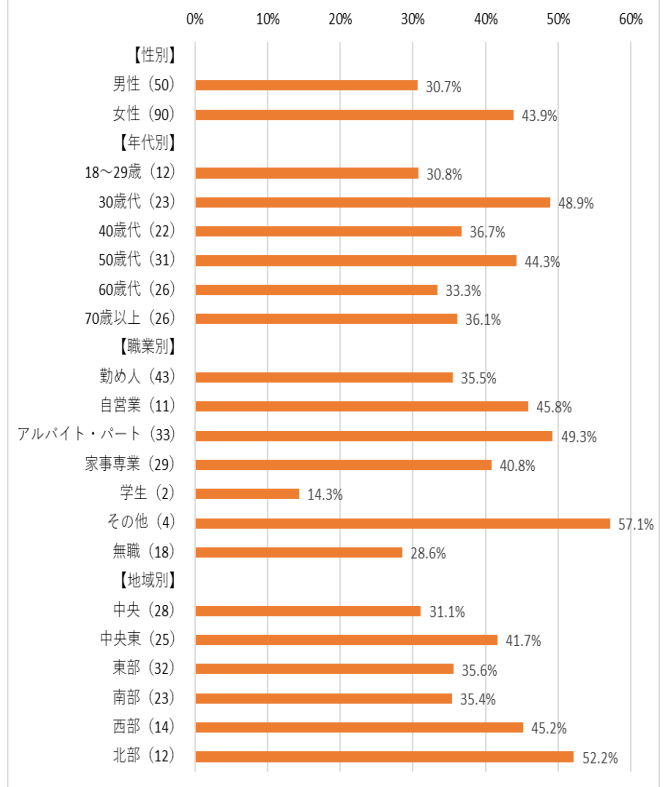
◇豊かな人間性の育成



◇地域のつながりが生まれる



◇子どもの安全



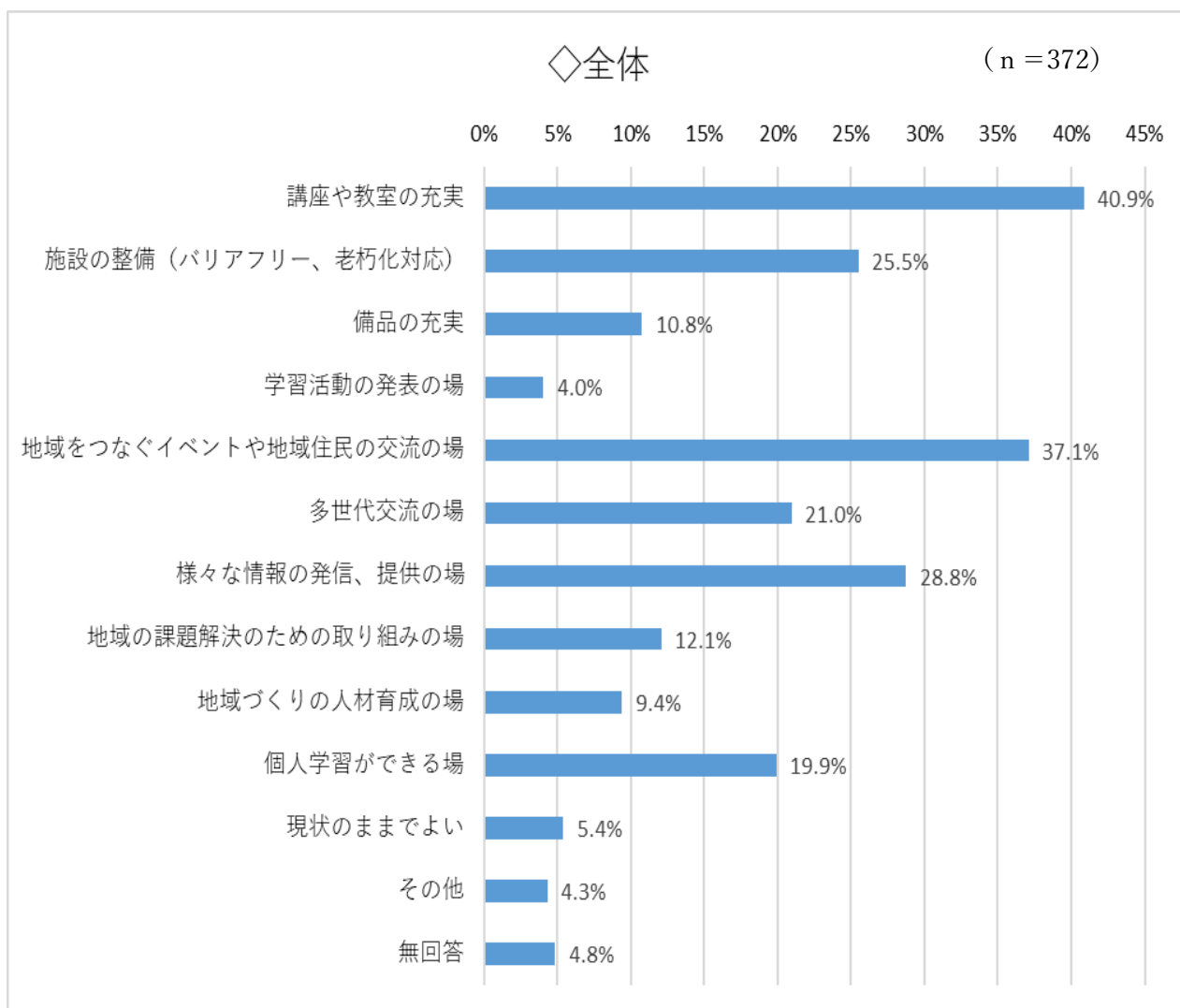
【問18】 公民館は、地域住民の身近な生涯学習施設です。あなたは、これからの公民館がどうあってほしいと思いますか。（3つ以内）

「講座や教室の充実」(40.9%)、「地域をつなぐイベントや地域住民の交流の場」(37.1%)、「様々な情報の発信、提供の場」(28.8%)の順となりました。

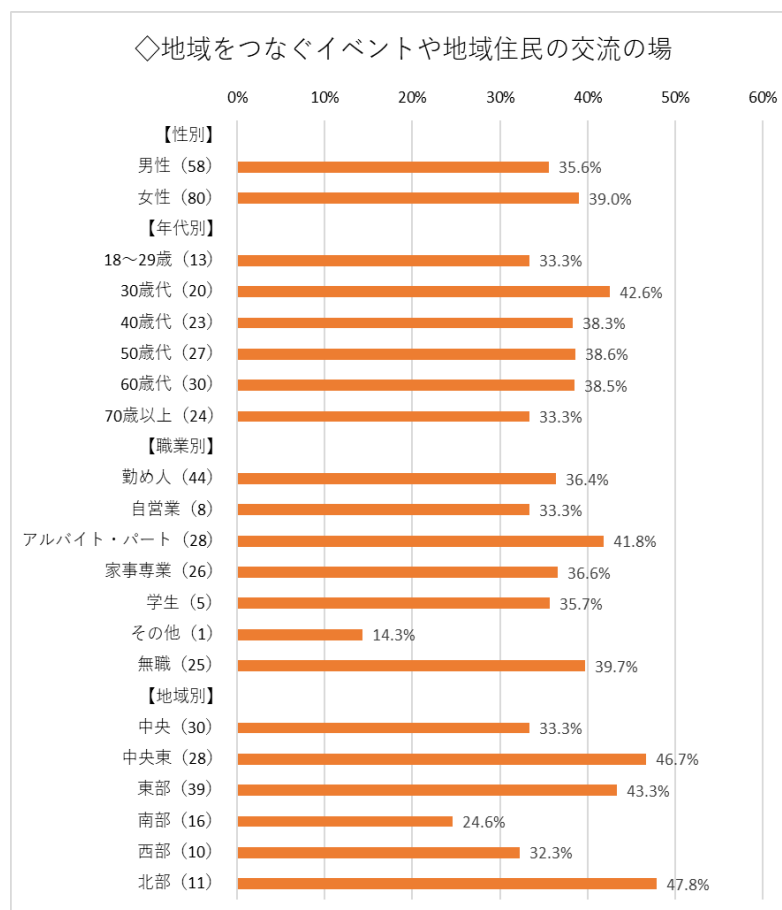
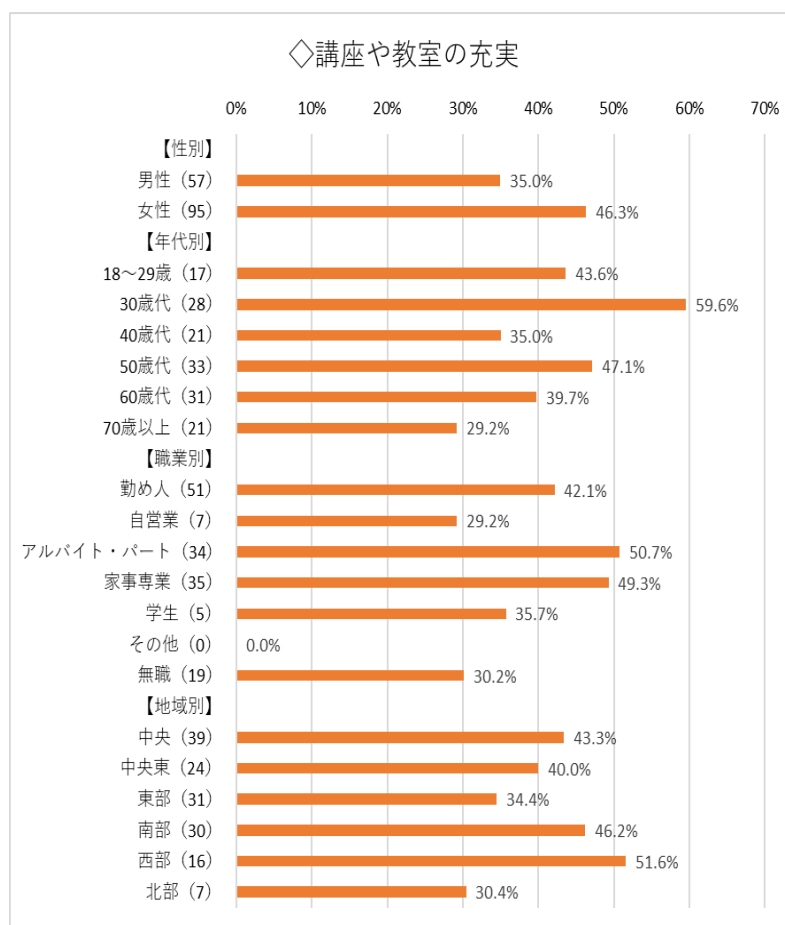
世代別でみると、「講座や教室の充実」と回答した割合は、30歳代で59.6%と突出して高く、「地域をつなぐイベントや地域住民の交流の場」は、各世代とも高い傾向にあります。

地区別にみると、全体の上位3項目が多い中、中央地区では「施設の整備」、東部地区では「多世代交流の場」、中央東地区と南部地区では「個人学習ができる場所」、西部地区では「施設の整備」と「多世代交流の場」、北部地区では「施設の整備」と「地域の課題解決のための取り組みの場」が高くなりました。

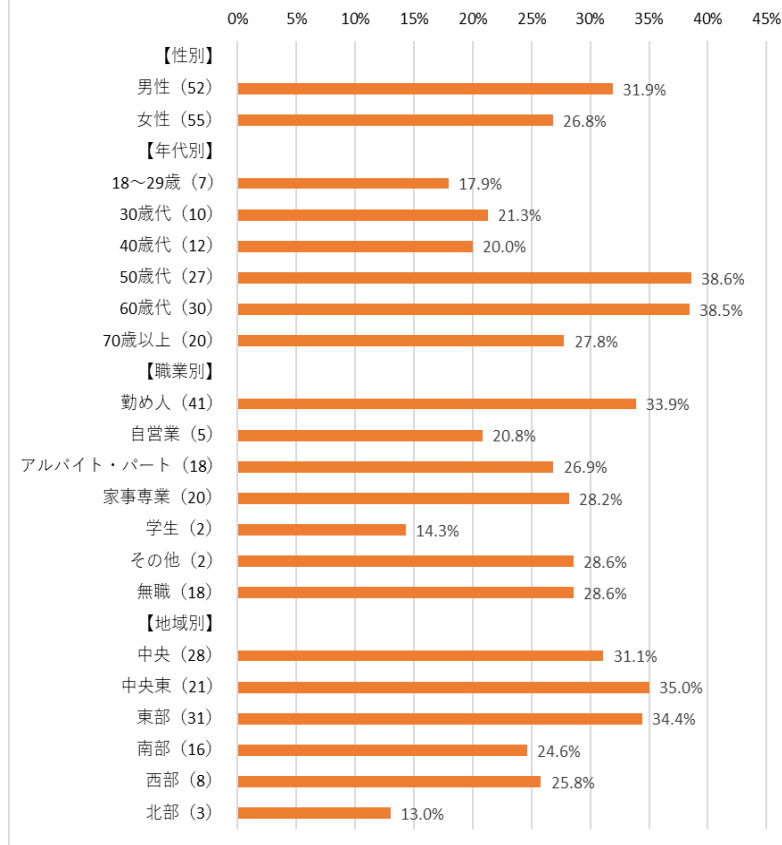
今後、公民館は「講座や教室の充実」や「個人学習ができる場所」など自己の満足度を高め、人生を豊かにするための情報提供や場所となるほか、「地域をつなぐイベントや地域住民の交流の場」や「多世代交流の場」、「地域課題解決のための取り組みの場」など、世代間交流を通じて相互理解や地域の連帯感を高め、地域の課題解決の拠点となることが求められています。



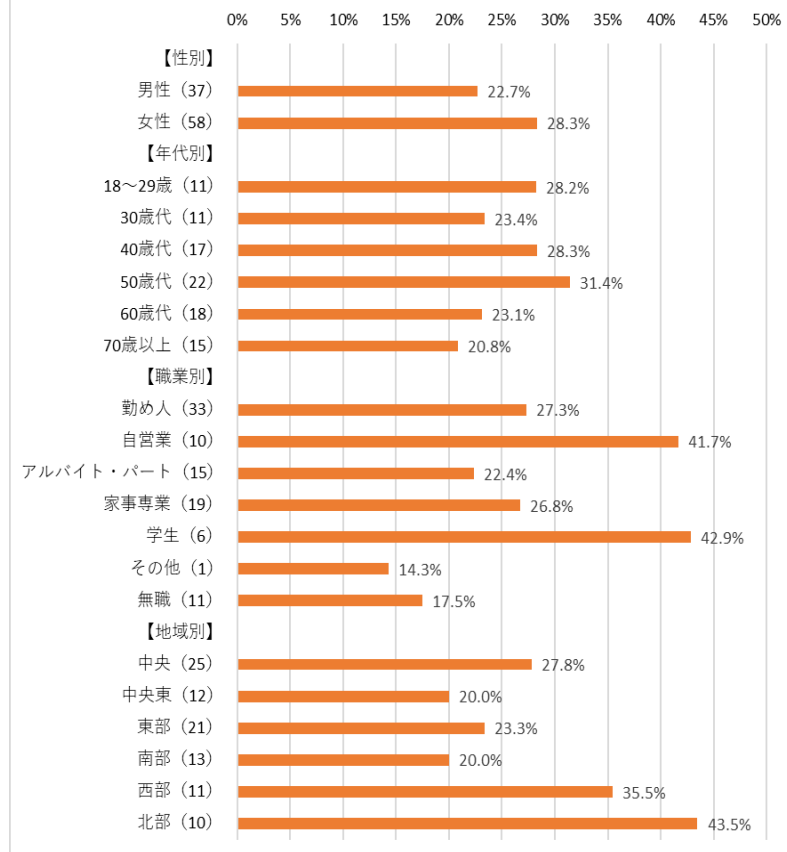
《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別・地区別》



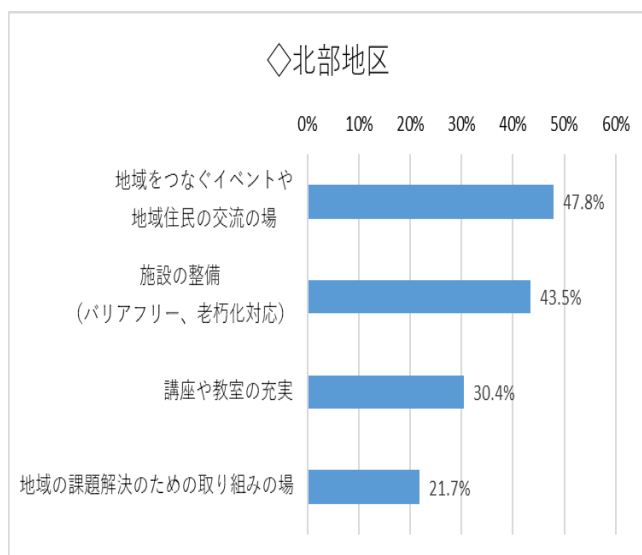
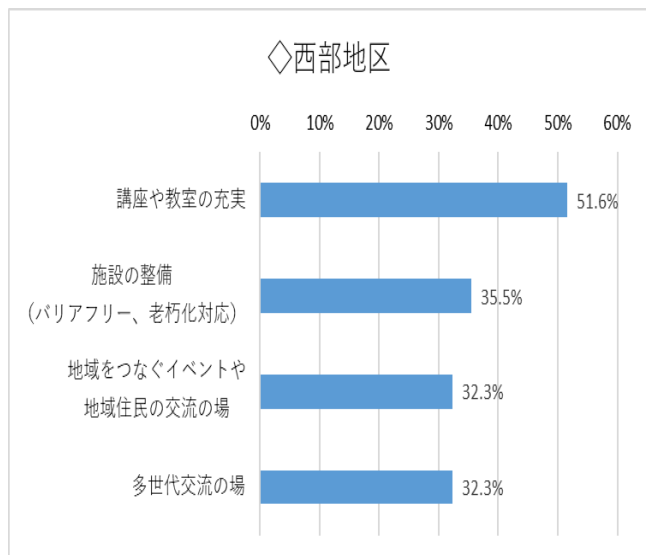
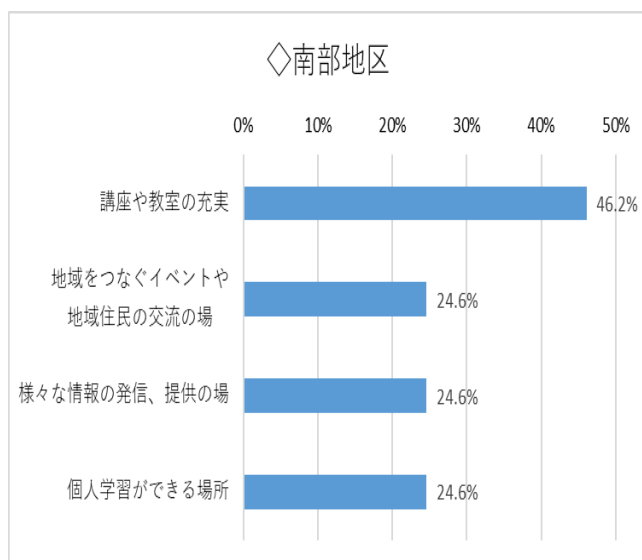
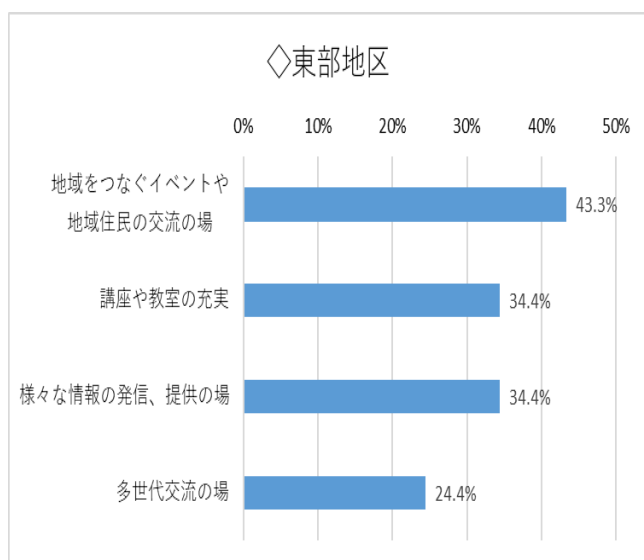
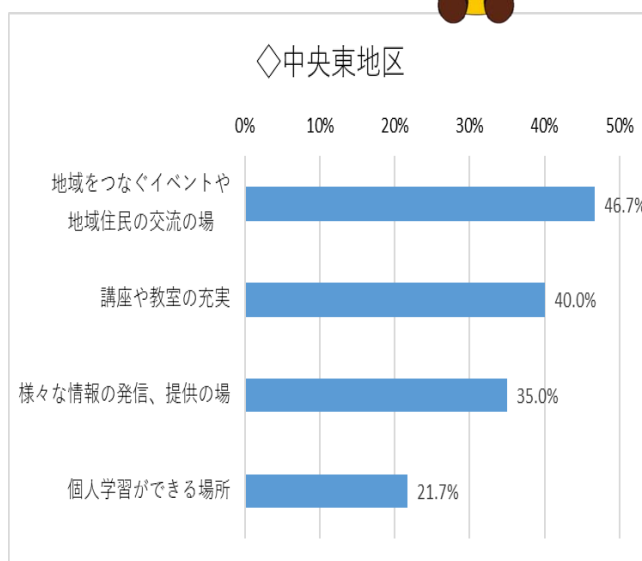
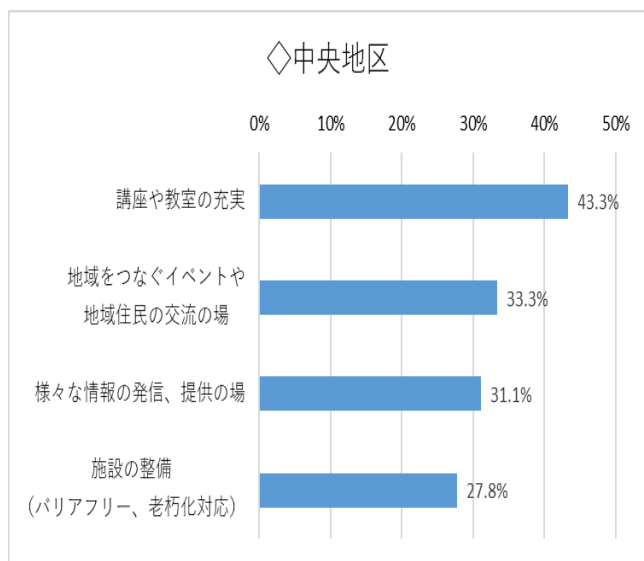
◇様々な情報の発信、提供の場



◇施設の整備（バリアフリー、老朽化対応）



《地区別集計＊上位4項目》



【問19】 今後、生涯学習をもっと盛んにしていくために鎌ヶ谷市はどのようなことに力をいれるべきだと思いますか。（3つ以内）

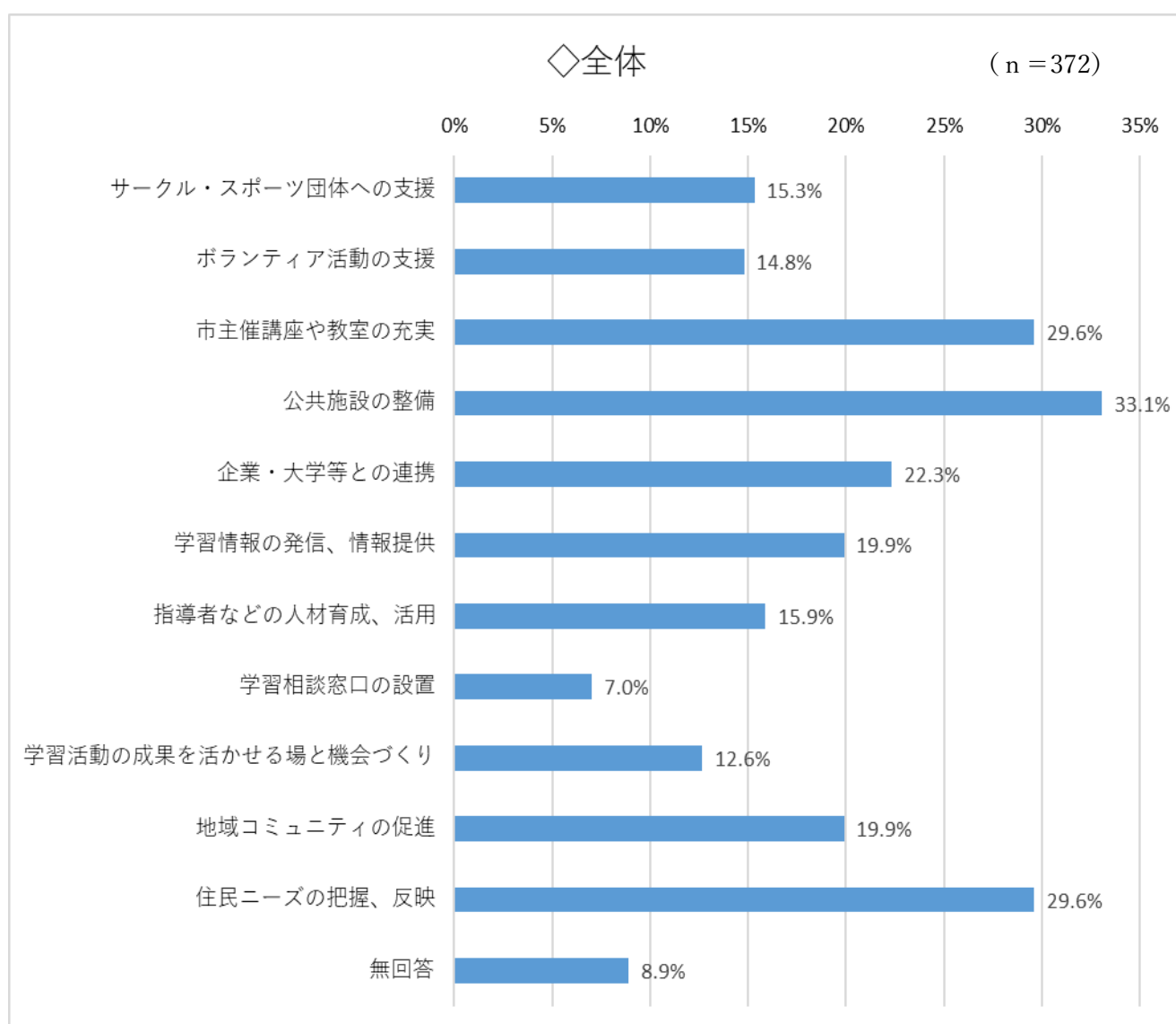
「公共施設の整備」（33.1%）、「市主催の講座や教室の充実」と「住民ニーズの把握、反映」（29.6%）の順となりました。

年代別でみると、「企業・大学等との連携」と回答した割合は、18歳～40歳代で高い数値となりました。

職業別にみると、「公共施設の整備」、「企業・大学等との連携」と回答した割合は、学生で突出して高くなりました。

地区別にみると、「公共施設の整備」と回答した割合は、西部地区で41.9%と高い数値となりました。

調査結果から、住民のニーズにそった施設整備や講座・教室などの事業展開に力をいれるほか、企業・大学の専門的な知見を、地域コミュニティの促進や地域課題の解決に供するため、包括的な連携に注力していくことが必要です。



《上位4項目集計＊性別・年代別・職業別・地区別》

